

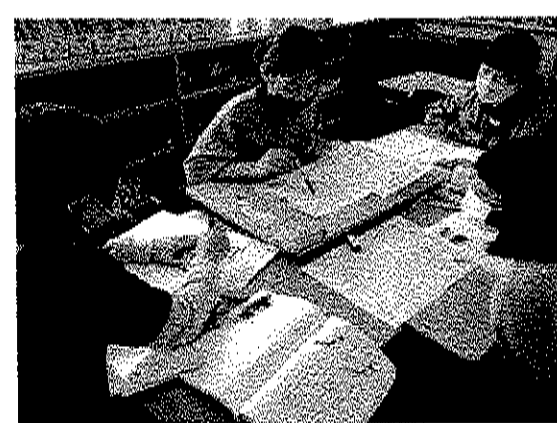
令和2年度 佐賀県教育委員会指定事業【教育課程】

研究紀要

研究主題

主体的に考え、判断し、行動する児童の育成

～資質・能力の育成を目指した教科横断型カリキュラム・マネジメントを通して～



佐賀県唐津市立簗木小学校

令和2年度 唐津市立簗木小学校 研究紀要目次

I 研究の概要	1～4 ページ
II 研究の実際	
1 学習指導要領を踏まえた理論研究	
ア 全体研修会や3部会、上・下学年部会での理論研究	5ページ
イ 講師招聘による全体研修会	6 ページ
2 授業実践	7 ページ
(1) 下学年グループ実践	
・ 1年生活科	8～13 ページ
・ 2年国語科	14～18 ページ
・ 3年国語科	19～23 ページ
・ 3年理科	24～29 ページ
(2) 上学年グループ実践	
・ 4年国語科	30～35 ページ
・ 5年国語科	36～40 ページ
・ たんぽぽレインボータイム	41～45 ページ
・ 6年国語科	46～51 ページ
3 専門部実践	
(1) 学びづくり部実践	
ア 教育課程編成と合科・関連的単元構想・授業づくり方策	52～53 ページ
イ 指導案形式	54～57 ページ
ウ 司会レベル・GWレベル系統表	58 ページ
エ 成果と課題	59 ページ
(2) 心づくり部実践	
ア 学校行事での学びの発揮・キャリアパスポート	60～62 ページ
イ 成果と課題	63 ページ
(3) 環境づくり部実践	
ア 環境づくり部通信「うったん学習通信」	64～68 ページ
イ 成果と課題	69 ページ
4 よりよい学校にするためのアンケート結果と分析	
(1) 児童アンケートの結果と分析	70～71 ページ
(2) 保護者アンケートの結果と分析	72～74 ページ
III 成果と展望	75～81 ページ

I 研究の概要



I 研究の概要

1 研究主題名 主体的に考え、判断し、行動する児童の育成

～資質・能力の育成を目指した教科横断的なカリキュラム・マネジメントを通して～

2 研究主題設定の趣旨

私たちの社会には、環境問題、食糧問題、資源・エネルギー問題、人権と平和の問題など国境を越えての連帯と賢明な調整が必要な正解のない難問が山積している。そこでは、一人ひとりが自立した人間として多様な他者と協働し、状況の変化に創造的に対応していく資質・能力の育成が求められている。そのため、学習指導要領総則では、教科の目標として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を挙げて「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」の視点が述べられている。

本校が目指す児童像は「自ら課題を見つけ、考え、学んだことを活用しながら探究する子ども」である。そして、本校では平成28年度より4年間、各教科等における記述力の土台となる言語操作力と思考操作力を育成するために「レインボータイム」を設定し、カリキュラムと授業開発に取り組んできた。その成果として、ねらいや条件に沿った記述や読み手が分かりやすい表現・記述を意識する児童が増え、教師自身も様々な教科等で言語操作と思考操作を働かせる指導を行なうことができるようになってきた。課題としては、主体的・対話的な学びを生み出すためにより実生活に関わる学習課題を設定し、解決に向けた探究活動の成果を振り返って次の学びにつなげる工夫、言語操作力・思考操作力と各教科の知識・技能等を関連付けて深い学びへつなげる手立ての構築が挙げられる。

そこで、学習指導要領の実施初年度に当たる研究一年次は、育成すべき資質・能力を総合的に活用・発揮される教科横断的な教育課程を実施し、単元構想・授業作りの実践を通して教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを行っていく。

具体的には、これまで培ってきた言語操作力と思考操作力を、学習の基盤となる資質・能力として学習指導要領総則に示された「言語能力」「情報活用能力」として再構築し、「資質・能力」「学習活動」「学習内容」を関連付け、単元や時間のまとまり、重点の置き方に工夫をして教育課程を整理する。そして、合科的・関連的な単元の中で各教科の見方・考え方や知識・技能をつなげて思考・判断・表現に活かす場面を効果的に設定した授業作りを行っていく。さらに、特別活動の各活動・学校行事等においても他者と対話しながら学びを活用し、実生活での行動化を生み出す工夫をし、学びの可視化や検証を通してPDCAサイクルの確立を図る。

資質・能力育成を目指した教科横断的なカリキュラム・マネジメントを通して、課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性と、自らの考えを広げ深める力の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性と、自らの考えを広げ深める力を育成するために、資質・能力育成を目指した合科的・関連的な単元を構想し、各教科等の見方・考え方や知識・技能を効果的に活用・発揮させる授業実践を通してカリキュラム・マネジメントの在り方を探る。

4 研究の仮説

学んだ各教科の見方・考え方や知識・技能が効果的に活用・発揮できるように、合科的・関連的な単元を構想して授業実践を行えば、課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす主体性を持ち、自らの考えを広げ深めようとする児童を育成することができるであろう。

5 研究の内容と方法

(1) 学習指導要領を踏まえた理論研究

- ア 全体研修会や3部会（学びづくり・心づくり・環境づくり部会）、上・下学年部会での理論研究
- イ 講師招聘による全体研修会

(2) 教科横断的な視点で各教科の指導内容を体系化し、育てたい資質・能力を総合的に活用・発揮される場面を設定した授業の実践と検証

- ア 育てたい資質・能力と各教科の見方・考え方や学習活動・学習内容の関連付け・整理

- イ 資質・能力を総合的に活用・発揮される授業実践とワークシートのストック化
- ウ 授業実践を集約し、成果と課題を分析し、改善して次の学びへつなげるPDCAサイクルの実施
- エ 児童の実態把握と児童の意識調査（9月・12月）・学校評価（6月・11月）結果の分析・検証

(3) 特別活動の各活動、学校行事等において、学びを活用・発揮する場面を工夫することで実生活での行動化へつなげる主体性を育む実践と検証

ア 特別活動の各活動、学校行事等の学習活動の整理

イ キャリア・パスポートの開発・活用

ウ 教育活動の集約、成果と課題の分析

(4) 児童の学びを可視化し、次の学びへつなげる学習環境づくりと地域・保護者への情報発信

ア 児童の生活時間改善や家庭学習習慣作りに向けての取り組み

イ 育てたい資質・能力の共有化や家庭学習習慣作りへ向けて家庭との連携を目指し、学びの成果物の紹介などを定期的に情報発信する地域・保護者への広報活動

6 研究の構想

(1) 「主体的に考え、判断し、行動する児童の育成」の実現に向けて

ア 育成すべき資質・能力「進んで学び続ける力」「自ら考えを深め広げる力」の設定

前年度の学力調査結果や学校評価アンケートから児童の実態を把握し、上・下学年部会で授業実践や悩みを出し合い、本校が育成を目指す児童像を授業レベルに具体化し、「進んで学び続ける姿」「自ら考えを深め広げ、深める姿」と設定した。

イ 「進んで学び続ける」とは

「進んで学び続ける」とは、「児童が課題解決の見通しをもち、主体的に学び、学びの成果を発揮する」姿である。

まず、学びの出発として「何を理解し、何を学ぶのか」を意識し、これまでの学びを振り返り気付きを手がかりに学習課題を立てる姿、学習計画を立てて見通しをもつ姿である。

そして、「学びをどう使い、どのように社会と関わるか」を意識し、各教科の知識・見方・考え方の広がりや深まりを生活や学校行事、地域での発信へつなげる姿、そして新たな問いへつなげる姿である。「進んで学び続ける」姿、その具体的な児童の言葉を次に示す。(表1)

表1 「進んで学び続ける姿」と「具体的な児童の言葉」

進んで学び続ける姿	具体的な児童の言葉
○ 学習計画を基に課題解決に向けて見通しを持って追求し、粘り強く取り組んだり、自らの学びを調整したりしている。	・「このことは知っている。だけど・・・」 ・「こんな力を使えるようになろう。」 ・「この方法で解決しよう。」 ・「違う方法でやってみよう。」
○ 各教科の見方・考え方や知識・技能を学ぶ目的意識や相手意識を持ちながら学び、その過程を振り返り、次の学びや実生活に生かそうとしている。	・「国語で学んだ説明ポイントを使ったら分かりやすい。」 ・「～の時はどうだろう。もっと調べよう。」 ・「学んだこの方法は家でも使えるな。」
○ 特別活動や学校行事、生活の場面、状況に応じて学びの成果を適応させて発揮している。	・「学んだ技を使って町のよさを地域の人に発信しよう。」

ウ 「自ら考えを広げ深める」とは

「自ら考えを広げ深める」とは、「児童が各教科の見方・考え方や知識・技能、他者との対話をつなげて思考・判断・表現に活かす」姿である。

まず、「学びの深化」として「理解していること、できることをどう使うか」を意識し、既習内容や教科の知識や見方・考え方を関連付けたり、他者との対話を通して多面的な視点から考えを練り直したりして考えを再構築する姿である。

「自ら考えを広げ深める」姿、その具体的な児童の言葉を次に示す。(次頁表2)

表2 「自ら考えを広げ深める姿」と「具体的な児童の言葉」

自ら考えを広げ深める姿	具体的な児童の言葉
○ まず、自分なりの考えをもつこと、そして他者との対話を通して多様な考えを知ること で自分の考えを再構築している。	・「自分とは違う友達の考えのよさは・・・」 ・「友だちの考えを使うと速く簡単にできた。」 ・「この方法はいいな。次はやってみよう。」
○ 学んだ各教科の見方・考え方や知識・技能 を関連付けて思考し、目的や相手に応じてより よい表現や方法を選んだり、理由や根拠を 明らかにしたり、場面や状況に応じてよりよ い考えを導き出している。	・「表に整理して比べると分かりやすい。」 ・「～と関連付けると・・・の特徴が説明できる。」 ・「理由は、～で調べると、・・・という結果だっ たからです。」 ・「グラフのこの部分に注目すると～ということが わかる。だから・・・だといえる。」
○ 経験や既習内容を生かし、考えをより良く 伝えるための工夫をして、文章を書いたり、 図や表、絵等に表したりしている。	・「1年生に分かりやすく伝えるために短い言葉で 絵も描こう。」 ・「キーワードを目立つ色で書こう。」

エ 「進んで学び続け、自ら考えを広げ深める」ための方策とイメージ図

児童が「進んで学び続ける」ためには、学びの発端として児童に必要感を感じさせる課題設定と獲得した学びをより効果的に発揮することができるような学習のゴールを設定することが重要である。そこで、「進んで学び続ける」ための方策として、合科・関連的単元構想や学びの実生活での行動化を生み出す特別活動・学校行事の工夫を進める。

そして、児童が「自ら考えを広げ深める」ためには、各教科の見方・考え方や知識・技能、他者との対話をつなげて思考し、目的や相手に応じてよりよい考えを判断し、分かりやすく伝えるために表現の工夫することを児童に意識させる授業づくりをしていく必要がある。そこで、「自ら考えを広げ深める」ための方策として、各教科の見方・考え方や知識・技能、他者との対話をつなげて関連付け・整理・表現する場面を視覚化する工夫を進める。

合科・関連的単元構想と思考を関連付け・整理・表現の視覚化による授業改善、特別活動や学校行事での学びの発信・発揮への関連をイメージ図に示す。(図1)

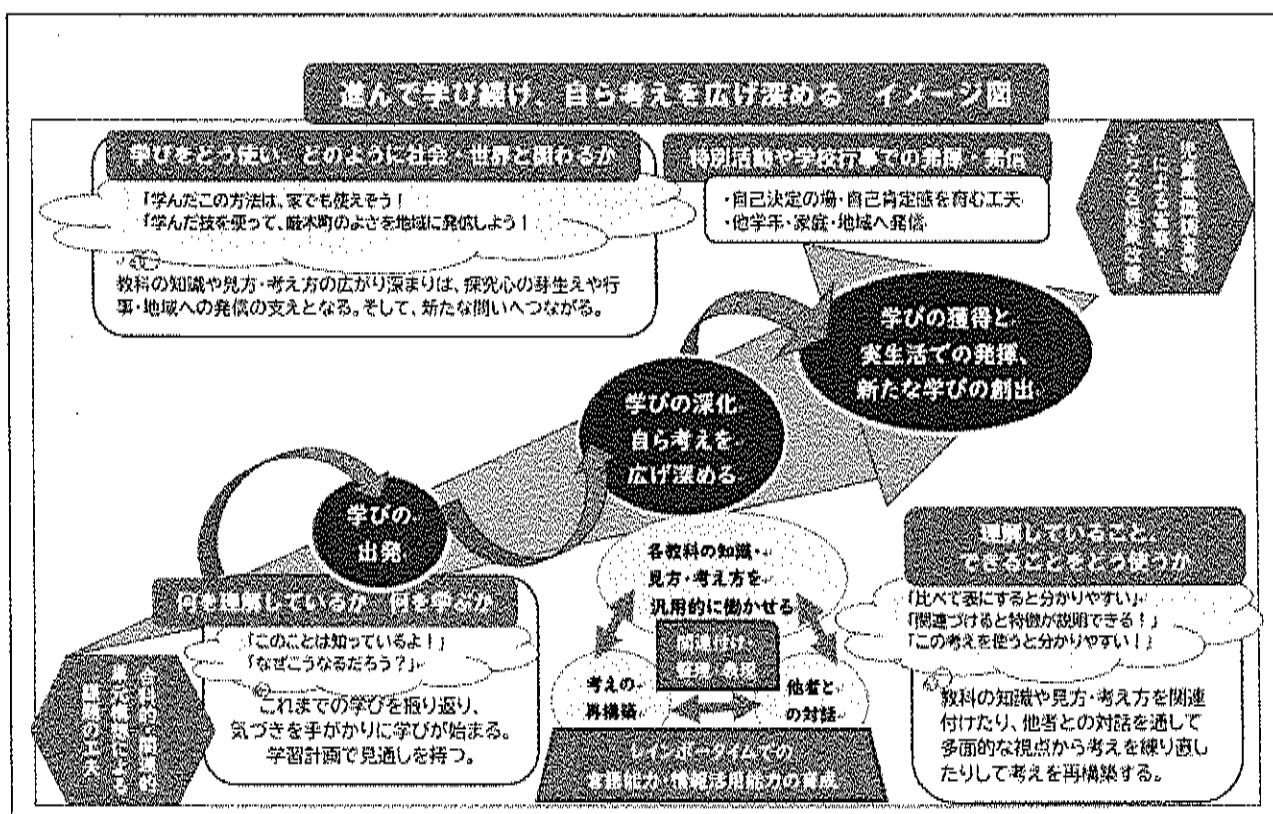


図1 「進んで学び続け、自ら考えを広げ深める」イメージ

(4) 研究組織

ア 3部の連携を軸とした 研究推進体制の構築

校長の学校経営方針を踏まえ、教職員がビジョンをもち、具体的な授業改善や学校行事等の工夫等に向かうことができるように研究構想図を作成した。(図2)

また、教職員が参画意識をもち、それぞれの強みを発揮できるように専門部を「学びづくり」「心づくり」「環境づくり」の3部編成とした。

また、管理職と指導教諭と専門部の3部長で組織した推進委員会を立ち上げ、各部の取り組み状況や課題を共有する連携体制を強化した。指導教諭は、教育課程研究主任として教育課程全体のマネジメントを、学びづくり部主任を授業研究部主任として授業づくりのマネジメントを行うことで研究推進の焦点化を図った。



図2 研究構想図

イ 専門部3部の役割分担

「学びづくり」部は、授業改善に関する担当として研究内容の(2)を、「心づくり」部は、特別活動や学校行事の担当として研究内容を(3)を、「環境づくり」部は、学習環境作りと地域・保護者への情報発信と担当としての研究内容の(4)を推進するようにした。

ウ 授業づくりを支える上・下学年部会

児童の実態把握、発達段階の理解とそれに応じた授業実践を行うことでより効果的な授業改善を目指すこととした。そのために、上学年部会を校長と4・5・6年生担任、特別支援学級担任で、下学年部会を教頭と指導教諭、1・2・3年生担任と養護教諭で構成した。上・下学年部会で授業実践の成果や課題の共有、手立てを協議し、指導案検討会、相互授業参観とその後の授業研究会を積み重ねることでPDCAサイクルを構築していくこととした。(図3)

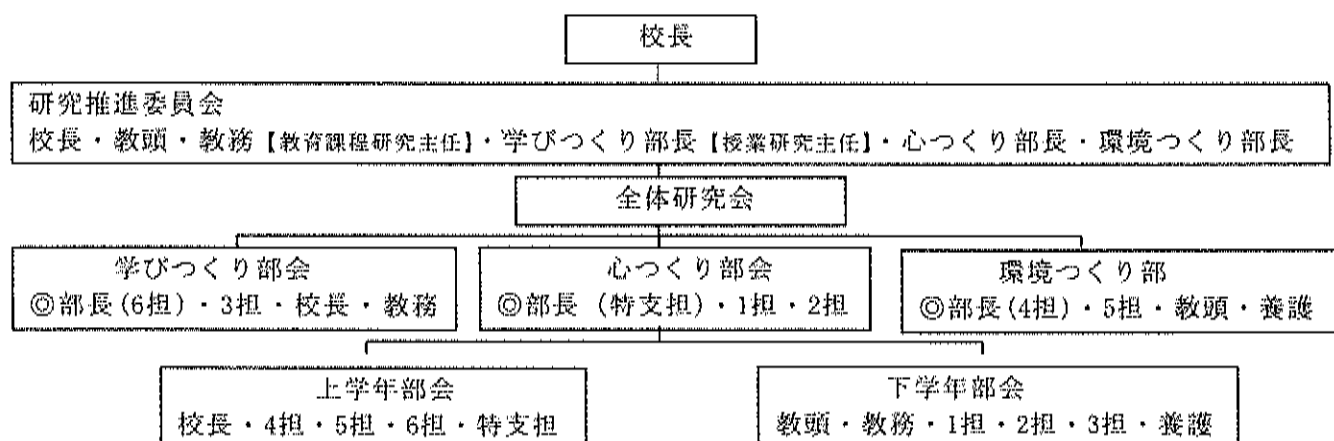
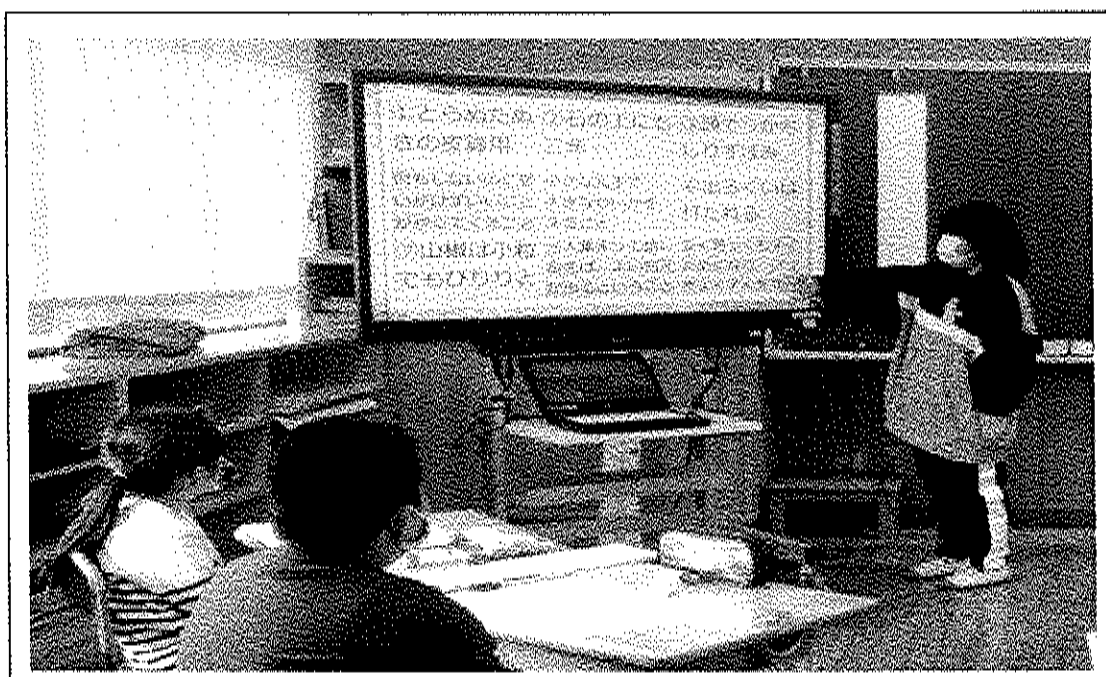


図3 研究組織図

Ⅱ 研究の実際



Ⅱ 研究の実際

1 学習指導要領を踏まえた理論研究

ア 全体研修会や3部会（学びづくり・心づくり・環境づくり部会）、上・下学年部会での理論研究

全体研修会では、「レインボータイム」の実践などこれまでの校内研究の確認と学習指導要領を踏まえた理論研究を行うことで、資質・能力育成を目指した教科横断的なカリキュラム・マネジメントへの職員の共通理解を深めた。本年度の研究実践内容を以下に示す。（表3）

表3 令和2年度研究実践内容

月	日	研究内容	
4	7	○第1回全体会（学び部より「レインボータイム」のねらい・カリキュラムの提案） ●上・下学年部会（児童の実態把握、レインボータイムの内容協議）	Plan
	14	○第2回全体会（理論研究：「社会に開かれた教育課程」「資質・能力と教科横断的な視点から再編成した教育課程提示」）	共通理解
	28	◆第1回研究推進委員会（研究計画の協議、研究指定の概要、内容や方法、組織等）	Plan
5	7	◆第2回研究推進委員会（研究計画の修正と協議）	Plan
	8	○第3回全体会（研究計画の提案と協議、「学び」「心」「環境」3部会の役割） ■3部会（研究内容と役割分担協議）	共通理解
	27	○第4回全体会（合科・関連的単元と授業構想） ☆個人研修（合科・関連的単元配列計画を踏まえた授業構想）	Do
6	10	○第5回全体会（児童・保護者対象アンケート項目提案・検討 国語科 新設「情報の扱い方」についてのミニ研修） ■3部会（学び：指導案形式検討 情報活用能力・情報モラル系統表検討 （心： キャリアパスポートの開発・活用方法 （環境： 地域・保護者への情報発信の内容・分担協議 厳木中学校区「生活の7つ約束」に関する取り組み）	共通理解 Action
7	21	○第6回全体会（児童・保護者対象アンケート結果と分析） ●上・下学年部会（1学期授業実践、レインボータイムの実践・系統、ワークシートの在り方についての意見交流） ■3部会（児童・保護者対象アンケート結果分析から今後の取り組み検討）	Check 共通理解
8	4	○第7回全体会（講師招聘研修会【講師：佐賀市立兵庫小学校 井手俊宏教諭】）	共通理解
	26	○第8回全体会（3部会報告：1学期アンケート分析から2学期の取り組むこと） ●上・下学年部会（授業研究会に向けて指導案検討会①：単元構想、手だてなど）	共通理解
9	30	○第9回全体会（指導案・ワークシート検討の視点提示 出張報告（本庄小学校国語科研究授業から単元開きについて） ●上・下学年部会（授業研究会に向けて指導案検討会②本時展開、GWの具体化）	Action Plan
10	7	○第10回全体会（令和2年度全国学力・学習状況調査【小6国語・算数】誤答分析 （成果と課題、今後の対策 学力向上対策シート【中間評価共通理解】） ☆個人研修（授業公開に向けたワークシート修正や環境整備）	Check Action
	26	◆第3回研究推進委員会（ワークショップ型授業研究会での協議の柱、役割分担）	Plan
	28	○第11回全体会（相互授業参観での「授業のみのりシート」活用、 上・下部会ワークショップ型授業研究会での協議の柱、分担）	Do
11	16	○第12回全体会（相互授業参観、上・下部会ワークショップ型授業研究会 師による指導助言【講師：西部教育事務所北部支所 牛草美佳先生】	Check
	19	◆第4回研究推進委員会（研究紀要作成に関わる計画、役割分担検討）	共通理解
	25	○第13回全体会（上・下部会ワークショップ型授業研究会報告、研究紀要作成 にかかわる計画提案、研究紀要目次項目、役割分担提案）	共通理解
12	9	○第14回全体会（児童・保護者対象アンケート結果分析、成果と課題、今後の対策） ■3部会（研究紀要作成に向けて内容検討、分担確認） ●上・下部会（合科・関連的単元配列計画見直し・修正・地域人材リスト更新）	Check Action
1	27	○第15回全体会（合科・関連的単元計画修正版・地域人材リスト修正版共通理解） ○3部会（研究紀要 分担原稿持ち寄り→専門部の成果と課題確認）	共通理解
2	1	◆第5回研究推進委員会（研究成果と課題確認 職員アンケートから次年度方向性協議）	共通理解
2	3	○第16回全体会（研究まとめの会 成果と課題確認 次年度方向性確認）	

2 授業実践

令和2年度は、研究主題に基づき、合科・関連的単元を構想し、学んだ知識・技能や見方・考え方を効果的に活用する授業づくりに取り組み、児童の進んで学び続ける力と自らの考えを広げ深める力の育成の在り方を探った。

学年	教科等	単元名	教材名	他教科との つながり	授業者
1年	生活科	あきのたからものをさがしてしょうかいする「うつぼぎミニおまつり」をひらこう	「あきとなかよし」	道徳科 国語科 レインボータイム	佐藤 まり
2年	国語科	1年生が喜ぶおもちゃまつりを開くために、聞く人が分かりやすい説明の技を身に付けよう	「おもちゃの作り方を説明しよう」	生活科 レインボータイム	白木 佳子
3年	国語科	びったりのことわざでつたえよう	「つたわる言葉 ことわざ・故事成語」	道徳科・社会科 総合的な学習 特別活動 レインボータイム	千住 美貴
3年	理科	くらべながら電気を通す道づくり名人になり、豆電球の明かりがつくおもちゃを作って、2年生にしようかいしよう	「電気の通り道」	国語科 算数科 レインボータイム	小野 単子
4年	国語科	言葉のつながりに着目して、相手に伝わる文章を書こう	「つながりに気をつけよう」	社会科 総合的な学習 理科	中島 悠作
5年	国語科	資料を活用した文章を読んで、図、表、グラフが持つ効果についてまとめ、意見文を書く活動に生かそう	「固有種が教えてくれること」	算数科・社会科 総合的な学習 レインボータイム	古舘 大輔
6年	国語科	表現の工夫を捉え、読み手に伝わりやすくなる文章にするポイントを整理しよう	『鳥獣戯画』を読む」	社会科・図工科 総合的な学習 レインボータイム	円城寺理絵
特支	レインボータイム	みんなで楽しめる「たんぼぼお楽しみ会」をしよう	自作モデル文 「まとあてゲームの遊び方」	自立活動の時間 国語科	吉原 逸子

成果と課題は、授業づくりの3つの重点方策のうち、以下に示す2点を授業研究会の協議の柱とし、振り返りを行った。

- (1) 単元構想や課題、導入学習の工夫が見られたか
- (2) グループワーク・クラスワークでの話し合いでは視覚化の工夫が見られたか

(1) 下学年グループ実践

ア 指導案

第1学年1組 生活科学習指導案

令和2年11月16日(月) 2校時

場所: 1年生教室、児童数: 15名

指導者: 教諭 佐藤 まり

《单元名》 あきのたからものをさがして、しょうかいする、「うつぼぎミニおまつり」をひらこう。

《教材名》 「あきとなかよし」(『わくわく せいかつ 上』啓林館)

《時間数》 全15時間 本時8/15時間

1 单元について

(1) 他教科との関わりと児童の実態

この单元では、秋の運動場や身の回りの場所で散歩したり遊んだりする活動を通して、季節が変化したこと気付くとともに、木の葉や木の実などの自然物を使ってみんなで工夫して生活に役立つものを作ったり、遊びに使うものを作ったりして、伝え合うことで、「秋の素敵さ」を楽しむことができるようになることをねらいとしている。

教材「あきとなかよし」では、「春」「夏」と比較することで、季節の変化と実りの多い「秋」を取り巻く生活について気付かせる。そして、学習のゴールに「おまつり」を設定することで、目的意識や相手意識を持ちながら、意欲的に準備や活動を進められるようにする。また、地域の中で大切に守られている環境にも触れることで、公共物や公共施設の利用についてのルールやマナーも学べると考える。

本学級の児童は、「春」や「夏」の探検で、生き物や植物、生活の様子や行事についての気づきを探して発表することができている。また、それぞれの季節ならではの、観察や遊びも体験している。本单元では、今までの学習で見つけたものを「比べる力」を用いて図にして比べることで、「秋」特有の良さに気づくことができる。また、「あきのたからもの」と題して、国語の「しらせたいな、みせたいな」を関連付け、見つけた秋の恵みを詳しく伝える方法を学び、それを、もっと多くの人にも伝えたいという思いを持って、お祭りの計画や準備、実施を楽しみながらできるようにしたい。

【他教科とのつながり】

道徳

1年6月「つばめ」(自然環境)

・身近な生き物と接した経験を思い出し、やさしく接することの楽しさや良さに気付く。

国語

1年6月「大きくなった」

観察したことをみんなに話そう。

・身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを書いたりする力。

国語

1年10月「しらせたいな みせたいな」 相手に分かりやすく伝える工夫を操そう。

・対象をよく見て、見つけたことを簡単な語句で書く力。
・読み手を意識して、文章を書いた後、句読点や「は」「を」「へ」の使い方を確かめる力。

生活科

1年2月「もうすぐ2年生」

「ようこそ 福木小学校へ」会を開こう。
・友達と協力して、新しい1年生に喜んでもらえるような会の計画、準備、実施をしようとしている。

【レインボータイム】

観察文の書き方
比べる力
選ぶ力

比べる力
分類する力
選ぶ力
推敲の力

【本单元へのつながり】

生活科

1年4月「いくぞ! がっこう たんけんたい」 運動場の周りにある「春」を探して、見つけたことを紹介しよう。

・運動場の動植物に関心をもち、友達と仲良く探そうとしている。

生活科

1年5月「げんきにそだて わたしの はな」 花を育てて観察して、秘密を見つけよう。

・愛情を持って世話をすることで、植物の変化(生長)や秘密を見つけようとしている。

生活科

1年6月「なつと なかよし」

運動場や家の周りにある「夏」を探して遊ぼう。
・夏の遊びを考え、条件に合う物を選んで、みんなで遊ぼうとしている。

生活科

1年10月「あきと なかよし」 運動場や地域にある「秋の宝物」を探して、紹介するお祭りを開こう。

・季節を比べて、分類しようとしている。
・見つけた秋の宝物を分かりやすく紹介し、それを利用したお祭りを計画しようとしている。

生活科

1年1月「ふゆと なかよし」

「冬」の遊びを探して、楽しもう。

・冬の遊びを探し、友達と交流しながら、楽しむことができる。

2 単元の目標

- 自然と触れ合ったり、関わったりすることを通して、自然に親しみ、自然を大切にする気持ちを持つことができる。
- 自然と触れ合いながら、身近な自然を利用し、みんなと楽しみながら、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができる。
- 自分たちが調べたり、作ったりしたものを身近な人と伝え合う楽しさを感じることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることについて知っている。 ② 地域の公共の場でのマナーや約束の必要性を分かり、守ろうとしている。 ③ 上級生や先生方など身近な人と関わることのよさや楽しさが分かっている。
思考・判断・表現	① 身近な自然を観察することで、季節や場所による違いや特徴を見付けている。 ② 身近な自然や身近にある物を使って、遊びや遊びに使うものを工夫して作っている。 ③ 相手のことを想像して、伝えたいことや伝え方を選んで伝えようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで話し合いに参加し、学習の計画を立てようとしている。 ② みんなと楽しみながら、楽しいお祭りを創り出そうとしている。 ③ 進んで触れ合い交流しようとしている。

4 単元の授業過程（全15時間 本時8／15時間）

〔他教科とのつながり〕

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法	
一 次	1	○春や夏の学校周辺の自然を思い出す。 ○春や夏の生き物や植物、生活の様子などを表にまとめて整理する。	【知】春と夏の自然の様子を思い出しながら、変化を分類して、整理しようとしている。〔発言分析・行動観察〕	レインボー タイム 「分類する力」
	2	○秋になって、身の回りで感じられる変化について話し合う。	【知】秋になって、自然の様子や生活が変わってきていることに気付いている。 〔発言分析・気づきカード〕	
	3	○国語科「しらせたいな 見せたいな」の学習と関連付けながら、「秋の宝物」を紹介する学習課題と学習計画を立て、活動の見通しを持つ。	【主】進んで話し合いに参加し、学習の見通しを持って、計画を立てる話し合いに参加している。〔行動観察・発言分析〕	
	4	秋を探す。（パート1：校庭）		
	5	○校庭での秋探しの約束を確認する。 ○校庭に出て、秋を探したり、落ち葉や木の実を集めたりする。 ○春や夏の様子と比べながら、見つけた秋を紹介する。	【主】秋の植物や生き物に関心をもち、校庭の様子の変化を探そうとしている。 〔行動観察・発言分析〕 【思】見つけた秋をイラストカードに書いて紹介しようとしている。 〔イラストカード・発言分析〕	レインボー タイム 「比べる力」

二次	6	もっと秋を探す。(パート2：環境芸術の森)	【知】公共の場所のルールやマナーを守ることの大切さに気付いている。 [行動観察・発言分析]	レインボー タイム 「比べる力」
	7	○環境芸術の森での秋探しの持ち物や約束を確認する。 ○校庭と比べながら、秋を探したり、落ち葉や木の実を集めたりする。 ○物を種類ごとに分け、箱に入れて整理する。	【思】複数の場所を探検し、違いや特徴を見つけている。[行動観察・発言分析] 【思】木の实や落ち葉をじっくり観察したり、比べたりして、特徴を捉えたり、秋らしさを考えたりしている。 [対話分析・発言分析・行動観察]	
	8 本時	○今まで見つけた秋の宝物の中から、みんなに紹介したい物を選ぶ。 ○「秋の宝物」を分かりやすく紹介する。 ○友達が見つけた「秋の宝物」について、良さを見つけて、交流する。	【主】秋の植物や生き物に関心を持ち、自分の紹介したい秋の宝物を見つけようとしている。[行動観察・発言分析] 【思】自分が見つけた「秋の宝物」の良さを、たくさん紹介しようとしている。 [ワークシート・発言分析]	レインボー タイム 「選ぶ力」
	9	○見つけた秋の宝物を使って、お祭りを開くための計画を立てる。	【主】お祭りを開くために必要な役割を話し合ったり、準備をしたりして、みんなと協力をして秋を楽しもうとしている。 [発言分析・行動観察]	国語 「しらせたいな 見せたいな」
	10	○集めてきた落ち葉や木の实を使った、おもちゃ作りやお店のイメージを持つ。	【思】比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の宝物を使って遊ぶ物や生活に役立つ物を工夫して作っている。 [発言分析・行動観察・作品]	
	11	○場の設定をし、役割分担をしながら、お祭りの準備をする。	【主】友達の良さを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、お祭りを楽しくしようとしている。 [行動観察・作品]	レインボー タイム 「推敲の力」
	12	○準備ができたら、友達に発表しながら、意見を出し合って、修正をしていく。		
	13	○おもちゃの遊び方の説明や宝物の紹介が、分かりやすくできるか確認をする。	【思】お祭りに来てくれる人のことを考えながら、分かりやすく伝える工夫をしている。[行動観察]	
	14	○2年生を招待してブレお祭りを開く。	【主】進んで触れ合い、交流しようとしている。[行動観察]	
	15	○計画や準備の手直しをする。	【主】みんなが楽しむためのお祭りになっているか、意見を交流させている。 [行動観察]	
課外		○「うつぼぎミニおまつり」を開く。	【知】身近な人と関わることの楽しさが分かっている。[観察] 【知】秋を楽しむことを通して、秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。また、単元の振り返りをして、自分の頑張りと友達の頑張りに気付いている。	

5 本時の学習

○ 目標

自分が見つけた、あきのたからものを相手に伝えるために、複数の良さを紹介しようとしている。

○ 本時の評価規準

発見ポイントを使って、自分が紹介したいものの良さを複数伝えている。[ワークシート・観察]

○ 展開

前時の学習内容		○秋の宝物集めをして、国語で自分の紹介したいものの紹介の仕方を学習した。	
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はつきりさせる	① 司会者が、めあてや全体の学習の流れを確認する。	○ 学習司会と事前に打ち合わせをしておく。	学習計画表
	[めあて] じぶんが見つけた あきのたからもののよさを わかりやすく しょうかいしよう。		
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	② 教師の説明を聞き、今までの学習内容をふり返り、分かりやすく紹介するためのポイントを確認する。	○ より詳しく説明できるように、視点を示す。	発見ポイントカード
	③ 自分の紹介したいものについて、なるべく詳しく書く。 《予想される児童の反応》 ・私が見つけたどんぐりは、先がとがっていて、さわるとつるつるしています。色は、茶色です。 ・ぼくが見つけた銀杏の葉っぱは、緑と黄色がまざっていてきれいです。さわるとかさかさ音がします。 ④ グループで一人ずつ発表し、質問したり、感想を伝えたりしながら、宝物の良さを共有していく。 ⑤ 自分の宝物を全体場で、発表する。 ⑥ 友達の発表を聞いて、自分の紹介の参考にしたいと思ったところを書く。	○ 今まで学習した五感を使ってかくと良いことを確認する。 思考【広げる】 自分の宝物の良さをたくさん伝えるために、見方を広げる。 ○ 支援が必要な児童には、発見ポイントを示しながら、伝えたいことを考えるように促す。 ☆評価規準 発見ポイントを使って、自分が見つけた秋の宝物のよさを複数伝えようとしている。 ○ 友達の紹介の上手な点を意識しながら聞くように促す。 ○ 同じものの紹介でも、見方を変えると相手への伝わり方も違うということを確認する。 ○ 友達の発表の良いところは、参考にしていくように伝える。	ワークシート
まとめる	⑦ 司会者がまとめた後に、教師のまとめの補説を聞く。 ⑧ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。 《学習内容》 ・わかりやすく紹介するときは、宝物のいいところをたくさん言うといいです。 《学習方法》 ・発見ポイントをふやすと、たからもののいいところがたくさん見つかります。 ⑨ 次時の学習内容を確認する。	○ まとめ方の良かったところを話し、足りないところや分かりにくかったところがあれば説明する。 ○ 学習計画に基づき行う。	ワークシート 学習計画表

イ 研究の成果と課題

第1学年 生活科

「あきのたからものをさがしてしょうかいする『うつぼぎミニおまつり』をひらこう」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- ・ 今回の単元は、秋の宝物探しをし、それを用いたおもちゃやゲームを作り、お客さんをお祭りをするをゴールとした。児童と一緒に学習計画を立てることで、目的意識と相手意識を持たせ、学習意欲を持続させることができた（資料2）。
- ・ 活動の絵を描いたりおもちゃ作りをしたりする活動を図工で、五感を用いた箇条書きや説明文の書き方は国語で、わかりやすい表のまとめ方や観察文の書き方、感想語彙は、レインボータイムで補うという形で合科・関連的単元構成を考えることができた。
- ・ 季節の特徴や変化を見つける活動の継続であり、友達に話す春・友達と比べる夏・そして、友達に紹介する秋というように同じ活動をしながらも、自分たちの活動がレベルアップしている意識を持たせることで、児童は主体的に学習に取り組むことができた。

《課題》

- ・ この単元は、年間を貫いている単元である。また、生活科は、他教科との関わりや日常生活で生かせる内容が多い。そのため、国語の他の単元や算数の単元も組み入れるように、合科・関連的単元構成を早めに計画し、学習内容や進度を調整していく必要がある。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

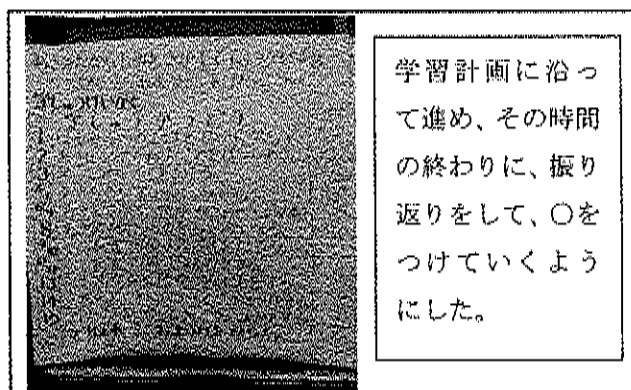
《成果》

- ・ これまでの学習を思い出し、表にまとめることで、変化や違い、秋の探し方を視覚的に捉えることができた（資料3）。
- ・ 自分の紹介したいものを分かりやすく説明するためのワークシート1と友達の紹介を聞いて○をつけるワークシート2に分けたことで、話す・聞くそれぞれに集中することができた。また、ワークシート2の表にまとめることで、比べやすくなり、グループワークをスムーズに進める手助けとなっていた（資料4、5、6）。
- ・ 五感マークを用いたことで、だれが、どんな観点（発見ポイント）で紹介しているかが捉えやすくなり、たくさん書いた方が分かりやすい、発見ポイントを複数使った方がわかりやすいというまとめをすることができた（資料7）。

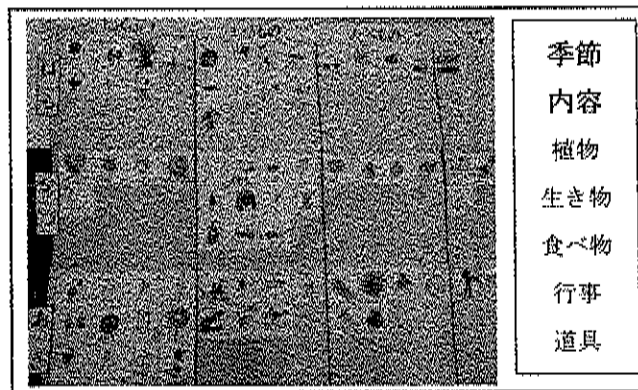
《課題》

- ・ 事前に国語の学習で説明の仕方や説明文の書き方を学習していたが、たくさん書こうとすると時間がかかってしまう。ぐんぐんタイムや家庭学習などの時間を用いて、PWのワークシートの書き方を再度復習しておく必要がある。
- ・ 早めに、国語とレインボータイムで推敲の学習（文字の間違いを訂正する）を位置付けておく。

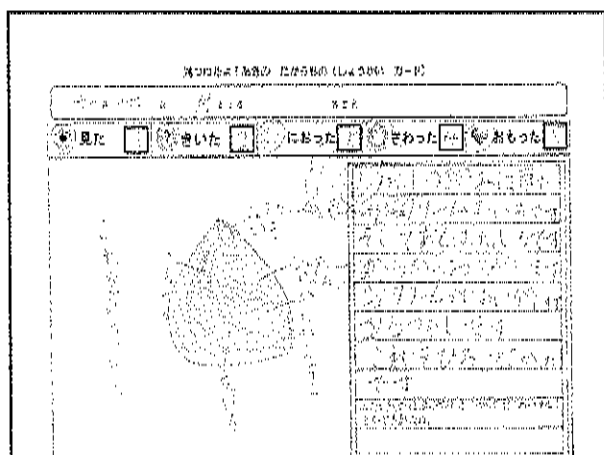
ウ 資料



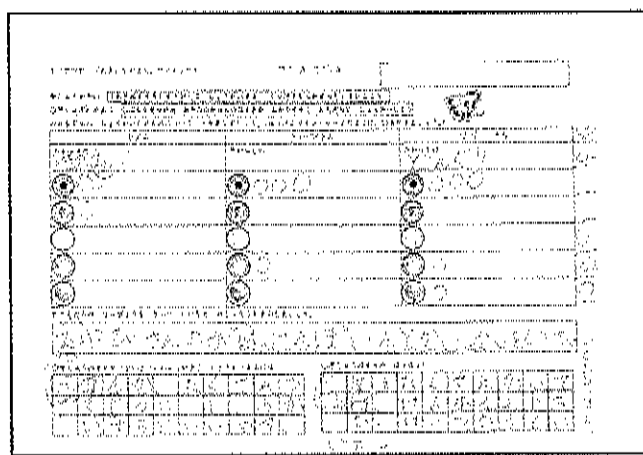
資料2 児童と考えた学習計画



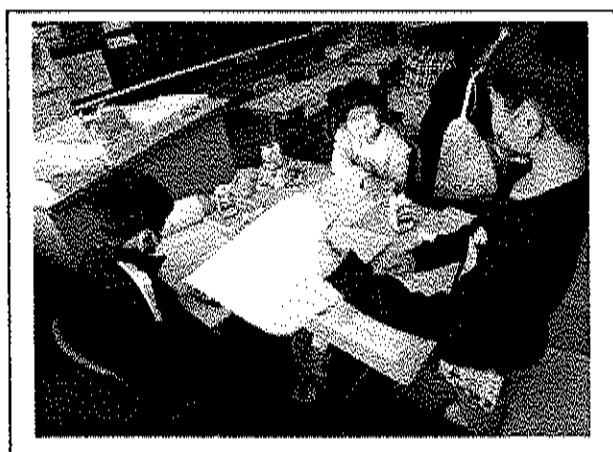
資料3 これまでの学習を分類・整理した表



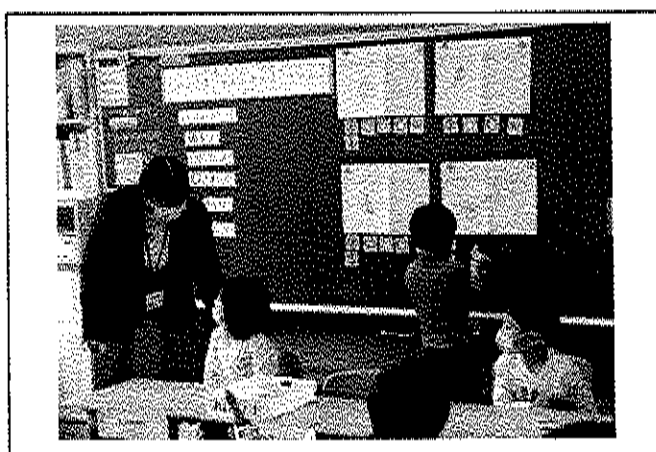
資料4 自分の紹介したいものを書いた
ワークシート1



資料5 友達の話した内容を書いて比べるための
ワークシート2



資料6 自分の書いたものを見せながら
紹介しているGW



資料7 五感マークをはりながら、どんな
紹介をしているか比べているCW

令和2年11月16日(月)3校時

場所:2年生教室,児童数:14名

指導者:教諭 白木 佳子

《单元名》 1年生が喜ぶおもちゃまつりを開くために、聞く人が分かりやすい説明の技を身に付けよう

《教材名》 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」(『国語 二下 たんぽぽ』光村図書)

《時間数》 全9時間 本時5/9時間

1 単元について

(1) 他教科との関わりと児童の実態

この単元では、本文から分かりやすい説明の工夫を読み取り、活用していくことと各教科等を貫くラーニングスキルの「相手に分かりやすく説明する力」を主に身に付けさせることをねらいとしている。

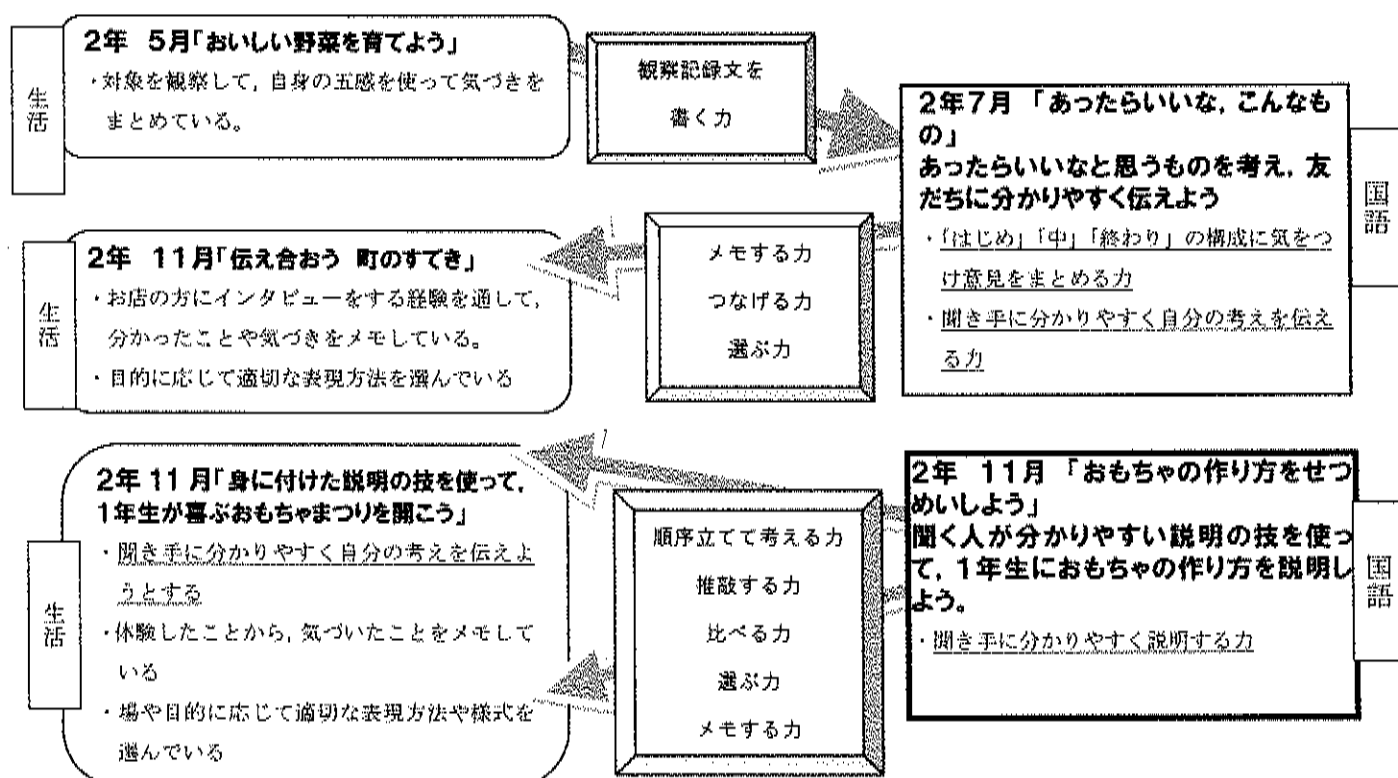
教材「馬のおもちゃの作り方」を読み解くことを通して、聞き手に分かりやすい説明をするためには、「まず」「つぎに」など順番を表す言葉を用いたり、写真や絵を話す言葉や文と関連づけながら説明したりすることができるようにする。また、生活科の「うごくうごくわたしのおもちゃ」と関連付けて、1年生におもちゃの作り方を説明する学習活動を通して、言葉の使い方や話す順番を工夫し、相手の反応を見ながら自分だけでなく他者に分かりやすい説明をすることができるようにする。

本学級の児童たちは7月の国語の単元「あったらいいな、こんなもの」の中で、自分が考えた道具を学級の友だちに発表するという体験を通して、聞き手に分かりやすく伝えるためのポイントを学習している。生活科の「おいしい野菜を育てよう」では、野菜の観察のポイントを学習し、詳しく説明するための方法を学んでいる。「伝え合おう 町のすてき」では、広用紙や新聞、劇などで学んだことをまとめ、発表する様子が予想される。本単元で学習した「相手に分かりやすく説明する力」を活かし、生活科や国語科で学んだことを表現できるようにしたい。

〔他教科とのつながり〕

〔レインボータイム〕

〔本単元へのつながり〕



2 単元の目標

- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えて読むことができる。
- 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えながら自分の意見を伝え合うことができる。
- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書くことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 事柄の順序や情報と情報の関係について理解している。
思考・判断・表現	① 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 ② 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで話し合いや活動に参加し、学習したことを活かして考えたことを書いたり伝え合おうとしたりする。

4 単元の授業過程（ 全9時間 本時5/9時間 ）

〔他教科とのつながり〕

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法	
一次	1	○これまでの学習をふり返る。 ○馬のおもちゃや身近な材料で作ったうごくおもちゃを提示し、学習の見通しを立てる。	【主】既習事項を思い出し、これから学習する事に見通しを持ち、進んで話し合いに参加している。〔観察〕	生活科 うごくうごくわたしのおもちゃ
	2	○学習課題を立てる。 ○学習課題をもとに学習計画を立てる。	【主】学習の見通しを持ち、学習計画を立てている。〔観察〕	
二次	3	○「馬のおもちゃ」を読んで、話の内容を読み取る。	【知】順番を表す言葉や、構成に気をつけ、内容を捉えている。←	レインボータイム 順序立てて考える力
	4	○「馬のおもちゃ」の話の大体の構成をつかむ。	【思】内容ごとに文章を分け、話の構成を捉えている。〔ワークシート・観察〕	
	5 本時	○分かりやすく説明するポイントを見つける。	【思】2つの文を比べることで、説明のポイントをまとめることができる。〔ワークシート〕 →	レインボータイム 比べる力
	6	○これまでの学びを生かした説明の文を書く。	【思】既習事項をもとに、聞き手が分かりやすい文章を書いている。〔ワークシート〕	
三次	7	○書いた説明文を学級の友だちに紹介し、互いに助言を行う。	【主】よりよい説明文にするために、進んで話し合いに参加している。〔観察〕	生活科 うごくうごくわたしのおもちゃ
	8	○1年生に作ったおもちゃの説明をする。	【思】書いた説明文をもとに、分かりやすく説明をしている。〔観察〕	
	9	○チェックシートの項目に沿って、学習のふり返りをする。	【知】学んだことを一般化することができる。〔観察・ワークシート〕 →	

5 本時の学習

○ 目標

2つの文章を比べることで、説明を分かりやすくするポイントをまとめることができる。

○ 本時の評価規準

2つの文章を比べることで、より説明が分かりやすくなるポイントを見つけ自分の言葉でまとめている。
[ワークシート]

○ 展開

前時の学習内容		○「おもちゃの作り方」を読み、話の大体を捉えた。		
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等	
はつきりさせる	① 司会者が、めあてや全体の学習の流れを確認する。 [めあて] 2つの文を比べて、分かりやすい説明のポイントをまとめよう。	○ 学習司会と事前に打ち合わせをし、学習の流れや意見のまとめ方を考えさせるようにする。	学習計画表	
	② 教師の説明を聞き、今までの学習内容をふり返り、本時の学習内容の確認をする。	○ 分かりやすい説明の文にはどんな言葉が使われているか、また、その言葉がある効果はどんなものか確認する。	ワークシート	
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	③ 2つの文を比べながら読み、よい文を選び、選んだ理由を付箋に書き出す。 ④ グループの司会が中心となって、説明が分かりやすくなるポイントを討論する。 《予想される児童の反応》 ・「まず」「つぎに」などの順番を表す言葉を使うことで次に何をするのが分かりやすくなります。 ・「～ですか」と呼びかける言葉を使うことで、読む人や聞く人が注目できると思います。 など	○ 片方の文にしかない言葉に着目し、分かりやすい文を選び、どのようなポイントがあるか考えさせる。 思考【比べる】 友達の考えと自分の考えを比べ、相違のもの、共通のものと分けまとめている。 ☆評価規準 2文を比べることで分かりやすい説明のポイントを見つけ、自分の言葉でまとめている。[発言分析・ワークシート] ポイントを見つけられない児童には、工夫と思う箇所にマーキングさせ、その効果を考えさせる。	ワークシート 付箋 学ボード	
	⑤ クラスで、グループの考えを発表し、分かりやすい説明のポイントをまとめたり、付加修正をしたりする。		学ボード	
	⑥ 司会がクラスで決まった説明のポイントを確認する。		黒板	
まとめる	⑦ 司会者がまとめた後に教師の補説を聞く。 ⑧ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。 《学習内容》 ・順番を表す言葉や、呼びかける言葉を使うと分かりやすい説明ができます。 《学習方法》 ・2つの文を比べることで、分かりやすい説明のポイントを見つけました。	○ 司会が述べたまとめに必要ながあれば付加修正をする。	ワークシート	
	⑨ 次時の学習内容を確認する。	○ 学習計画に基づき行う。	学習計画表	

イ 研究の成果と課題

第2学年 国語科

「1年生が喜ぶおもちゃまつりを開くために、聞く人が分かりやすい説明の技を身に付けよう」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- ・ 単元のゴールを生活科と関連させ、身の回りにある材料から作ったおもちゃのお祭りを開く活動を設定した。その作り方を1年生に紹介することで聞く人が分かりやすい説明の技を身に付ける必然性を持たせた。児童と話し合い、相手意識を持たせながら単元計画表を作成することで、児童は見通しや主体性を持ちながら説明の技を見つけ、友だちと意見を交流しながら学習を深めることができた（資料8）（資料9）。
- ・ 国語科「あったらいいな、こんなもの」で相手に分かりやすく自分の考えを伝える学習をしたことで聞き手がいるということを意識して学習に臨むことができていた。また、1・2年生で学習したレインボータイムの「比べる力」や「順序立てる力」「メモをする力」の学習を生かして、説明の技を見つけたり、説明の順番を考えたりすることができていた。

《課題》

- ・ 身に付けた説明の技は色々な学習と関連付け、繰り返し使っていくことで児童の本当の力となり身に付いていく。そのため、教師側もそのつながりを意識した学習を計画し意識して指導にあたっていく必要がある。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

《成果》

- ・ 児童と話し合い作成した単元計画表は、ワークシートに貼ったり教室に掲示したりしておくことで、児童は見通しを持って学習に臨むことができた（資料10）。
- ・ 聞き手にとって分かりやすい説明の技を身に付けるために、本単元では説明の技を使った文（ワークシートの上に配置）と使っていない文（ワークシートの下に配置）を比較することで、技を使うよさを見つけさせた（資料11）。児童は上下の文の違いに着目し付箋を使いながら上手に説明の技を見つけることができていた。見つけた技は全体で確認してから掲示し、ポイントシートにまとめてファイルに入れておくことで児童がいつでも確認できるようにした。
- ・ 掲示した説明の技やポイントシートを見ながら、おもちゃの説明文を書くことができていた。「まず」「つぎに」などの順番を表す言葉を使ったり絵を入れたり工夫しながら書いたり説明したりすることができていた（資料12）（資料13）。

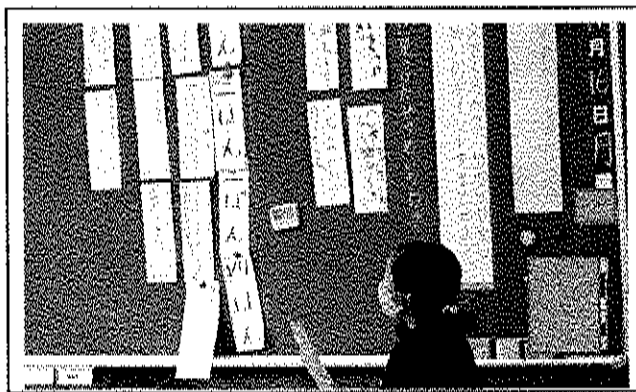
《課題》

- ・ 学習内容のまとめ・方法内容のまとめはまだ教師が助言をしないと時間内にまとめることが難しい。まとめる学習を何度も繰り返していくことで、児童だけでもまとめることができるようにしていきたい。

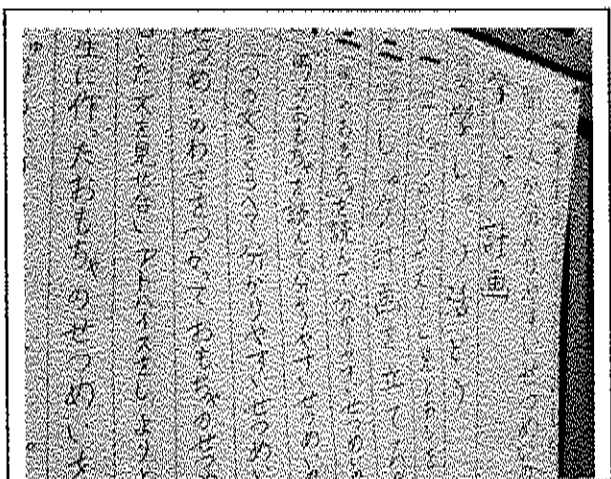
ウ 資料



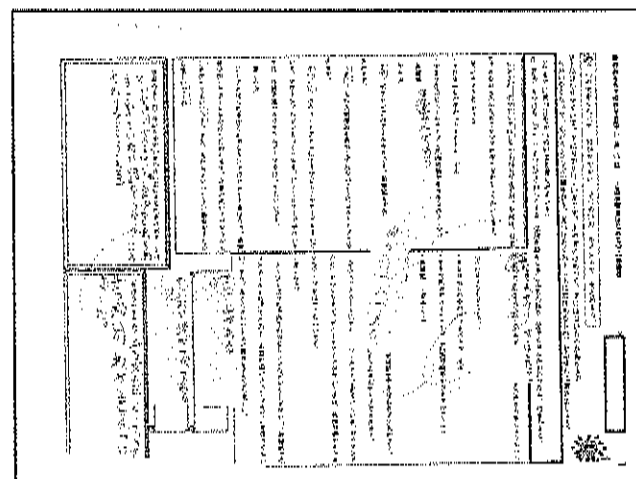
資料 8 GW で協議する児童の様子



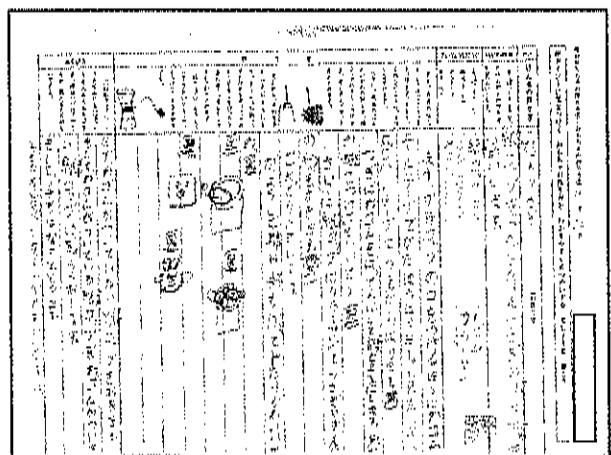
資料 9 CW で意見をまとめる児童の様子



資料 10 教室に掲示した単元計画表



資料 11 付箋を使いながら説明の技をまとめた
本時のワークシート



資料 12 説明の技を使って書いた説明文の
ワークシート



資料 13 身に付けた説明の技を使って 1 年生に
作ったおもちゃの説明をしている児童

ア 指導案

第3学年1組 国語科学習指導案

令和2年11月16日(月) 2校時

場所: 3年生教室, 児童数: 6名

指導者: 教諭 千住 美貴

《单元名》 ぴったりのことわざでつたえよう

《教材名》 「つたわる言葉 ことわざ・故事成語」(『国語 三下 あおぞら』光村図書)

《時間数》 全4時間 本時4/4時間

1 单元について

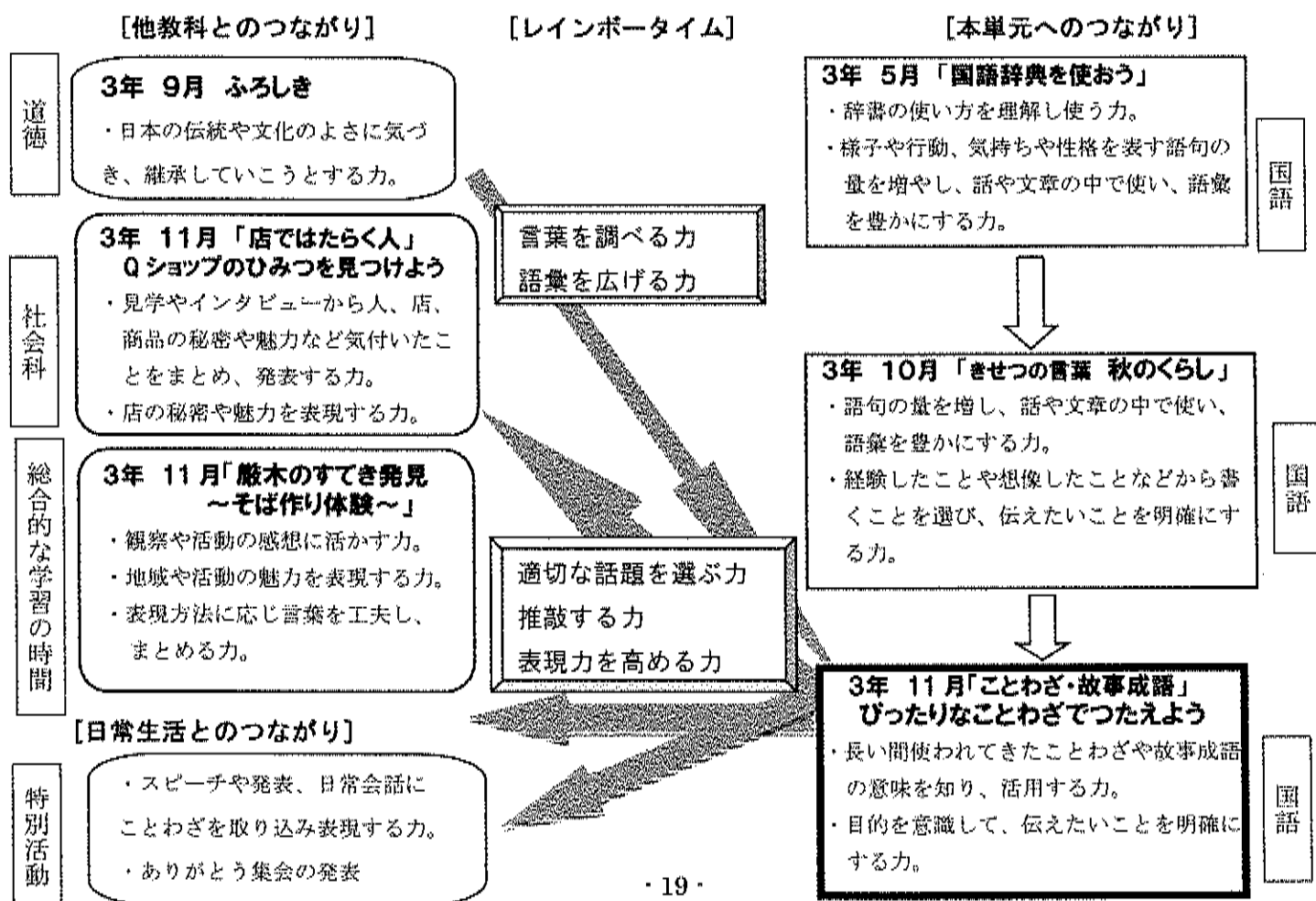
(1) 他教科との関わりと児童の実態

この单元では、我が国の伝統的な言語文化として長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知るとともに、その豊かさにふれ、理解を深めることをねらいとしている。先人たちより培われてきた言い回しを知り、日常生活や他教科の学習にも使うことで、児童の言語生活をより豊かなものにしていきたい。

本单元では、児童が選んだことわざにエピソードを交えて出題するクイズ形式を取り、正解を見つける交流の過程でエピソードの適切さを考えたり、言葉の知識を広げたり、生活の中で活用できる言葉として習得したりしながらことわざのよさに気付かせることを目指す。

本学級の児童の会話や発表、作文や日記などに用いられる語彙は乏しく、発想の幅も狭い。そのため、様子を観察したり、イメージを描いたり、比喩的な言いまわしを取り入れたりするような手立てを助言してきたが、今後児童自身が言葉を拓き、蓄え、育てていくことの必要性を感じている。

社会科の「店ではたらく人」や総合的な学習の時間の「厳木のすてき発見」などの单元では、見学で調べたことや体験をもとに見つけ感じた「お店や地域の秘密や魅力」を文章やポスター、発表会などで表現することが予想される。本单元で学習することわざや故事成語などにふれることをきっかけに、言葉の世界が広がるおもしろさに気づかせ、他教科や日常生活の表現にもつなげさせたいと考える。



- 長い間使われてきたことわざや故事成語の意味を知り、使うことができる。
- 目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。
- 調べたことをまとめたり、話し合ったりしながら言葉を広げ、身に付けることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	○ことわざや故事成語の意味を知り、適切に使っている。
思考・判断・表現	○目的を意識して調べたことを書いたり、伝えたいことを明確にして話したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	○積極的に調べたことをまとめたり、話し合ったりしながら、言葉を広げ、身に付けている。

4 単元の授業過程（全4時間 本時4／4時間）

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法	【他教科とのつながり】
一次	1	○単元の学習のめあてを確かめる。	【主】ことわざや故事成語がどのようなものか理解し、興味を持っている。【観察】	レインボータイム 調べる力 整理する力
	2	○教科書を読み、教科書で紹介されたことわざや故事成語の意味や由来を調べる。 ○他のことわざや故事成語の意味、由来などについて調べる。	【知】辞典や本を活用して、ことわざや故事成語の意味や由来などを調べている。【観察・記述】	
二次	3	○本時の学習のめあてを確かめる。 ○好きなことわざとそのことわざの意味に合うエピソードをもとに、クイズの問題作りをする。 ○本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。	【思】自分の経験エピソードとことわざの意味を対応させ、文例を考えている。【観察・記述】 【思】ことわざや故事成語を紹介するという目的を意識して、意味や文例を書き問題作りをしている。【記述】	レインボータイム 適切な話題を選ぶ力
三次	4 本時	○本時のめあてを確かめる。 ○ぴったりことわざクイズの参加・交流を通して、ことわざへの興味を持ち、理解を深める。 ○ことわざを活用するよさを考える。 ○単元の学習を振り返る。	【主】クイズでの交流に積極的に参加している。 【主】友だちが選んだことわざに興味を持ち、意味を理解している。【観察・記述】 【主】ことわざや故事成語のよさを感じ、学習や生活に活かそうという思いを持っている。【記述】	レインボータイム 比較し考察する力 社会科 総合的な学習の時間 適切でありながら 光る言葉選びをする力

5 本時の学習

- 目標
ぴったりことわざクイズの交流を通して、ことわざのよさに気づくことができる。
- 本時の評価規準
ことわざ問題に対し、ことわざとエピソードの関連を理由や根拠をあげながら発言している。
【観察・記述】

○ 展開

前時の学習内容		○ことわざの意味にぴったりのエピソードを考え、問題作りをする。	
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はつきりさせる	① 本時の学習めあてを確認する。	○事前に司会児童と授業の流れについて打ち合わせておく。	ワークシート
	② 教師の解説を聞き、本時の学習のめあてを理解する。	○エピソードからことわざを導き出すクイズを通して、ことわざのよさを見つける目的を知らせ、活動に意欲を持たせる。	
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	③ ことわざクイズに参加し、交流する。 (1) クイズのルールの確認。 (2) パネルを開く。 (3) 出題者の「ことわざエピソード」を聞く。 (4) エピソードに合うことわざを選択肢から選ぶ。 (5) 解答グループ同士の意見交流をする。	○クイズの進行は教師が行い、児童は出題者と解答グループに分かれ、クイズと話し合いに集中できるようにする。 ○交流の中では理由や根拠をあげるよう促し、解答グループの交流が成立するように支援する。	電子黒板
	《予想される児童の反応》 ・わたしは○○さんのことわざは「さるも木から落ちる。」だと思います。上手なことでも、練習をさぼっていたら本番で失敗したという話は、木登り上手なさるも木からおちることと同じだからです。 (6) 正解の確認をする。 ※(3)～(5)を繰り返す。	思考【比べる】 友達のエピソードや考えを聞きながら、経験に基づく理由や根拠を考え、比較して選ぶ。 ☆評価規準 ・ことわざとエピソードの関連を理由や根拠をあげながら適切に選んでいる。(観察・記録) ☆理由や根拠が分かりにくいときには、エピソードとことわざを対応させる視点を与える。	
まとめる	④ ことわざのよさについて意見を出し合い、本時の学習をまとめる。	○クイズを通して、ことわざを用いるよさに気づかせる。	
	《学習内容》 ・ことわざは生活や経験を表現するために役立つことがわかる。 《学習方法》 ・エピソードに合うことわざを見つけるためには、ことわざに使われている言葉を比較し、理由や根拠を考えながら選ぶとよい。	○今後ことわざや慣用句などを積極的に活用し、言葉を広げようという意欲がもてるように促す。	
	⑤ 本時の学習を振り返る。		

イ 研究の成果と課題

第3学年 国語科

「ぴったりのことわざでつたえよう」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- ・ これまで子ども達になじみのなかった「ことわざ」を単なる知識として得るだけでなく、自分の経験に当てはめてスピーチを組み立て、さらにそのスピーチからことわざを見つけ出すというクイズ形式で学習に取り組んだことにより、主体的な学習につながった（資料15）（資料16）。
- ・ 本単元の学習で「ことわざ」に興味を持ち、意識的に会話や作文の中に取り入れ、言葉の世界を広げる姿が見られた。また、地域ありがとう集会では、お気に入りのことわざを効果的に取り入れた自己紹介を工夫して発表することで、学びを広げたり活かしたりできたことを実感していた。（資料17）

《課題》

- ・ 語彙が少なく発想の幅も狭い子どもたちにとって、身近な経験を「ことわざ」に結び付けながらスピーチの形にして表現することは難しい課題であった。子どもたちなりに選んだことわざに近い経験を探し出し、スピーチ作りまで結び付ける努力はしていたが、より多くのモデルを示したり、「創作でもよい」と選択や作り方の幅を広げたりすることで、より深くことわざに触れることができたのではと考える。
- ・ 「経験の中から自然にスピーチやことわざが出るように」と、敢えて原稿を持たせることはしなかったが、子どもたちのスムーズなスピーチ力を育てるステップとしては、項目立てをしたメモを持たせるなどの手立てを取り入れてもよかった。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

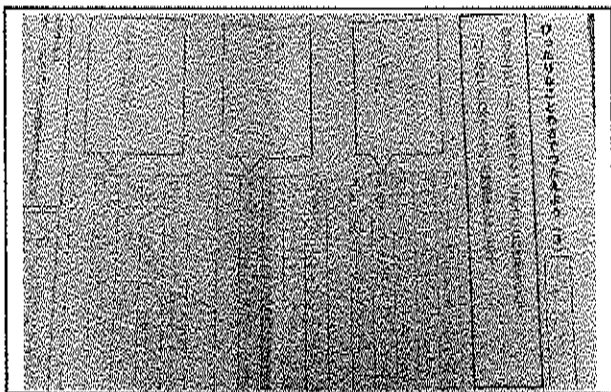
《成果》

- ・ GWは人数の関係でペア対話の形を取り、ホワイトボードで個々の答えや考え方を示しながら話し合わせた。ペア間であっても答えの選択や理由の相違が見られ、互いの意見を聞き合いながら結論を出す過程が、後のCWの発表で活かされていた（資料18）（資料19）。
- ・ CWでは答えが割れ、理由を話し合う場面が見られた。「少しの手伝いでたくさんお菓子をもらった」エピソードスピーチに対する答えが「海老で鯛を釣る」「棚からぼたもち」に割れたが、「小さな働きで」か「何もしなくても」の労力に目をつけ、全員が納得する形で答えをまとめ、正解を導くことができた。後日、他の問題で交流したときにも、言葉の意味に着目し、互いの意見をすり合わせながら解答する姿が見えた。

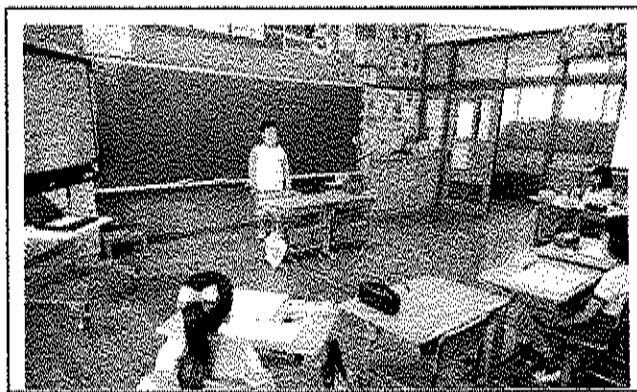
《課題》

- ・ 子どもたち同士の交流で理解を深め合えるように「言いたいことを適切な言葉で伝え合う表現力」を日頃からもっと備えさせたい。子どもたちの中から出る言葉だけでも話し合いの核心に迫れるような手立てを工夫し、子どもたち自身に交流の価値を感じさせながら実践したい。

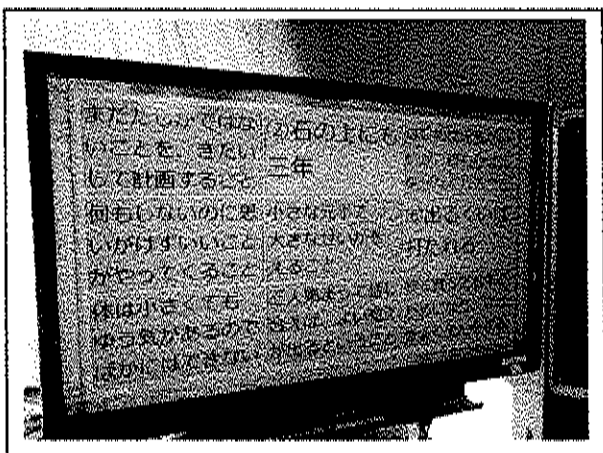
ウ 資料



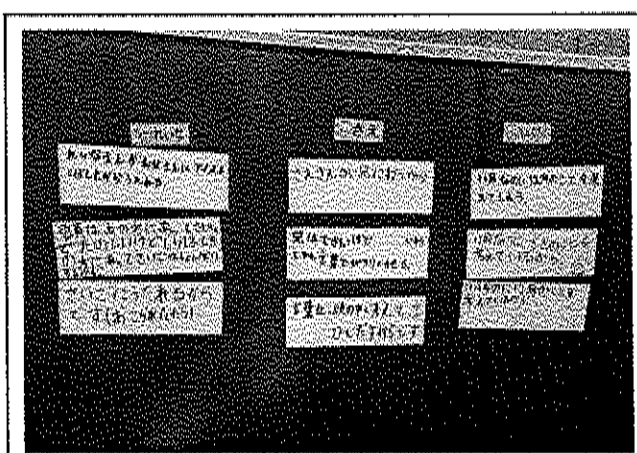
資料 14 「ぴったりことわざクイズ」問題作りで、
経験とことわざを結び付けるワーク



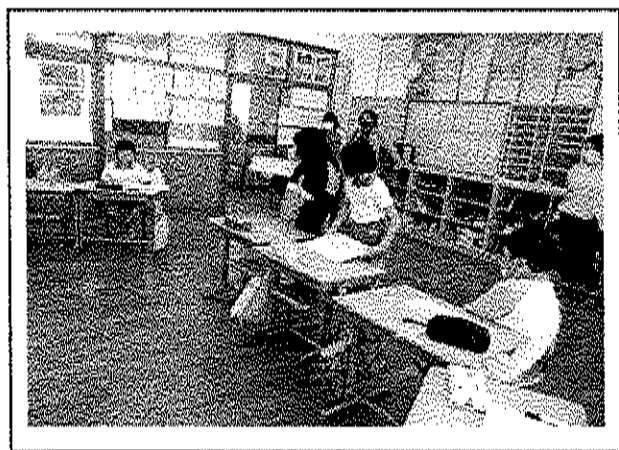
資料 15 「ぴったりことわざクイズ」のスピーチ
エピソードからことわざを推測する場面



資料 16 表に出題ことわざ、裏にはその意味
を示した「ぴったりことわざクイズ」



資料 17 ミニホワイトボードには、ペアで話し合っ
た答えの根拠や理由を書いてCWに活用



資料 18 GWでまとめた答えや理由をもとに、
答えをまとめる話し合いをするGW場面



資料 19 「ありがとう集会」の出し物の中に、こ
とわざを使った自己紹介を取り入れた発表

ア 指導案

第3学年1組 理科学習指導案

令和2年11月16日(月) 3校時

場所：3年1組教室、児童数：6名

指導者：指導教諭 小野 単子

《単元名》 くらべながら電気を通す道づくり名人になり、豆電球の明かりがつくおもちゃを作って、2年生にしょうかいしよう！

《教材名》 「電気の通り道」(『たのしい理科 3』 大日本図書)

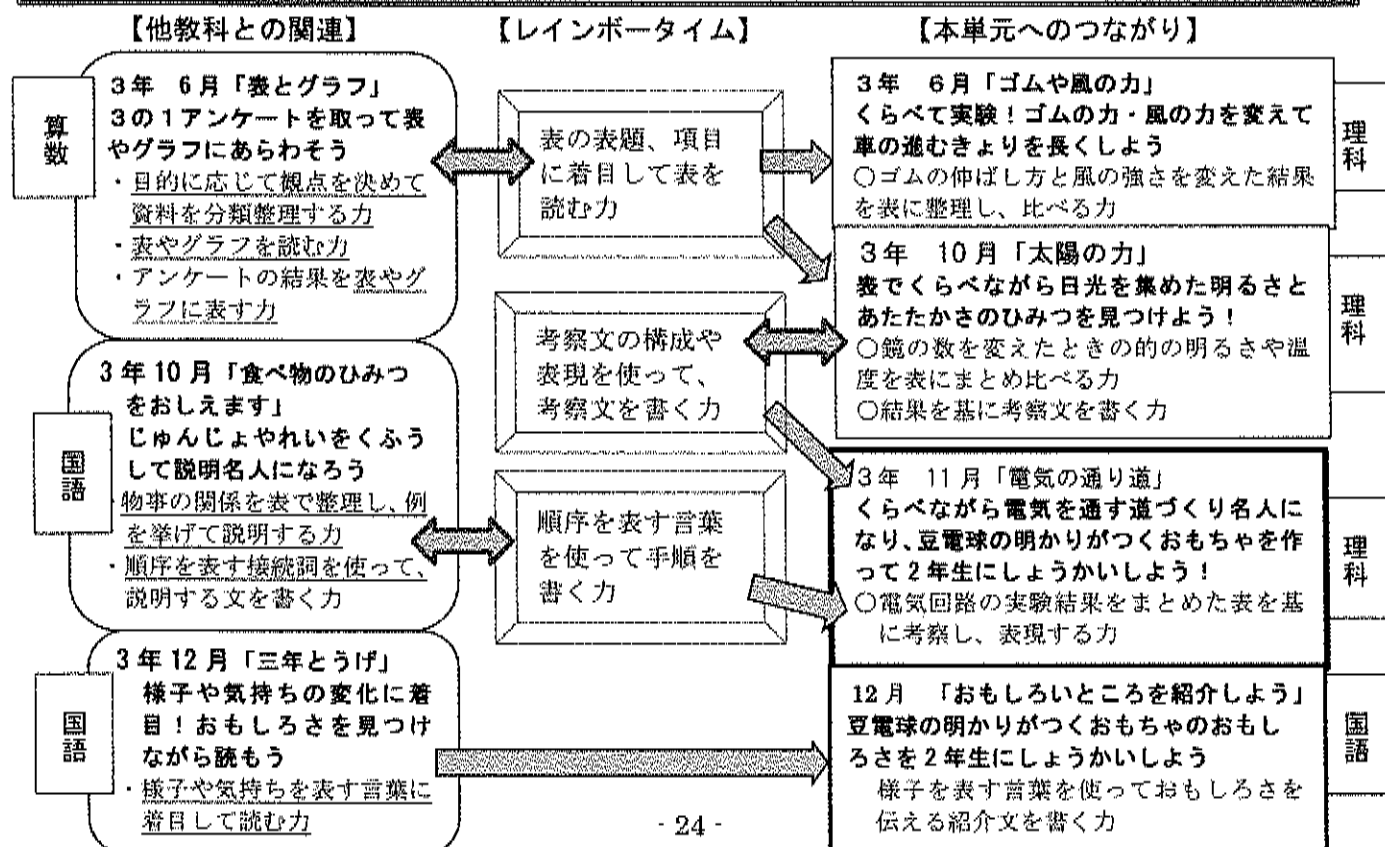
《時間数》 全8時間 本時2／8時間

1 単元について

(1) 他教科との関わりと児童の実態

本単元は、電気の通り道について興味・関心をもって追及する活動を通して、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方、電気を通す物と通さない物を比較する能力を育てるとともに、電気の回路についての見方や考え方を持つことができることをねらいとしている。児童は、意欲的に観察・実験に取り組み、その中で結果を比較する力を少しずつ身につけてきた。しかし、結果を整理して考察する力などはまだ十分ではない。そこで、複数の結果を表にまとめ比較しながら、共通点を見つけて考察する活動を行う。

本単元では、まず、国語科「おもしろいとおもうところをしょうかいしよう」と関連させ、理科の学習のまとめとして豆電球を使ったおもちゃのおもしろさを2年生に紹介することを知らせ、電気の回路について理解を深める必然性をもたせる。また、特設の時間「レインボータイム」での表の表題、縦と横の項目に着目して表を読む力、順序を表す言葉を使って手順を書く力、考察文の構成や表現を知って考察文を書く力を育む活動を活かし、結果の比較を基に考察する基盤となる力をつけていきたい。



2 単元の目標

- 実験の過程や結果を記録し、回路ができると電気が流れて明かりがつくことを捉えたり、物には電気を通す物と通さないものがあることを捉えたりすることができる。
- 乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子について追及する中で差異点や共通点を基に電気回路についての問題を見出し、表現することができる。
- 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方や、電気を通す物と通さない物を試行錯誤しながら追及している。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることを理解している。 ② 電気を通す物と通さない物があることを理解している。 ③ 電気の回路について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 ④ 乾電池と豆電球を使って回路をつくったり、豆電球を光らせるものづくりをしたりしている。
思考・判断・表現	① 豆電球が点灯している時としない時や、回路の一部に色々なものを入れた時の結果を基に考察し、自分の考えを表現している。 ② 豆電球が点灯している時としない時や、回路の一部に色々なものを入れた時を表に整理して比べ、電気の回路について考えを表現している。
主体的に取り組む態度	① 学習課題を解決するために、電気を通すつなぎ方や通さないつなぎ方や、電気を通す物と通さない物を試行錯誤しながら追及している。 ② 他者と関わりながら豆電球を使ったおもちゃを作り出そうとしている。 ③ 電気の回路について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

4 単元の授業過程（全8時間 本時 2/8 時間）

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法
理科 一次	1	○ 身の回りにある明かりが使われている場面を話し合う。 ○ 教師が懐中電灯を分解する過程を観察し、豆電球と乾電池のつなぎ方について問題を見いだす。 ○ 国語科「豆電球の明かりがつくおもちゃのおもしろさを2年生に紹介しよう」の活動と関連させた学習課題と学習計画を設定し、見通しを持つ。	【主】明かりがたくさん使われていることに気付いている。 [発音分析・記録分析] 【思】懐中電灯の仕組みに関心をもちながら観察している。 [発音分析・行動観察分析] 【思】進んで学習課題と計画を話し合っている。 [行動観察・短冊記録分析]

【他教科と
のつながり】

第二次	2 本 時	○ 豆電球に明かりがつくときの乾電池と導線のつなぎ方を予想する。	【思】豆電球に明かりがつくときの乾電池と導線のつなぎ方を複数予想している。 [記録カード]	算数科 「表を読む力」
		○ グループで比べながら実験をし、結果を記録し、明かりがつくときとつかないときの差異点を協議する。	【思】乾電池の極の違いや導線の先をどの部分につなげているか着目しカードに記録している。[記録カード]	
		○ クラス全体で記録カードを明かりがついた時とつかなかった時に分ける表に整理して比較し、乾電池の+極と-極に導線をつなぐと豆電球にあかりがつくことをまとめる。	【思】表の項目に沿って記録カードを分類し、乾電池の極の違いや導線の先に着目して共通点を見いだしている。 [発言記録・行動記録・記録カード]	
		3 ○ 回路の途中に調べる物を入れて豆電球に明かりがつくか予想する。	【思】調べる物を変えながら豆電球がつくか実験し、得られた結果を基に考察・表現しながら問題解決している。 [発言分析・行動観察分析・記録カード]	レインボー タイム 「考察文を書く力」
		○ 豆電球に明かりがつくか実験することで電気を通す物を調べ、結果を記録する。		
		4 ○ 実験記録を表に整理し、材質に着目して話し合う。材質に着目し、電気を通す物は金属であることをまとめる。	【知】電気を通す物と通さない物があることを理解している。 [発言記録・記録カード]	レインボー タイム 「考察文を書く力」
		5 ○ ソケット無しで豆電球に明かりをつける回路や導線を長くつなぎ遠くにある豆電球に明かりをつける回路作りを通して電気を通すつなぎ方の理解を深める。	【知】器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や結果を分かりやすく記録している。 [行動観察・発言分析・記録カード]	
		6 ○ 2年生におもしろさを紹介する豆電球を光らせるおもちゃをつくる。	【主】他者と関わりながら豆電球を使ったおもちゃを作り出そうとしている。 [発言記録・行動記録]	国語科 「おもしろいとおもうところをしようか いしよう」
		7 ○ 電気回路について学んだことを確かめ、防犯ブザーや乾電池ホルダーの仕組みや絶縁シートの素材について説明する。	【主】電気回路についての学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 [発言記録・ワークシート]	
国語	1	○ 様子や気持ちを表す語句を使って豆電球の明かりがつくおもちゃのおもしろさを紹介する文を書く。	【知】様子や気持ちを表す語句を使い、豆電球の明かりがつくおもちゃのおもしろさの書き表し方を工夫して紹介する文を書いている。 [おもちゃのおもしろさ紹介カード]	国語科 「おもしろいとおもうところをしようか いしよう」
	2	○ 豆電球の明かりがつくおもちゃを見せながらおもしろさを2年生に紹介する交流活動を行う。	【思】話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫している。 [発言記録・行動観察]	

5 本時の学習（本時 2 / 8 時間）

○ 目標

豆電球に明かりがつくときとつかないときのつなぎ方を表に分けて、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることを理解している。

○ 本時の評価規準

表の項目に沿って記録カードを分類し、乾電池の極の違いや導線の先に着目して共通点を見出し、理解している。

[発言分析・行動記録・記録カード]

○ 展開

前時までの学習		○教師が懐中電灯を分解する過程を観察し、豆電球と乾電池のつなぎ方について問題を見だし、国語と関連させた学習課題と学習計画を立てた。	
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はつきりさせる	① 司会者が、前時の学習やめあてについて話し、クラス全体で確認する。 [めあて] 豆電球に明かりがつくつなぎ方を表で比べて見つけよう！	○ 学習司会と学習計画表を基に事前打ち合わせをしておく。	学習計画表
	② 教師の説明を聞き、実験道具や方法を確かめ、学習の見通しを持つ。	○ 明かりがつくつなぎ方とつかないつなぎ方を調べて表に分け、比べて見つけるという視点を確認する。	
自分の考えをもつ・交流する・明らかにする	③ 豆電球、導線付きソケット、乾電池を観察し、明かりがつくときの乾電池と導線のつなぎ方を予想する。 乾電池の銀色の部分につなぐといいと思う。 乾電池の＋極と－極につなぐといいと思う。	○ 豆電球、導線付きソケット、乾電池の部分に着目させて観察させる。 ○ 支援が必要な児童には、実験器具の部分の名称を押さえながら助言する。 ○ 乾電池の極の違いや導線の先をどの部分につなげるか意識させる。	豆電球、導線付きソケット、乾電池
	④ 乾電池と導線のつなぎ方の図と、明かりがつくか、つかないかを予想欄に書き、発表する。 [記録カード①]	思考【比べる】【広げる】 友達の予想を聞いて、豆電球の明かりがつくときの乾電池と導線のつなぎ方について考えを広げている。	
	⑤ グループで記録カードのつなぎ方を試し、豆電球に明かりがついたか、つかなかったか結果欄に書く。	○ 乾電池の極の違いや導線の先をどの部分につなげているかに着目させる	
	⑥ グループで記録カードを表の項目（明かりがついたか、つかなかったか）に分類して比べ、明かりがつくつなぎ方の共通点を協議する。 ⑦ クラス全体で明かりがついたつなぎ方をまとめた表を基に共通点を考える。	☆評価規準 表の項目に沿って記録カードを分類し、乾電池の極の違いや導線の先に着目して共通点を見出し、理解している。[発言分析・記録カード]	
まとめる	⑧ 司会がまとめる。教師の補説から輪になっている電気の通り道を「回路」ということを知る。 ⑨ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。	○ 乾電池や豆電球の位置、向き、導線の色が変わると違う回路であると考えてしまう児童もいると思われる。教師の補説で位置や向き、導線の色が変わっても同じ回路であることを教師が演示実験し、確認する。	ワークシート
	《学習内容》 ・豆電球に明かりをつけるには、かん電池の＋きよくと－きよくに導線をつなぐ。技① 《学習方法》 ・表に分けて比べるとつなぎ方の共通点が分かりやすい。	思考【統合】自他の意見を結び付け、よりよいものに書き換えてまとめる。	
	⑩ 次時の学習内容「電気を通す物を実験で調べて技②をまとめよう。」を確認し、見通しを持つ。	○ 次時の学習に向けて、事前に電気を通すかどうか回路の途中に入れて調べる材料集めができるようにする。	

イ 研究の成果と課題

第3学年 理科

「くらべながら電気を通す道づくり名人になり、豆電球の明かりがつくおもちゃを作って、2年生にしようかいしよう！」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- 単元のゴールを国語科と関連させ、豆電球を使ったおもちゃの面白さを2年生に紹介する活動に設定し、理科で電気回路について理解を深める必然性をもたせた。相手意識をもたせて単元計画表を作成することで、児童は見通しや主体性をもちながら電気回路について学び、実験、対話をしながら理解を深めることができた（資料20）（資料21）。
- 実験結果を整理して考察する力を付けるために、本単元では複数の結果を表に分類して比較し、共通点を見つけて考察する活動を毎時間積み重ねた。学習方法として、算数科「表とグラフ」での目的に応じて観点を決めて資料进行分类する学習、学習内容としてレインボータイムでの考察文の構成や表現を使って考察文を書く活動を想起させることで結果の比較を基に考察する力を付けていくことができた。

《課題》

- 理科を教科担当として担っているため、国語科の様子を表す言葉を使って紹介文を書く学習は学級担任との連携が必要である。級外が合科・関連的単元構成をしていく上で学級担任と授業のねらいを共有し、学習内容や進度を調整していく連携を深めていきたい。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

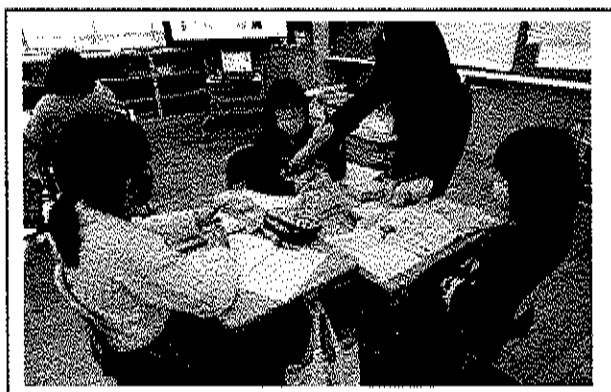
《成果》

- 予想した導線と乾電池のつなぎ方の図化（資料22）、GWで予想の図化を実験して記録（資料23）、CWで結果記録カードの表に分類・整理（あかりがつく○、つかない×の2つの項目）により、児童はつなぎ方の差異を比べ、導線、+極等の理科用語を用いて明かりがつくつなぎ方を考察し、本時の終末には、学習内容を「豆電球に明かりをつけるには、導線と電池の+極と-極をつなげるとよい」とまとめることができた（資料24）（資料25）。
- 明かりがつくつなぎ方の予想をGWで説明し、実験で確かめることで、実験道具の部分に着目し、理科用語を教えあいながら分かりやすい説明の仕方を学び、納得感を感じている児童の姿や発言がみられた。

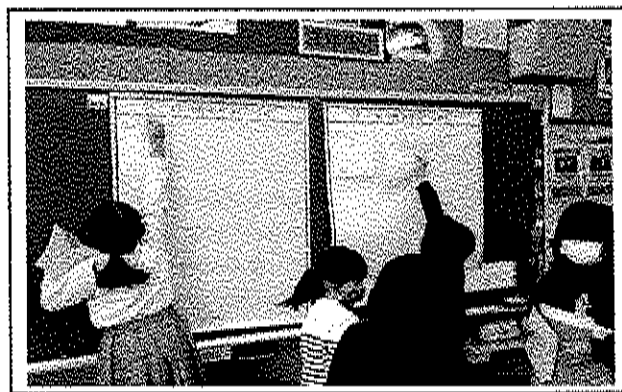
《課題》

- 予想・結果・考察と思考し、記録カード、ワークシートに図化、考察文を書く時間が児童にとっては短かったようである。思考の流れを意識しながらもワークシートに書く分量を調整する必要がある。

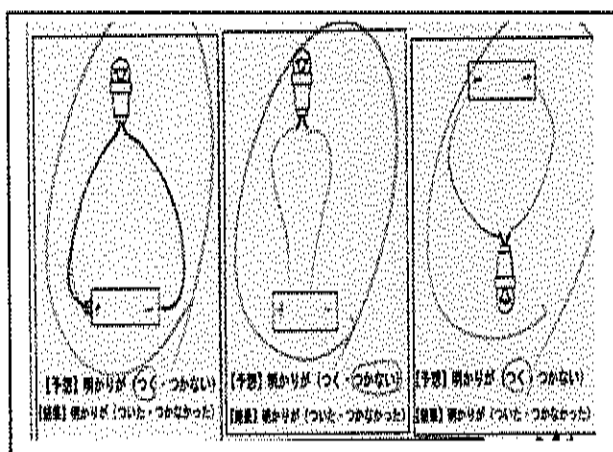
ウ 資料



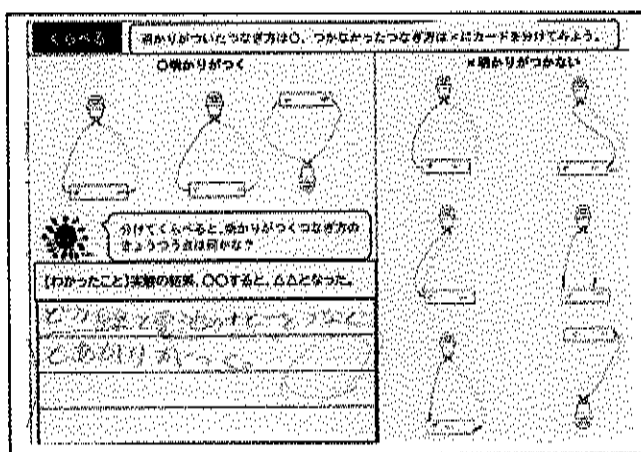
資料 20 GW で自分の予想を実験で確かめる



資料 21 CW で実験記録カードを表に分類する



資料 22 PW: 明かりがつくつなぎ方、明かりがつかないつなぎ方の予想と図化



資料 23 GW: 実験で予想を確かめた結果の図化と明かりがつくつなぎ方の共通点の記述

- A 児： 回ろという言葉がわかりました。家でもじっけんをしてみたいです。
- B 児： どう線のつなぎ方がわかりました。＋きよくとーきよくを考えてつなぐといいとわかりました。
- C 児： はじめて、豆電球はどう線の銀色のところを＋きよくとーきよくのところにくっつけると明るくなることが分かりました。
- D 児： どう線の銀色を電池の＋きよくとーきよくとつなぐと豆電球がついてうれしかったです。

資料 24 本時授業における児童のふりかえりの記述



資料 25 豆電球の明かりを光らせる手作りおもちゃを 2 年生に紹介している児童（単元のゴール）

(2) 上学年グループ実践

ア 指導案

第4学年1組 国語科学習指導案

令和2年11月16日(月)3校時

場所:4年生教室,児童数:15名

指導者:教諭 中島 悠作

《単元名》 言葉のつながりに着目して、相手に伝わる文章を書こう。

《教材名》 中核教材 「つながりに気をつけよう」(『国語 四下 はばたき』光村図書)

《時間数》 全5時間 本時4/5時間

1 単元について

(1) 他教科との関わりと児童の実態

本単元では、読み手に伝わりやすい文章の書き方について取り上げる。文と文のつながりに注目し、分かりやすい文章を書く活動を通して、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができることをねらいとしている。

児童は7月の国語「新聞をつくろう」の中で新聞記事や見出しを作ることを通して、人をひきつける文章とはどのようなものなのか考え、新聞を作る学習をした。また、総合的な学習の時間の「自分の将来の目標について作文を書こう」という学習で、これまでの経験や自分がなりたい姿について作文を書いているが、読み手に自分の気持ちを伝えるという意識がまだ十分ではない。また、児童自身が読み直しても、自身の作文の中に何を書こうとしたのか分からない部分があることに気づいていた。

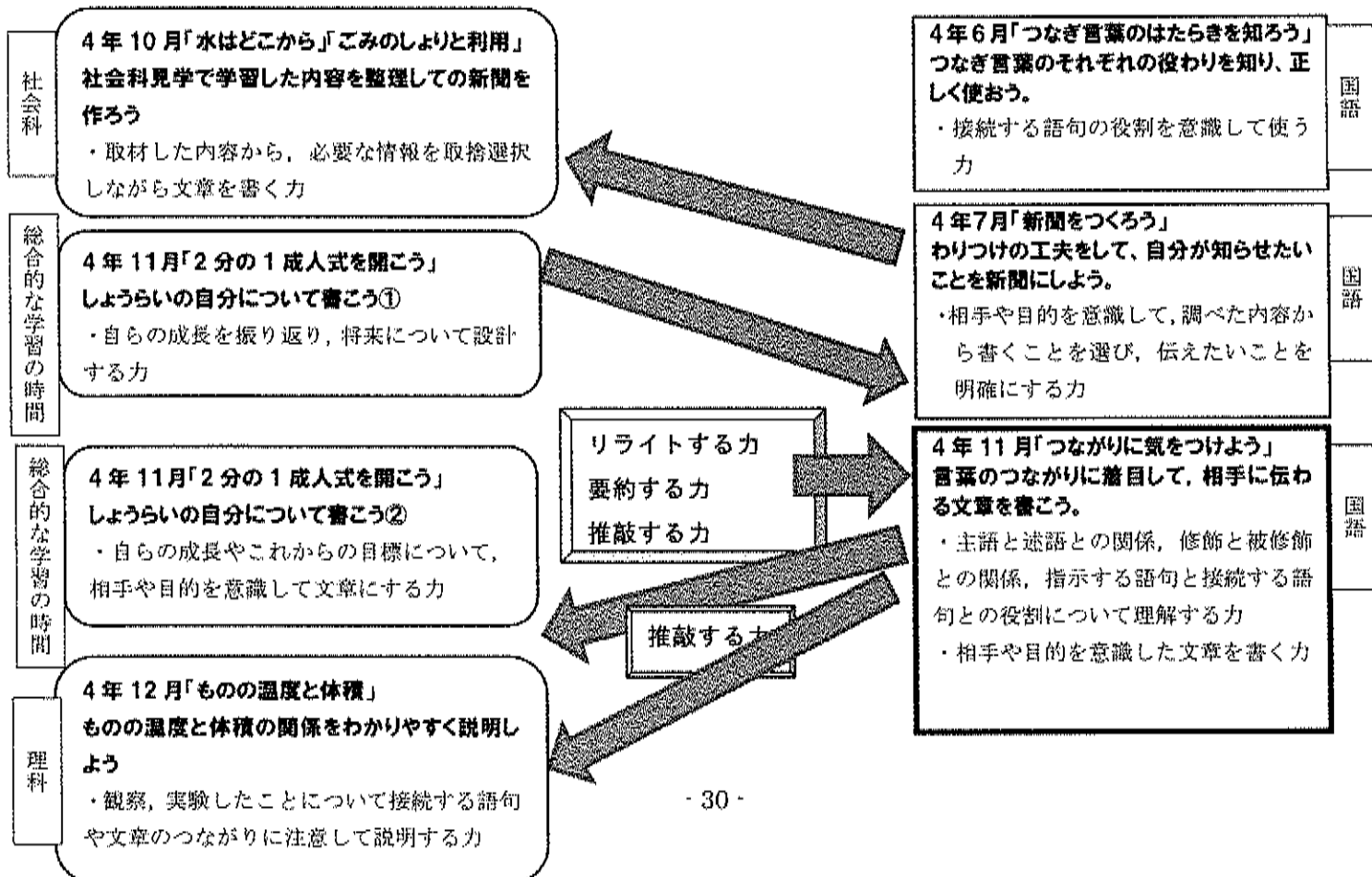
そこで本単元では、まず教材「つながりに気をつけよう」での主語と述語が対応していない文や一文が長い文から、読み手に分かりやすい文章を書くポイントに気づかせる。そして、自分の文章が分かりやすくなるために推敲しながら書く活動を行う。

本単元での学習は、総合的な学習の時間の「2分の1成人式を開こう」の中の「しょうらいの自分について書こう」と合科的に進める。1月に実施する「2分の1成人式」では保護者に対して、「自分の将来の目標」を発表する。そのために自分の将来について文章を書く際は、本単元の学習内容を活用できると考える。また、理科の学習では実験の考察を書く際に、本単元での「言葉のつながりに着目すること」と関連させながら取り組ませる。

【他教科とのつながり】

【レインボータイム】

【本単元へのつながり】



2 単元目標

- 主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。
- 主語と述語の対応や句読点の位置について意識し、自分が伝えたいことを正確にかつ簡潔に書くことができる。
- 間違いを正したり、相手の目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 主語と述語の繋がり、修飾語がどこに繋がるのか、指示する語句と接続する語句の役割について理解している。 ② 読み手に伝わりやすい文章になるように適切に書き換えている。
思考・判断・表現	① 間違いを正したり、相手の目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。 ② 主語と述語の対応や句読点の位置について意識し、自分が伝えたいことを正確にかつ簡潔に書いている。
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで話し合いに参加し、読み手が分かりやすい文章になるように文を整えたり、推敲したりしている。

4 単元の授業過程（全5時間 本時4/5時間）

【他教科との
つながり】

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法
一次	1	○総合的な学習の時間で「将来の夢の作文」を書いたことやこれまで作文を書いた経験を振り返り、文章を書く時に難しかったことなどを児童間で共有する。 ○学習課題を立てる。 ○学習課題をもとに学習計画を立てる。	【主】 目的意識を共有して、学習の見通しをもって学習を進めようとしている。【行動観察・発言】
	2	○主語と述語が正しく対応していない文章を読み、訂正する部分を見つけ、書き直す。 ○主語と述語が正しく対応していないことが文章を分かりにくくしていることに気づき、「分かりやすく書くポイント」をまとめる。	【思】 主語と述語のねじれに気づき、適切に書き直している。【ワークシート・観察】 【知】 主語と述語のつながりについて一般化してとらえている。【ワークシート・観察】
二次	3	○修飾語がかかる言葉がはっきりしない文章を読み、読点を入れたり、語順を変えたりすることで、それぞれの意味が分かる2つの文章に書き直す。	【思】 同じ文章で2つの意味にとれることに気づき、修飾・被修飾の関係が明確になるように書き直している。【ワークシート・観察】
	4 (本時)	○修飾と被修飾の関係をはっきりさせることが大切であることに気づき、「分かりやすく書くポイント」をまとめる。	【知】 修飾と被修飾のつながりについて一般化してとらえている。【ワークシート・観察】

総合的な学習の時間
「2分の1成人式を開こう」

レインボータイム
「リライトする力」
「要約する力」

	4 (本時)	○一文が長い文章を読み、文が長いと言いたいことが伝わりにくいことに気づき、文章を分けて、読みやすい文章にする。 ○一文を短くすることを「分かりやすく書くポイント」に書きこむ。	【思】読み手を意識して、文意が伝わるように文を分けて書き直している。 [ワークシート・観察] 【知】句読点の位置や接続語の役割について一般化してとらえている。 [ワークシート・観察]	
三次	5	○これまでの学習で確認してきた「分かりやすく書くポイント」を振り返り、それらのポイントをいかして、自分が書いた「将来の夢」についての作文を読み込む。 ○書き直す部分に線を引き、ワークシートに分かりやすく書き直す。	【知】これまで学習してきたことを活用して、自分が書いた作文を読み返し、修正箇所を見つけている。 [観察・ワークシート] 【主】学んだことを活用し、読み手が分かりやすい文章になるように文を整えたり、推敲し文を整えることができる。 [観察・ワークシート]	レインボータイム 「推敲する力」 総合的な学習の時間 「2分の1成人式を開こう」 理科 「ものの温度と体積」

5 本時の学習

○ 目標

内容の切れ目で分けて、長い一文を簡潔でわかりやすい文章に書き直すことができる。

○ 本時の評価規準

長い一文のモデル文に適切な位置に句読点を入れたり、文意に合った接続語に置き換えたりして書き直している。[ワークシート]

○ 展開

前時の学習内容		修飾と被修飾の関係が明確な文章にすると、分かりやすい文章になると知った。	
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はつきりさせる	① 司会者が、めあてや全体の学習の流れを確認する。 [めあて] 分かりやすい文章にするポイントを見つけ、モデル文を読み手に伝わる文章に直そう。	○ 学習司会と事前に打ち合わせをし、学習の流れや意見のまとめ方を考えさせるようにする。	学習計画表
	② 教師の説明を聞き、今までの学習内容をふり返り、わかりやすい文章にするためのポイントを確認する。	○ これまでに出了ポイントを掲示しておく。	ワークシート
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	③ ワークシートの文章を音読する。		ワークシート
	④ ワークシートの文章の修正すべき部分に線を引き、言葉や句読点を書きこむ。	○ 書き直す際の読点の数を指定する。	学ボード 黒板
	⑤ グループで句読点を入れる場所や接続語について話し合う。話し合った内容をもとに、学ボードに句読点と接続語を書きこむ。	○ 学ボードにはモデル文を拡大印刷したものを挟み、修正をしやすくする。	
	⑥ クラスワークをし、グループで出了意見について話し合う。	思考【比較する】 モデル文や友達の考えと自分の文章を比較して、適切な位置に句読点を入れたり、文意に合った接続語に置き換えたりして書き直す。	
まとめる	⑦ 一文が長くて分かりにくい時は、内容の切れ目で分けて、接続語に置き換えたりすると分かりやすい文章になることを全体で確認し、モデル文の修正をする。		
	⑧ 司会者がまとめた後に教師の補説を聞く。	○ これまでに出了「分かりやすい文章を書くポイント」を確認する。	ワークシート
	⑨ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。 《学習内容》 ・内容の切れ目で分けて、接続語に置き換えたりできる部分を考える。 《学習方法》 ・分かりやすい文章に書き直すには、元の文に線を引いたり、接続語を入れるところに印を書いたりする。		
	⑩ 次時の学習内容を確認する。	○ 学習計画に基づき行う。	学習計画表

イ 研究の成果と課題

第4学年 国語科

「言葉のつながりに着目して、相手に伝わる文章を書こう」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- ・ 総合的な学習の時間に児童が書いた将来の夢についての作文をもとに導入学習を行い、国語の学習へとつなぐことができた。さらに、これまで主語・述語のねじれがあったり、1文が長い文章を書いたりすることが非常に多かった児童が、学習後には文章の問題点に自ら気づき、訂正しようと取り組むことができた。
- ・ レインボータイムの「リライトする力」、「要約する力」を事前に学習し、もとの文章を条件に沿って書き直すことができるようになっていた。そのためPWでは、不要な言葉を削ったり、句読点を入れたりすることが一人ひとりできていた（資料28）。

《課題》

- ・ 今回は事前に総合的な学習の時間に書いた作文を導入にして、国語の学習に入っていたが、児童の意欲を落とさないためにも、国語科「つながりに気をつけよう」の学習後に作文を書かせた方がよかったのではと感じた。
- ・ 読点の入れる位置で他と異なる児童の意見があったが、児童から出た意見をもとに一方の意見を採用した。読点の複雑さ、目的による変化などを踏まえて、助言する必要があった。
- ・ レインボータイムでは「リライトする力」、「要約する力」を学習していたが、本時の学習は「推敲する力」の要素が強く、レインボータイムとのずれがあった。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

《成果》

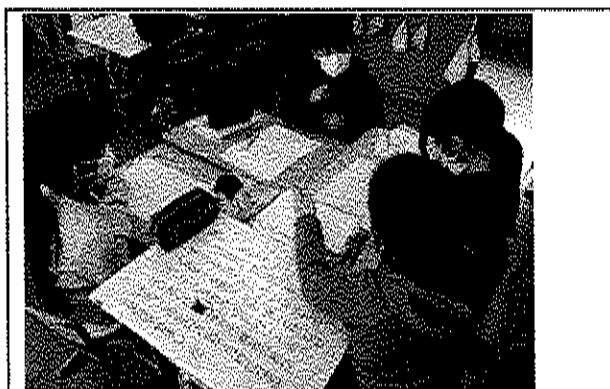
- ・ GW・CWではまなボードを活用して話し合いを行った。まなボードにはワークシートのモデル文を拡大印刷したものを挟みこみ、同様の文章を黒板にも掲示することで、話し合う際に視覚的に情報を共有できるよう心掛けた。児童は、PWでマーキングした箇所を話し合い、グループとしての意見、クラスとしての意見としてまとめていくことができた（資料26, 27, 29）。

《課題》

- ・ グループ内での多様な意見が出にくい課題だったこともあり、GWでは児童がグループのメンバーに自分の意見を説明したり、質問したりする場面があまり見られなかった。自分の意見を説明して、グループ内での意見の違いを認め、他のメンバーと活発に議論できるように場面の

設定をしていきたい。

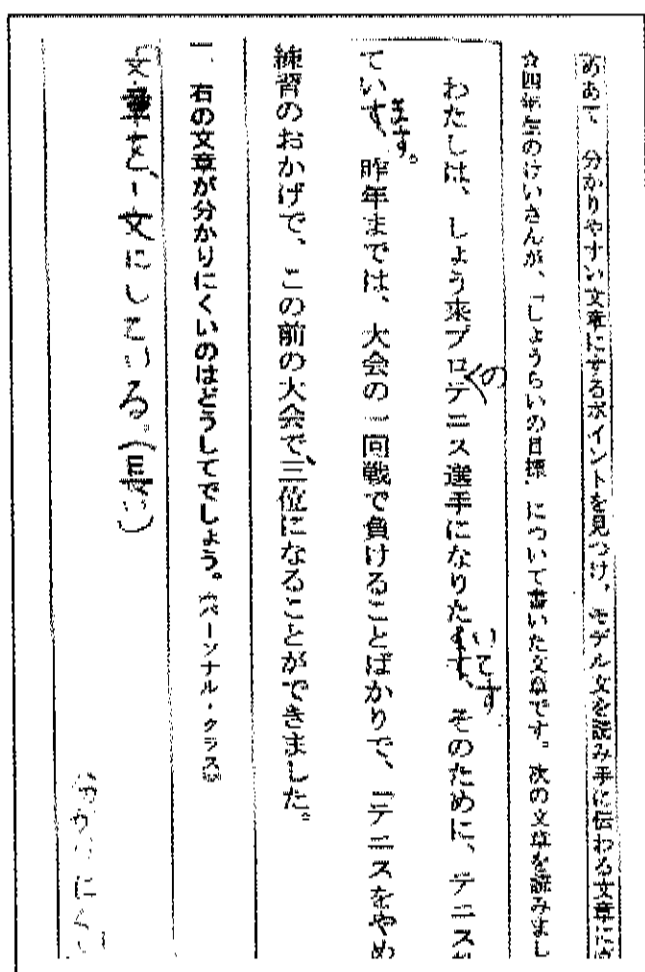
ウ 資料



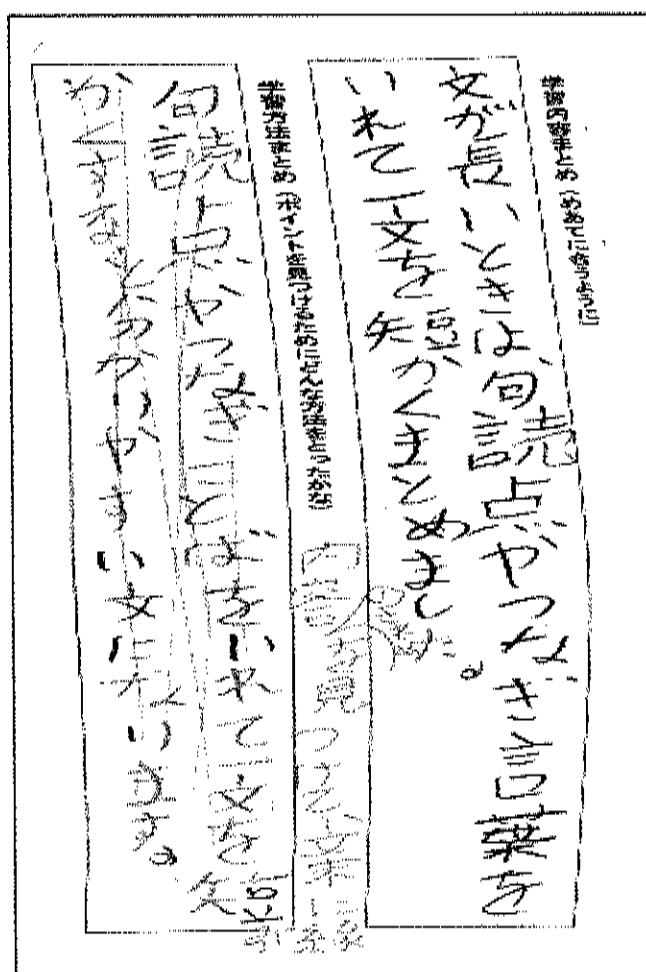
資料 26 GW でモデル文の修正箇所の確認



資料 27 掲示用のモデル文と各班のまなボードを比較して GW をする



資料 28 ワークシートのモデル文に句読点や足りない言葉を書き足す



資料 29 学習内容、学習方法のまとめの記述

令和2年11月16日（月）2校時

場所：5年生教室，児童数：8名

指導者：教諭 古舘 大輔

《単元名》 資料を活用した文章を読んで、図、表、グラフが持つ効果についてまとめ、意見文を書く活動に生かそう。

《教材名》 中核教材 「固有種が教えてくれること」
（『国語 5年 銀河』光村図書）

《時間数》 全11時間 本時6／11

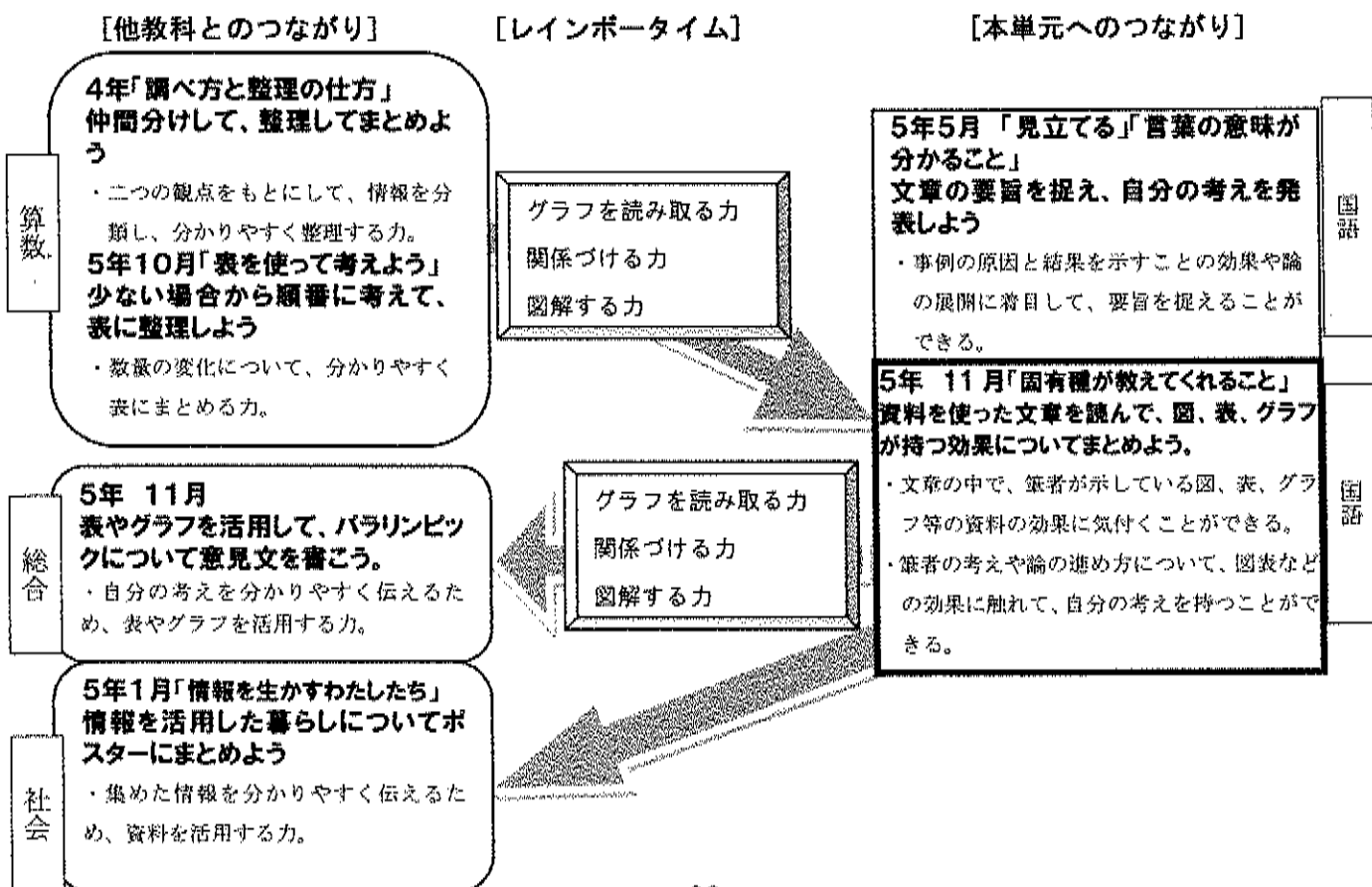
1 単元について

(1) 他教科との関わりと児童の実態

この単元では、教科の基本となる見方・考え方の「文章と図表やグラフとの対応を読み取る力」と各教科等を貫くラーニングスキルの「グラフを読み取る力、関係づける力、図解する力」を主に身に付けさせることをねらいとしている。

教材「固有種が教えてくれること」を読み解くことを通して、本文中の記述と図、表、グラフのつながりを意識することができるようにする。また、文章のみで表記してある場合と比べて、それらの資料があることでどのようなよさがあるかを考えさせ、資料がもたらす効果に気付くことができるようにしたい。

本学級の児童は、今後総合的な学習の時間において、パラリンピックをテーマにした意見文を書く活動を行う。また、社会科においては情報を活用した暮らしについて学習したことを、ポスターにまとめる活動に取り組む。このような学習の中で、自分が訴えたいことや呼びかけたいことを表現する際、本単元で学習する、文章と図表やグラフを対応させることや、資料を効果的に使うことのよさを生かして活動できるようにしたい。



2 単元の目標

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができる。
- 目的に応じて、文章と図やグラフなどを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。
- 文章と図やグラフなどを結び付けながら読み、筆者の工夫を進んで見つけようとするすることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 文章と図、表、グラフなどの情報と情報の関係づけの仕方について理解している。 ② 似たような意味を表す語句と語句との関係を、図などによって表す方法を理解している。
思考・判断・表現	① 文章と資料を結び付けて内容を捉えるとともに、その意図や効果を考えている。 ② 筆者の考えや論の進め方について、図表などの効果に触れて、自分の考えをまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで話し合いに参加し、文章と図やグラフのつながりを探そうとしたり、筆者の工夫を見つけようとしていたりしている。

4 単元の授業過程（全11時間 本時6／11時間）

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法
一次	1	○これまでの学習をふり返る。	【主】既習事項を思い出し、これから学習することに見通しを持ち、進んで話し合いに参加している。【観察】
	2	○図書室で資料を活用した本を読み、学習課題を立てる。	
	3	○学習課題をもとに学習計画を立てる。	
二次	4	○文章の段落構成を確認し、筆者の考えの中心を押さえ、文章の内容の大体をまとめる。	【知】①文章と図、表、グラフなどの、情報と情報の関係づけの仕方について理解している。②似たような意味を表す語句と語句との関係を、図などによって表す方法を理解している。【ワークシート・観察】
	5	○文章と資料1、2の資料を結び付け、資料が示されていることの効果をまとめる。	
	6	○文章と資料3、4を結び付け、資料が示されていることの効果をまとめる。	
	7	○文章と資料6、7を結び付け、資料が示されていることの効果をまとめる。	
	8	○必要な情報が抜けていないかグループで確認しながら、要旨をまとめる。	
	9	○筆者の考えや論の進め方について、図表などの効果にも触れながら、自分の考えをまとめる。	
	10	○グラフや表を用いて、自分の考えを文章にまとめる時に生かせることを出し合い、まとめる。	
三次	11	○チェックシートの項目に沿って、学習のふり返りをする。	【主】進んで学習したことを振り返り、次の活動に生かそうとしている。【チェックシート・観察】

【他教科とのつながり】

レインボータイム

- ・グラフを読み取る力
- ・関連付ける力
- ・図解する力

算数

「表を使って考えよう」
「調べ方と整理の仕方」
「表とグラフ」

社会

「情報を活用した暮らしについてポスターにまとめよう。」

総合的な学習の時間

「表やグラフを活用して、パラリンピックについて意見文を書こう。」

5 本時の学習

○ 目標

文章と資料を関係づけ、それぞれの資料が示されていることがどのような効果をもたらしているかについて話し合い、まとめることができる。

○ 本時の評価規準

文章と、その説明を補助するための資料を関係づけ、それぞれの資料が読者にとって分かりやすくなる、筆者の主張の根拠を示す等の効果を持っていることに気付いている。[ワークシート]

○ 展開

前時の学習内容		文章と資料 1、2 の資料を結び付け、資料が示されていることの効果をまとめた。	
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はっきりさせる	① 司会者が、めあてや全体の学習の流れを確認する。 [めあて] 文章と資料を関係づけ、それぞれの資料にどんなよさがあるかまとめよう。	○ 司会と事前に打ち合わせをし、学習の流れや意見のまとめ方を考えさせる	学習計画表
	② 教師の説明を聞き、今までの学習内容をふり返り、本時の学習の見通しを持つ。	○ 本時では、資料 3、4 から分かること、資料があることのよさを話し合っ てまとめることを伝え、活動の見通し を持つことができるようにする。	ワークシート
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	③ 1人で、本文の中で資料 3、4 と対応している言葉、数値、資料のタイトル等を探し、マーキングしたり、線で結んだりする。そして、それぞれの資料から分かること、それぞれの資料にどのようなよさがあるかを考える。	○ 「北海道地方が寒い」等、部分的に資料を見ている児童には、全体的に資料を見て読み取れることを考えるように助言する。	ワークシート
	④ グループで、それぞれの資料から分かること、それぞれの資料にどのようなよさがあるかを話し合い、まとめる。 ⑤ 全体で、それぞれの資料から分かること、それぞれの資料にどのようなよさがあるかを話し合い、まとめる。 《予想される児童の反応》 ○ 資料から分かること ・ 日本各地の平均気温は、5℃以下から 20℃以上まで幅広い。 ・ 日本各地の標高は、平地も高い山地もある。 ○ 資料のよさ ・ 筆者が述べていることの根拠をはっきりと示している。 ・ 筆者が述べていることが、読者にとって分かりやすくなる。	思考【評価する】 視点や観点を持ち、根拠に基づいて対象への意見を持つ。 ○ それぞれの資料が持つ効果の共通点を整理しながら話し合いを進めていけるよう、必要に応じて助言する。	学ボード 学ボード 黒板
まとめる	⑥ 司会者がまとめた後に教師の補説を聞く。 ⑦ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。 《学習内容》 ・ 資料には、読者に伝わりやすくなる、筆者の考えの根拠を示す等のよさがある。 《学習方法》 ・ マーキングしたり、線でつないだりして、文章と資料を結び付けて考えることが大切である。	○ 児童が気付かなかった資料の効果（学習内容）があれば、補説する。	ワークシート
	⑧ 次時の学習内容を確認する。	○ 学習計画表に沿って、次時は、資料 6、7 について、その効果をまとめることを確認できるようにする。	学習計画表

イ 研究の成果と課題

第5学年 国語科

「資料を活用した文章を読んで、図、表、グラフがもつ効果についてまとめ、意見文を書く活動に生かそう」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- ・ 単元のゴールを総合的な学習の時間と関連させて、パラリンピックについて調べた内容を、表やグラフを活用して分かりやすく意見文にまとめる活動と設定した。このように目的を設定することで、国語科で説明文における資料の効果をまとめる学習に必然性を持たせた。最終的な活動へのつながりをはっきりさせることで、児童は活動に対する見通しを持ちながら、資料があることのよさについて考えたり、資料の活用の仕方について学んだりすることができた。
- ・ 学習したレインボータイムの「グラフを読み取る力」、「関係づける力」、「図解する力」の内容を踏まえて学習を進めることができた。本文の記述と資料を結び付ける場面では、レインボータイムで行っていた必要な資料を見付け、関連付ける考え方を生かすことができた。

《課題》

- ・ 以前に同じ教科や他教科で学習したことを、現在の学習に生かすことができるよう、授業で既習内容を振り返る場面を設定することが大切である。そのためには、本単元と他教科との関わりをさらに把握していくことが必要であると改めて感じた。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

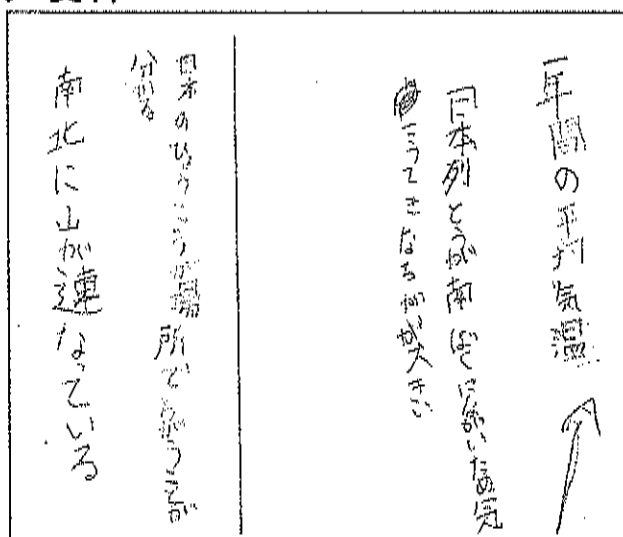
《成果》

- ・ 説明文に添えられている資料の効果に気付くことができるようにするために、文章と関連する資料を線でつなげて視覚化させたり（資料 30）、文章に資料が添えられている場合とない場合を比較させ、資料が果たしている具体的な役割について考えさせたりするようにした（資料 31）。このような活動やグループ、全体の交流を通して、資料には、筆者の考えに説得力が与えられることや読者に分かりやすく伝えられること等のよさがあることをまとめることができた（資料 32）（資料 33）（資料 34）。

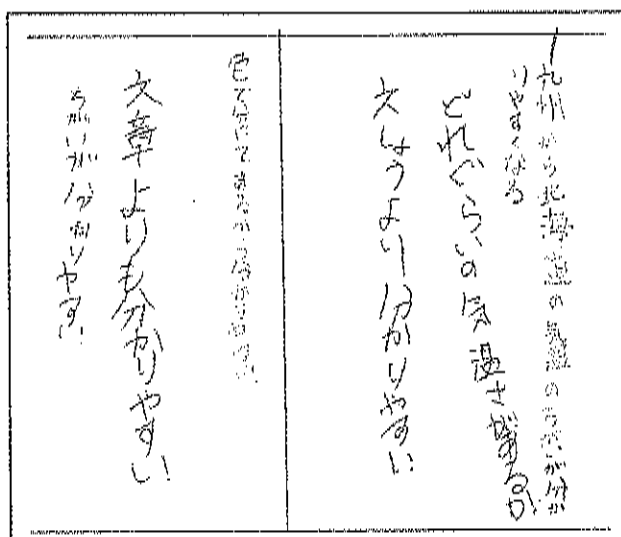
《課題》

- ・ グループやクラスで話し合い活動をする際、話し合いの方向性が定まるように、話し合うための視点を明確にして提示しておく必要がある。そして、話し合いの途中で、児童がその視点に沿った話し合いができていのかどうか確認しながら、話し合いを進めていけるよう適切に教師が間に入り、助言をしていきたい。

ウ 資料



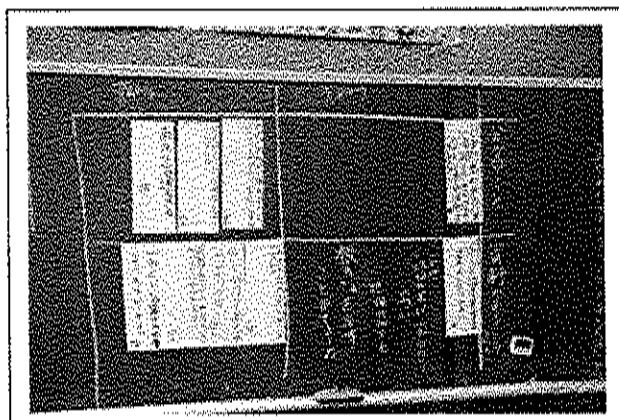
資料 30 資料から読み取れることについての記述



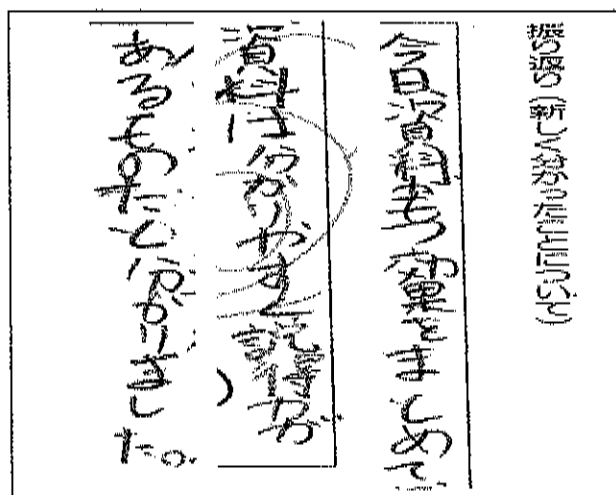
資料 31 資料があることの効果についての記述



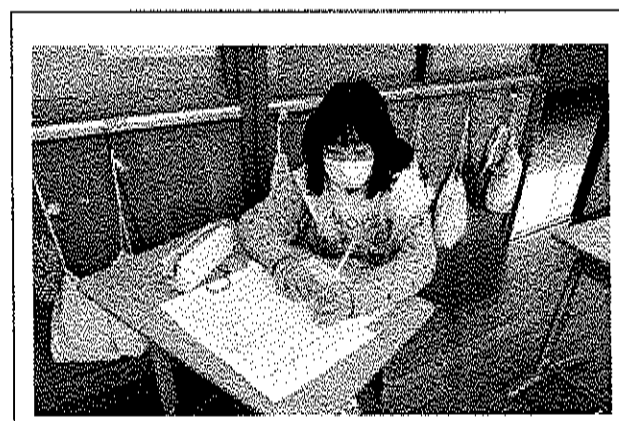
資料 33 グループワークで資料の効果についての意見を整理している



資料 34 資料から読み取れることと資料の効果について、黒板にまとめている



資料 35 児童の振り返りの記述



資料 36 資料を取り入れて、パラリンピックについての意見文を書いている児童の様子

令和2年11月16日(月) 2校時

場所：たんぽぽ教室、児童数：2名

指導者：教諭 吉原 逸子

《単元名》 みんなで楽しめる 「たんぽぽお楽しみ会」をしよう

《教材名》 教師自作のモデル文「まとあてゲームの遊び方」

《時間数》 全5時間 本時2／5時間

1 単元について

(1) 他教科との関わりと児童の実態

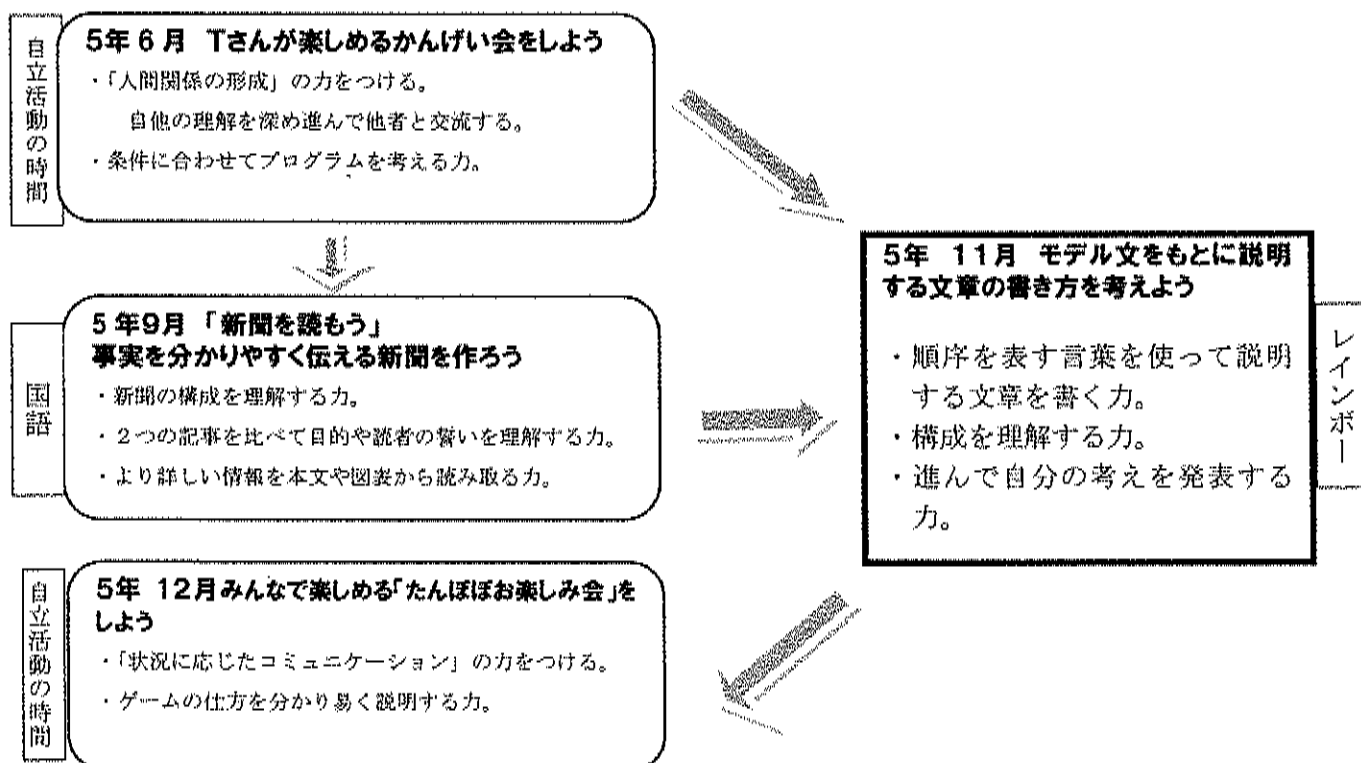
この単元では、自分たちだけでなく、下級生(2年生男児1)も楽しめるお楽しみ会を主体的な態度で意欲的に計画する活動を通して、自立活動の「コミュニケーション(5)」の状況に応じたコミュニケーションを円滑に行うための力をつけることと、国語の他者に対して「説明する文章を分かりやすく書く力」の2つを主に身に付けることをねらいとしている。

教材「まとあてゲームの遊び方」の2つのモデル文(良・悪)を比べることによって、「遊び方」の説明をする場合に大切な「文の構成」を考え「順序を表す言葉」を使うなどの説明する文章を書くためのスキルの一般化ができるようにする。

本学級の児童は6月の自立活動の単元「新入級生のかんげい会をしよう」の中で条件に応じたプログラムを立て、一緒に楽しく遊ぶことができた。しかし、その遊び方の説明の仕方はわかりにくく、十分ではなかった。相手のことを考え、分かり易く説明するスキルを身に付ける必要がある。国語の時間の「新聞を読もう」という単元では、2つの記事を比べることで、「誰に向けてかかれているか」や、「目的」によって記事の内容は異なるということを学習した。「比べる」ことで「相手に応じた分かりやすい説明する文章」を書く力に気づき、本単元で学習したことを12月の「たんぽぽお楽しみ会」の準備と運営に活かせるようにしたい。

【他教科との関連】

【本単元へのつながり】



2 単元の目標

- 自分の伝えたいことが明確になるように構成（はじめ・中・終わり）を理解することができる。
- 比べることで、順序を表す言葉を使い、文と文とのつながりがある説明をする文章を書くことができる。
- 人と関わる中で進んで自分の考えを話し、意欲を持って活動しようとしている。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 始め・中・終わりなどの文章の構成を理解し、活用することができる。
思考・判断・表現	① モデル文を比べることで、順序を表す言葉の良さに気づき、伝える相手に分かりやすい説明をする文章を書くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで自分の考えを話し、学習に集中し、意欲をもって活動しようとしている。 ② 相手に応じて伝える内容を広げ、伝えるための手段を身に付けようとしている。

4 単元の授業過程（ 全5時間 本時2／5時間 ）

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法	【他教科とのつながり】
自立一次	1	○1学期のかんげい会の活動をふり返る。 ○学習課題を立てる。 ○学習課題をもとに学習計画を立てる。	【主】既習事項を思い出し、これから学習する事に見通しを持ち、進んで学習に参加している。[観察]	
レインボータイム	2 本時	○モデル文をもとに説明する文章の書き方を考える。	【知】①始め・中・終わりの構成に気づき、段落を使う良さに気づいている。 【思】①2つの説明の文章を比べて「順序を表す言葉」や「具体的な数字」を入れるなどの良さに気づいている。[ワークシート・観察] 【主】①自分の考えを進んで発表し、相手に応じた表現を選ぼうとしている。[観察]	レインボータイム 「順序付ける力」 「比べる力」
自立二次	3	○それぞれの「お楽しみ会」でするゲームを考えて説明する文を書く。	【主】相手に応じたゲームを選ぼうとしている。[観察] 【知】様式に沿って書いている[ワークシート] 【思】順序を表す言葉をいれて伝える内容を整理して書いている。	レインボータイム 「組み立てを考えた書く力」
	4	○ゲームの説明の工夫を考え発表の準備をする。	【コミュニケーション】互いに発表し合い、改善点を話し合う。[観察]	
自立三次	5	○役割分担をして、たんぼぼお楽しみ会を行う。	【主】説明する相手を気づかい、進んで発表をする。[観察]	レインボータイム 「推敲する力」

5 本時の学習

○ 目標

モデル文をもとに説明する文章の書き方を考えることができる。

○ 本時の評価規準

モデル文を比べることで、伝える相手に分かりやすい説明をする文章のポイントをまとめることができる。[ワークシート・観察]

○ 展開

前時の学習内容		学習の見通しを持ち、学習計画を立てた。	
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はつきりさせる	① 司会者がめあてや全体の学習の流れを確認する。 [めあて] モデル文をもとに説明する文章の書き方を考えよう	○ 学習司会と事前に打ち合わせをし、学習の流れや意見のまとめ方を考えさせるようにする。	プログラム表
	② 教師の説明を聞き、お楽しみ会の内容を確認して、学習の見通しを持つ。	○ 伝える相手（2年生男児1）や目的（低学年の児童も楽しめる会）などの条件を確認する。	ワークシート
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	③ 2つのモデル文をどちらが分かり易いかをて、マーキングする。その理由を考えワークシートに書く。発表用に短冊にも書く。 《予想される児童の反応》 ・Aは、はじめに、次に、などの言葉が使われている。Bは使われていない。 ・Aは段落があって読みやすい。Bは段落がない。 ・Aは一つの文が短い。Bは長い。 ・Aは具体的な数字がかいてある。Bにはない。	○ 2つのものの比べ方の基本「Aは～で、Bは～」を押さえる。 思考【比べる】 2つの文章を比べて、違いを見つけることで、分かりやすい理由を考えている。 ☆評価基準 モデル文を比べることで、伝える相手に分かりやすい説明をする文章のポイントをまとめることができる。 [ワークシート・観察]	ワークシート 短冊
	④ それぞれが考えた理由を発表する。理由をもとにポイントをつくる。 ⑤ 自分が思いつかなかったポイントをワークシートに付けたす。ポイントシートを広用紙に協力して書く。	○ 2つのものの比べ方の基本を押さえているかを確認しながら聞くように促す。 ○ 児童から出ないポイントがある場合は教師が補説する。	広用紙 画用紙短冊
まとめる	⑥ 司会者がまとめた後に教師の補説を聞く。 ⑦ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。 《学習内容》 ・説明する文章は、順序を表す言葉を使うと分かり易い。 《学習方法》 ・2つの文章を比べて違いを見つけるとよい。	○ 大切なポイントは見つけることができたことをほめて強化する。 ○ 学習計画に基づき行う。	ワークシート
	⑧ 次時の学習内容を確認する。		学習計画表

イ 研究の成果と課題

第5学年 特別支援（自・情）レインボータイム

「モデル文をもとに説明する文章の書き方を考えよう」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- ・ 学習計画をたて提示することで「下級生とのお楽しみ会を成功させる」という学習のゴールを見据えて、今、自分が何のために学習をしているか、この学習がどんな場面で役に立つかを意識しながら、見通しと主体性を持って学習に取り組むことができた（資料38）。

《課題》

- ・ 合科・関連的単元構想を効果的に進めるために、今後も自立活動とレインボータイムの学習内容の連携をスムーズに設定し、時間の調整をしていく必要がある。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

《成果》

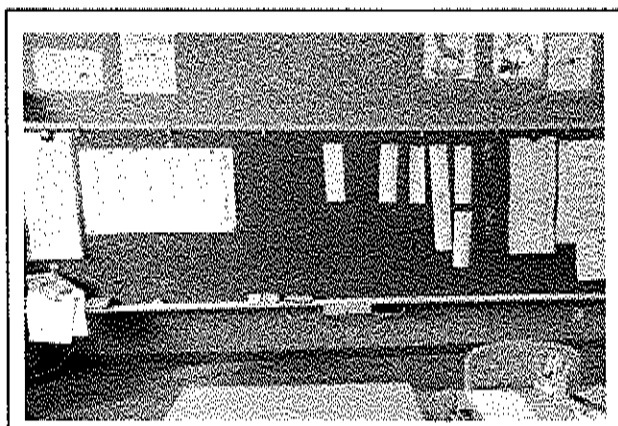
- ・ PWでは、児童は、ワークシートの2つのモデル文（Aの文・Bの文）の違いに印をつけながら比較し、分かりやすく説明している部分を見つけることができた。そして、ワークシートに「Aは～、Bは～」という比較する場合の文型を提示しておくことで、児童は、その文型に沿って、「Aは『はじめに』『つぎに』『さいごに』がないけど、Bにはある」など分かりやすく説明できている部分を短冊に書くことができた。

CWでは、短冊を分類し、短冊の言葉をより簡潔にするよう話し合うことで、「文を短くする」、「順序を表す言葉がある」「具体的な数字を入れる」等見つけた説明のポイントを一般化した文で5点にまとめることができた。（資料39）（資料40）（資料41）

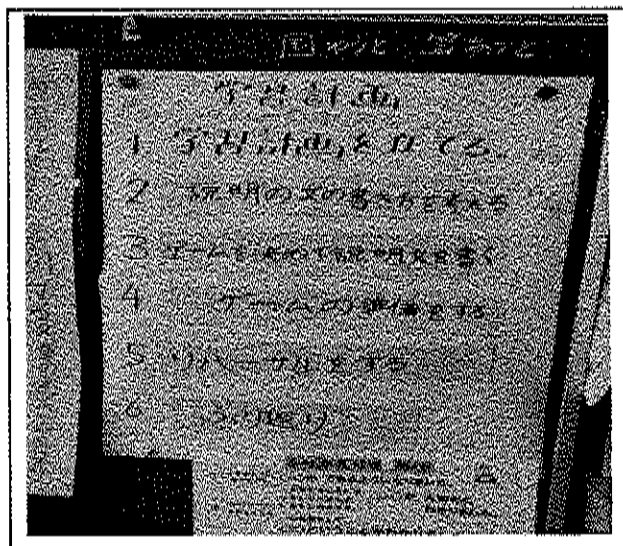
《課題》

- ・ 児童が2人しかいないので多様な意見は出にくい。教師が児童の考えをゆさぶるような意見を出したり、生活場面での具体例を出したりして児童が多様な意見に触れるようにしたい。そして、教師の補足説明を丁寧に行うことで理解をより深めさせる必要がある。今後も、異なる立場から考えさせるなど多様な意見へ導く手立てを研究していく。

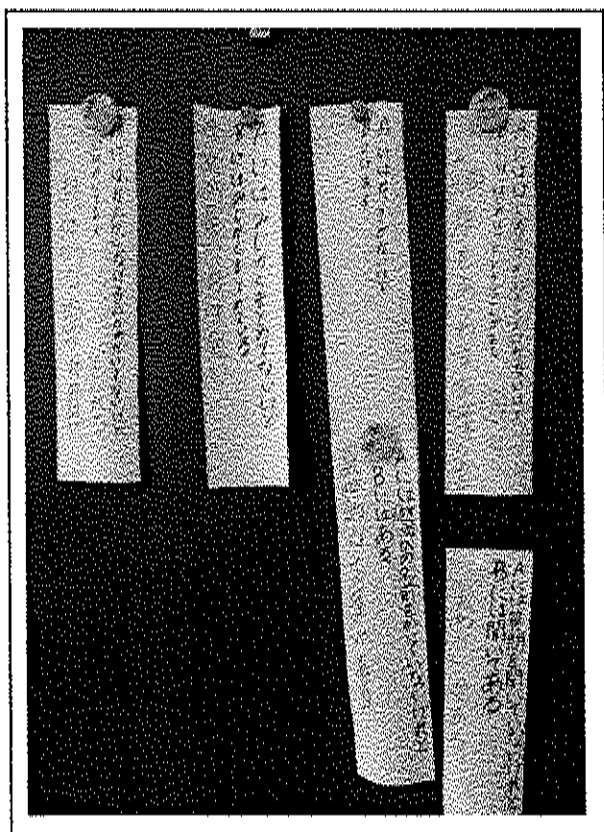
ウ 資料



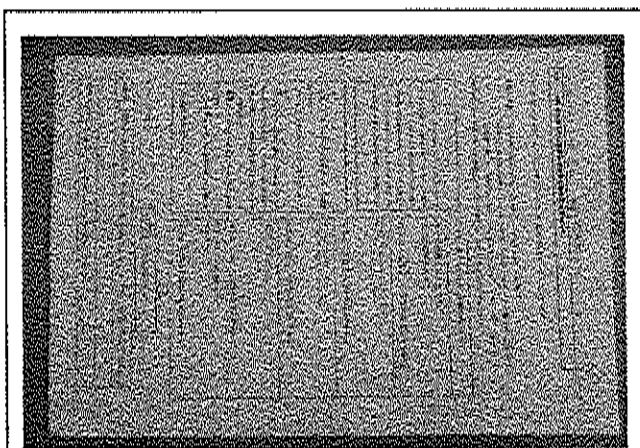
資料 37 板書全体像



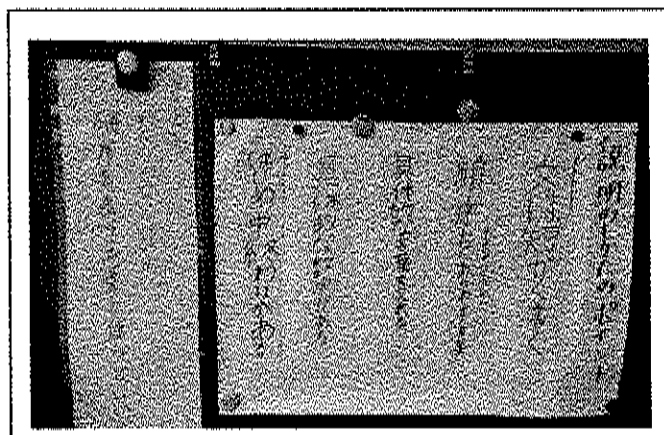
資料 38 学習計画表



資料 39 GWでの児童の短冊
比較する場合のポイント
(Aは～、Bは～)を守って
書いている



資料 40 児童のワークシート
2つのモデル文を比較して違いを見つけている



資料 41 できあがったポイントシートと児童のまと

令和2年11月16日(月) 3校時

場所: 6年生教室, 児童数: 17名

指導者: 教諭 円城寺 理絵

《単元名》 表現の工夫を捉え、読み手に考えが伝わりやすくなる文章にするポイントを整理しよう

《教材名》 『鳥獣戯画』を読む(『国語 六 創造』光村図書)

《時間数》 全8時間 本時5/8時間

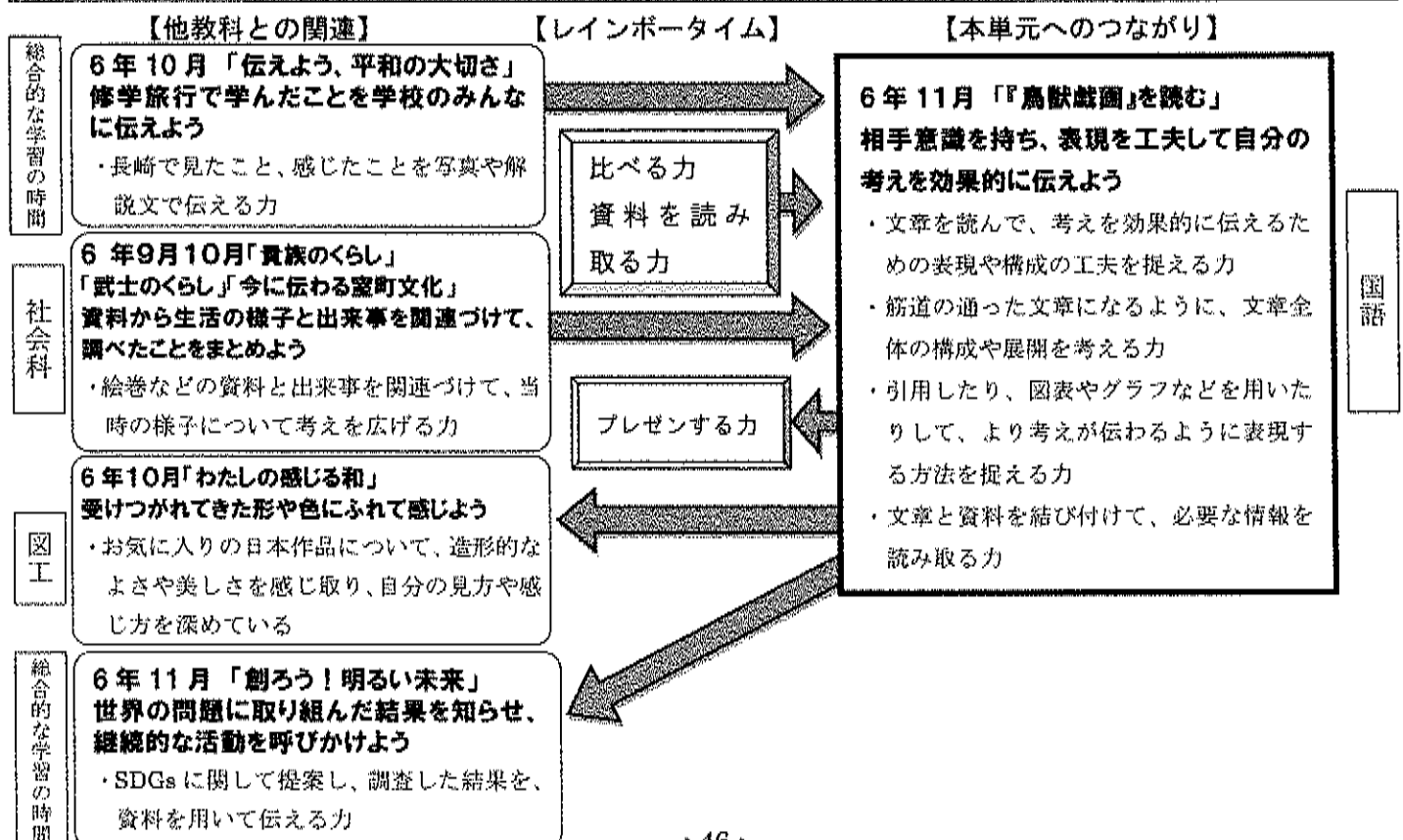
1 単元について

(1) 他教科との関わり

本単元は、伝えたいことを効果的に伝えるための表現の工夫を様々な場面で活用できるように整理していくことをねらいとしている。教材『鳥獣戯画』を読むは、絵についての描写とそれに対する解釈・評価を繰り返して論が展開されており、つながっている絵は筆者の意図によって二つに分けて示されている。また、体言止めや短文によるリズム、読者に語りかける文や随所に出てくる評価語によって、筆者の伝えたいことがより強く伝わる教材となっている。児童は、これまでの学習で、各段落の内容や主張を書く場所を意識した文章構成にすることで、分かりやすく相手に伝えることができることを学習してきた。しかし、文章構成だけでなく、注目させるための絵の示し方、体言止めなどの表現の工夫、描写と解釈を繰り返す論の展開にも着目させることは、伝えたい事をより強く伝えるために大切だと考える。

本単元の前には、社会科の学習の中で、各時代に書かれた絵巻物を当時の様子を知る手がかりとして扱う。事前に絵巻物に触れておくことは、『鳥獣戯画』への興味を深められると考える。導入では、総合的な学習の時間に平和を訴える写真の解説文を書いた経験をもとに、写真を資料として用いる説明の仕方を振り返らせる。児童が書いた解説文を用いて説明の仕方を振り返らせることは、解説文を身近に感じさせることになり、より主体的な学習につながるであろう。また、社会科の学習では、単元ごとに児童が興味を持ったことを新聞にまとめる活動を行っている。本単元で学んだ表現の工夫を社会科での新聞作りに生かすことで、他教科との学習のつながりを実感できるようにする。

本来、国語の教科書では本教材を「読むこと」と、日本文化に関して調べたことをリーフレットにまとめる「書くこと」の複合単元となっている。しかし、本単元での「書くこと」は、総合的な学習の時間の「創ろう! 明るい未来」と合科的に進める。この単元では、SDGsに関して提案し、調査した結果をリーフレットにまとめる活動を計画しており、児童達に必然性を持たせて取り組ませることができると考える。一方、日本文化に関する調べ学習は、この後に行う「柿山伏」や社会科の歴史の学習、音楽での雅楽「越天楽今様」を扱った学習と関連させながら取り組む。



2 単元の目標

- 文の中での語句の係り方や語順、文章の構成や展開について理解し、語彙を豊かにすることができる。
- 文章と資料を結びつけて必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることで、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わる書き表し方を工夫することができる。
- 文章と資料を結びつけて必要な情報を読み取ったり、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫したりすることに粘り強く取り組み、見通しを持って活動に取り組むことができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 文の中での語句の係り方と文の成分の順序や述語の位置などの語順の工夫について理解している。
思考・判断・表現	① 資料が文章のどの部分と結びつくのかを明らかにして、必要な情報を見付けたり、絵を資料として用いた説明の仕方について考えたりしている。 ② 資料の提示の仕方や論の進め方、表現の工夫にこめられた筆者の考えや意図を捉えている。
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで活動に参加し、より考えが伝わる表現の工夫を粘り強く考えている。

4 単元の授業過程（全8時間 本時5／8時間）

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法	
一次	1	○ 総合的な学習の時間に児童が書いた写真の解説文と絵の解説文を比較し、解説文を書く視点を整理する。	【主】モデルの解説文と比べることで、解説する上で必要な視点について主体的に考えている。 [発言・ワークシート]	社会科 「貴族のくらし」 「武士のくらし」 「今に伝わる室町文化」
	2	○ 既習の説明文のポイントをふり返る。 ○ 「『鳥獣戯画』を読む」を読んで、既習の説明文のポイントを確認する。	【思】既習の説明文のポイントを教材文の中から探している。[ワークシート]	レインボータイム 「資料を読み取る力」 レインボータイム 「比べる力」
	3	○ 「『鳥獣戯画』を読む」について既習の説明文との違いを書き出す。 ○ 教師の説明を聞き、学習課題と学習計画を立てる。	【主】課題意識を持ち、今後の活動に見通しを持っている。 [学習計画表]	レインボータイム 「プレゼンする力」
二次	4	○ 本文と書き言葉に書き換えた本文を比較し、筆者が行っている文章表現の工夫をまとめる。 ○ 文章表現の工夫に込められた筆者の意図やねらいを考える。	【知】文の中での語句の係り方と文の成分の順序や述語の位置などの表現の工夫を捉えている。 [観察・ワークシート]	
	5 (本時)	○ 教師が選んだ文章を、描写と解釈と評価で分類する。 ○ 筆者の意図やねらいと関連づけて、論の展開の工夫をまとめる。	【思】①絵の描写、筆者の解釈、絵に対する評価という内容で叙述を分類している。[ワークシート]	社会 「今に伝わる室町文化」 図工 「わたしの感じる和」
	6	○ バラバラにした絵と本文の文章を提示し、照らし合わせて並べる。 ○ 資料の提示の仕方に込められた筆者の意図を考える。	【思】②絵と叙述を関連づけ、資料の提示の仕方に込められた筆者の工夫を考えている。 [発言・ワークシート]	
	7	○ これまでの学習から、筆者が行っているわかりやすく伝えるポイントをまとめる。	【主】教材で取り上げられているポイントを整理しようとしている。[ワークシート]	総合的な学習の時間 「創ろう！明るい未来」
三次	8	○ チェックシートの項目に沿って、振り返りをする。	【主】学んだことを一般化している。[ワークシート]	

5 本時の学習

○ 目標

筆者のねらいと関連づけて、資料として絵を用いた説明の仕方の工夫を考えることができる。

○ 本時の評価規準

叙述を絵の描写、解説、評価の3つに分類し、3つの視点で繰り返し説明することで、説得力を増していることに気付くことができる。[ワークシート]

○ 展開

前時の学習内容		体言止めや短文によるリズム、読者に語りかける文や評価語によって、筆者の思いがより強く伝わるようになっている。	
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はつきりさせる	① 司会者が、めあてや全体の学習の流れを確認する。 [めあて] 資料として絵を読み取り、筆者のねらいと関連づけて説明の工夫をまとめよう	○ 学習司会と事前に打ち合わせをし、学習の流れや意見のまとめ方を考えさせるようにする。	学習計画表
	② 教師の説明を聞き、今までの学習内容をふり返り、課題に見通しを持つ。	○ 絵の解説文を書く時には、描写、解説、評価の視点で書けばよかったことを確認する。	ワークシート
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	③ 一人で、絵のどこに着目しているのかマーキングして、三つの視点で文章を分類する。 《予想される児童の反応》 ・筆者は「鳥獣戯画」が人間の宝だってことを伝えたい。 ・「蛙の口から線が出ている」「蛙が兎の耳をがぶりとかんだ。」は絵の中にマーキングできるから、描かれていることだ。 ・「まるで人間みたい」「気合いの声なのではないか」は絵の説明（解説）だと思う。 ・「見事な筆運び」「面白い」は評価になる。	○ マーキングできるか、できないかを手がかりにして分類できることを伝える。 思考【分類する】 視点に沿って絵と関連づけながら、文章を分類する。 ☆評価規準 絵と文章を結びつけて、叙述を3つに分類することができ、それぞれをどのような視点で分類したのか言葉で書くことができ	ワークシート
	④ グループで筆者が伝えたいことを出し合い、分類の仕方を一つの意見にする。 ⑤ グループから出された意見を比べ、全体で検討し、整理してまとめる。 ⑥ 一人で、三つの視点で書かれているところを本文中から探し、書き出す。	○ 支援が必要な児童には、これまでの説明の仕方を確認したり、文末に注目させたりするように助言する。 ○ 筆者が伝えたい事を一つにしぼる必要はないことを伝える。 ○ 三つの視点で書かれた文章が他にもあり、繰り返されていることに気付かせる。	学ボード 黒板 ワークシート
まとめる	⑦ 司会者がまとめた後に教師の補説を聞く。 ⑧ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。 《学習内容》 ・資料に書かれていることを三つの視点で繰り返すことで説得力を増している。 《学習方法》 ・資料として絵を読み取るには、いくつかの点に注目して、絵を読み解く必要がある。	○ 司会が述べたまとめが学習内容、学習方法のどちらに入るのか確認し、述べていない方のまとめについて一助となるように補説を加える。	ワークシート
	⑨ 次時の学習内容を確認する。	○ 学習計画に基づき行う。	学習計画表

イ 研究の成果と課題

第6学年 国語科

「表現の工夫を捉え、読み手に考えが伝わりやすくなる文章にするポイントを整理しよう」

研究授業についての成果と課題

1 主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成と課題設定、導入学習の工夫（重点方策①）

《成果》

- ・ 今回の教材は、資料としての絵を題材として扱っているものであった。そのため、絵を読み解く視点を図工に、絵を解説する文章構成や文章表現の力を総合的な学習の時間や社会に、というように様々な教科との合科・関連的単元構成を考えることができた。
- ・ 導入では、総合的な学習の時間に平和を訴える写真の解説文を書いた経験をもとに、写真を資料として用いる経験を振り返らせた。児童が書いた解説文を用いて振り返らせたことで、解説文を身近に感じ、主体的な学習につながった（資料 42）。
- ・ 今回の説明文を読んで、児童は既習の説明文よりも分かりやすいという第一印象を抱いた。しかし、本教材では児童がこれまでに学習した説明文の文章構成の型などは用いられていない。児童が教材に対する大きな問いを持ったことで、より主体的に学習に取り組むことにつながった。
- ・ 児童は学習課題でオリジナルの『鳥獣戯画』説明文を書くことを設定し、学んだ文章表現を用いて、楽しく学びを生かそうとしていた（資料 43）。また、本教材で学んだ文章表現を行事の作文を書く時に使っている様子が見られた（資料 44）。

《課題》

- ・ 教材が持つ魅力によって、児童の主体的な学びが生まれたともいえる。どのような教材でも児童が主体的に取り組める導入学習の工夫を考えていきたい。
- ・ 本単元では主に書く力を身に付けるものであったため、行事後に書く作文や他教科との関連も図りやすいものであった。国語科以外においても主体的な学びを生み出す合科・関連的単元構成を考えていく必要がある。

2 GW・CWでの視覚化の工夫（関連付け・整理・表現する過程）（重点方策②）

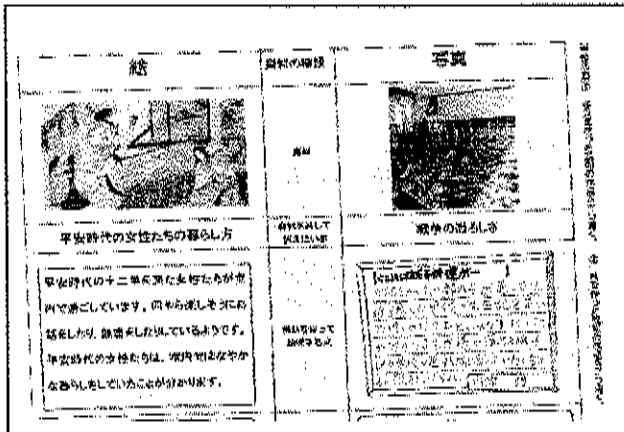
《成果》

- ・ 「『鳥獣戯画』を読む」の文章を大きく三つに分類する活動を設定した。3つの項目を先に与えたことで、児童が分類する視点となった。GWで話し合ったことをまとめるものをワークシートと同じ型にすることで、話し合いがスムーズに進んだ。

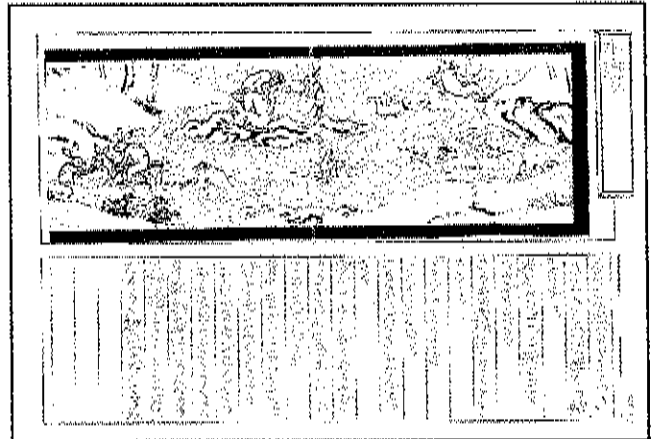
《課題》

- ・ 項目＝分類する視点にしたことはよかったが、分類する視点としてあまり効果的とはいえず、GW・CWにおいて児童が混乱し、教師の補説で強引にまとめる形になってしまった。
- ・ 児童が分類しなければならない文章が多く、机の上、黒板の上に文章が並び、整理しにくくなっていた。また、児童が整理するのに時間がかかってしまった（資料 45）（資料 46）。

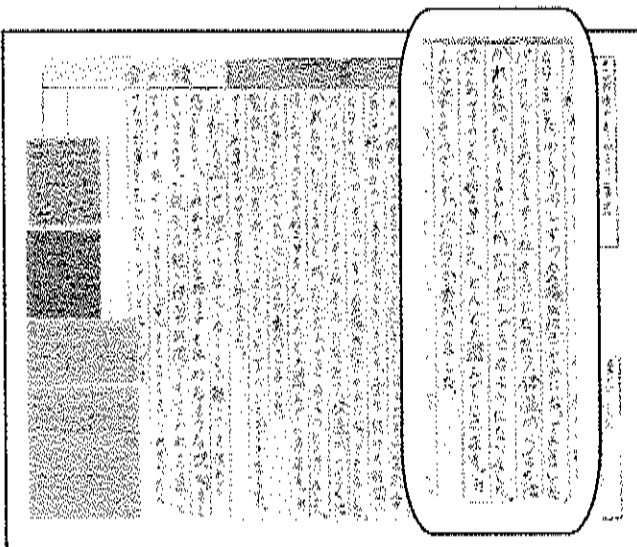
ウ 資料



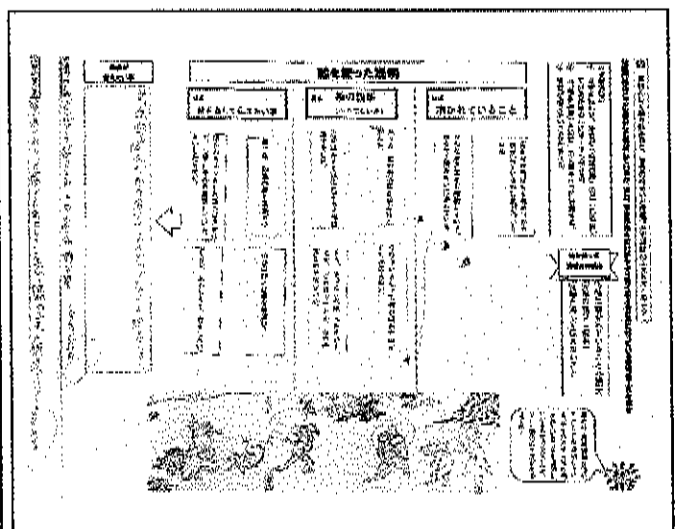
資料 42 2時間目のワークシート



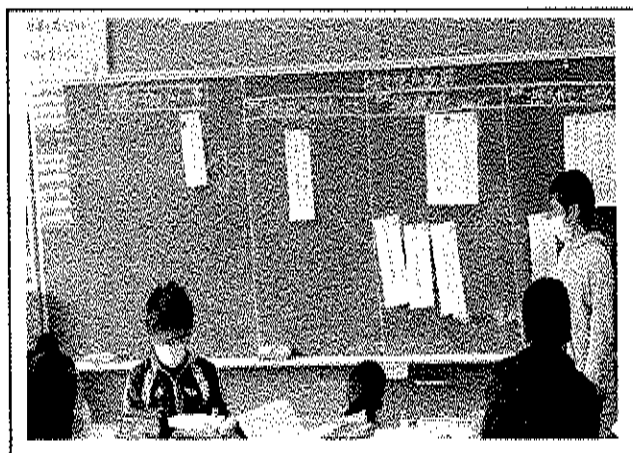
資料 43 文章表現を使って書いたオリジナル説明文



資料 44 意図的に短文を繰り返した行事作文



資料 45 GW・CWで変化した考えを矢印で表した本時ワークシート



資料 46 変化した考えを矢印で表した板書

3 専門部実践

(1) 学びつくり部実践

ア 教育課程編成と合科・関連的単元構想に関する共通理解

4月の第2回全体研修にて教育課程編成について以下の7点について共通理解を図り、実践に取り組んだ。

- ① 学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の理念により学んだことを生活に生かし、家庭や地域への発信していく単元のゴールの工夫や地域の人的・物的資源の活用を進めて体験活動の充実をしていくこと、
- ② 身に付けさせたい資質・能力を意識しながら全職員で学習活動を実施、見直し、精選していくこと
- ③ 学習指導要領に国語科の内容として新設された「(2)情報の扱いに関する事項」の内容を確認し、本校特設の時間「レインボータイム」の「言語活用能力」と関連付けていくこと
- ④ 例えば、算数科のグラフの読み方等の「図解力」は、「レインボータイム」の「情報活用能力」として開発したワークシートを使って力をつけていくこと
- ⑤ 各学年の合科・関連的単元配列表の中にプログラミング的思考を育むことができる単元(ブ)と表記し、情報処理の流れである「順次」「分岐」「反復」を意識して指導していくこと
- ⑥ 持続可能な世界の実現に向けて「環境」「人権」「文化理解」の視点からSDGs教育として教科横断的な指導に着手していくこと
- ⑦ P D C Aサイクルを回すために1学期の実践評価を夏季休業に行い、2学期実践へつなげること、2学期実践評価を2学期末に行い、3学期改善、次年度計画に反映させていくこと

イ 「進んで学び続け、自ら考えを広げ深める」授業づくりの方策

7月の全体研修会で本校の児童に育成すべき資質・能力として設定した「進んで学び続ける力」「自ら考えを深める力」を育むために授業づくりの重点方策を共通理解した。(表4)

重点方策①は、他教科や「レインボータイム」と関連させた合科・関連的単元構成によって、導入学習の工夫を図り、課題解決の必要性を感じながら児童が学び進めていくことを目指した。

重点方策②は、各教科の知識・見方・考え方を想起させ、関連付け、図や表に整理させるワークシートの工夫やグループやクラスでの話し合いを「まなボード」や短冊等を活用、自分の考えを朱書き修正する時間を確保等により関連付け・整理・表現することの視覚化を図った。

重点方策③は、特別活動や行事での学びの発揮・発信として児童の実行委員会による行事の計画・運営・キャリアパスポートの開発と活用による振り返りの充実、地域での体験活動で得た学びや自分たちで考えた地域貢献の発信を図った。

表4 授業づくりの3つの重点方策

重点方策①:	合科・関連的単元構想による課題の工夫	・他教科・レインボータイムとの関連 ・導入学習の工夫によって課題解決の意欲付け・必要感(できていること・できていないことの確認) ・学習計画の掲示
重点方策②:	関連付け・整理・表現する過程の視覚化	・各教科の知識・見方・考え方を汎用的に働かせ、他者との対話を考えの再構築につなげる →ワークシートの工夫 ・「まなボード」・短冊などの活用→思考操作の視覚化(図や表にまとめる) ・班編成の工夫→視点の異なるグループとの交流 ・学びの自覚化(考えの朱書き修正) ・まとめを書く(キーワード・モデル文の提示) ・ポイントシートのストック化→掲示 ・ふりかえり7点
重点方策③:	特別活動・行事での学びの発揮・発信	・キャリアパスポートの活用 ・実行委員会での計画力・調整力・話し合う力 ・地域ありがとう集会での発信

そして、重点方策を踏まえ、「唐津市学力向上アクションプランチェックシート【改訂版】」の11項目と、本校の目指す授業スタイルに合わせた具体的な手立てを並列させた「授業づくりチェックシート」(図5)を作成・活用することで、職員間で共通目標の具体化と本校の「レインボータイム」で培う言語能力・情報活用能力を活かした授業を推進した。

この「唐津市学力向上アクションプランチェックシート【改訂版】」については、毎月末に各項目についてA・B・Cの3段階で個人評価を行うことで実践の点検・改善のサイクルを積み重ねた。さらに、学力向上コーディネーターと学びづくり部職員が、個人評価の学期毎の集計結果や授業担当者の実践の成果と課題を集約、分析して改善策をまとめたものを、全職員で確認、共通理解することで次の実践へとつなげていくことができた。

項目	チェック内容
②	単元
③	課題提示
④	学習活動(課題解決)
⑤	1 単位時間
⑥	評価
⑦	単元の学習過程 ※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。
⑧	単元全体の見通しと現在地の把握 ※児童生徒に学習の進捗を把握させているか、学習の振り返り。
⑨	本時の学習課題の把握 ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。
⑩	個別の課題解決学習(Personal) ※課題解決の時間や場を確保しているか。
⑪	グループによる課題解決学習(Group) ※課題解決に向けた、児童生徒からの学びの発見や気づきなどがあるか。
⑫	クラスによる課題解決学習(Class) ※各グループの意見を生かした話し合いを行っているか。
⑬	教師による解説・解決・解答 ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補完説明を行っているか。
⑭	子どもの最終的な記述(表現) ※本時の学習課題に対応した記述(表現)をさせているか。
⑮	学習の振り返り ※学んだことの整理や自己評価。
⑯	条件に応じた記述(書き出し) ※条件付きの書き出し活動を行っているか。
⑰	ふりかえり7点(学びづくり部より提案済) ① 分かったこと・分からなかったこと。 ② 学び方や学習の方法について。 ③ 自分の考え方が変わったこと(変容)と理由。 ④ 友達や先生の考え方(学びあった良さ)。 ⑤ さらに学びたいこと(次時に・他教科に・実生活に)。 ⑥ 今後やらなければならないこと。 ⑦ 感想。

②★合科・関連的単元による課題の工夫。
★レインボータイムとの関連。

③ ○学習計画の作成。
○日常生活や行事などと関連付けた単元ゴールの設定。
○前時の振り返り。

④ ○導入の工夫によって課題解決の意欲付け・必要感。
○本時のめあての可視化。

⑤ ワークシートの工夫(思考の整理・可視化)
○自分なりのとらえ方・考えの形成。
○自分のテーマに沿った情報収集。

⑥⑦⑧GW/CWで思考の関連付け・整理・表現。
○「まなボード」・短冊などの活用。
○意見の共通点・差異点にマーカー付け・仲間分けなど思考操作。
★各教科の知識・見方・考え方の関連付け。
★(レ)表や図・引用文・模式に合わせて書く力。
○班編成の工夫→視点の異なるグループとの交流。

⑨教師の補説
(学びの有用性を感じさせる)。
○一般化。
○学習してつかったことと、生活との結びつきを話す。

⑩ 学びの自覚化。
★キーワードやモデル文の提示。
○ワークシート：自分の考えへの付加・修正は朱書き。
○ポイントシート：学習した知識・学び方のストック。

図5 「授業づくりチェックシート」

令和2年11月16日(月) 3校時

場所: 6年生教室, 児童数: 17名

指導者: 教諭 円城寺 理絵

《単元名》 表現の工夫を捉え、読み手に考えが伝わりやすくなる文章にするポイントを整理しよう

《教材名》 『鳥獣戯画』を読む(『国語 六 創造』光村図書)

《時間数》 全8時間 本時5/8時間

1 単元について

(1) 他教科との関わり

本単元は、伝えたいことを効果的に伝えるねらいとしている。教材『鳥獣戯画』を展開されており、つながっている絵は筆者のリズム、読者に語りかける文や随所に出てくる。児童は、これまでの学習で、各段落の相手に伝えることができることを学習して、止めなどの表現の工夫、描写と解釈を繰り返して大切だと考える。

本単元の前には、社会科の学習の中で、絵巻物に触れておくことは、『鳥獣戯画』へ訴える写真の解説文を書いた経験をもとに、文を用いて説明の仕方を振り返らせることであろう。また、社会科の学習では、単元で学んだ表現の工夫を社会科での新聞作

本来、国語の教科書では本教材を「読むこと」と、日本文化に関して調べたことをリーフレットにまとめる「書くこと」の複合単元となっている。しかし、本単元での「書くこと」は、総合的な学習の時間の「創ろう! 明るい未来」と合科的に進める。この単元では、SDGs に関して提案し、調査した結果をリーフレットにまとめる活動を計画しており、児童達に必然性を持たせて取り組ませることができると考える。一方、日本文化に関する調べ学習は、この後に行う「柿山伏」や社会科の歴史の学習、音楽での雅楽「越天楽今様」を扱った学習と関連させながら取り組む。

《他教科との関わりと児童の実態》

①本単元でのねらい →指導観

②本教材での活動 →教材観

③児童の実態 →児童観

・今までの学習でどんな力が身に付いているのか、学習の系統や何を学習してきたのか

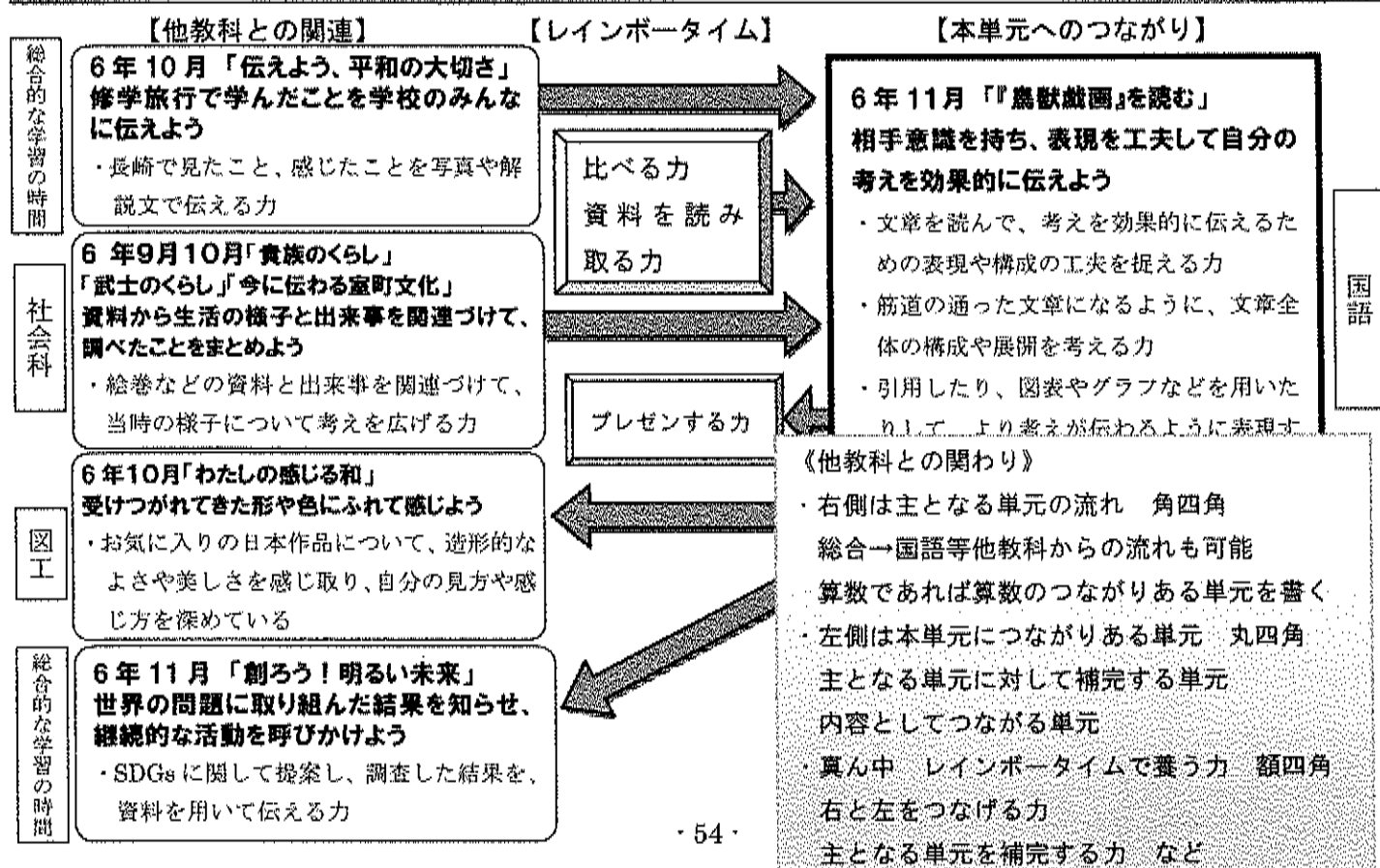
・「～できない」という書き方ではなく、十分ではない、課題がある。

・身に付ける必要がある 等

・その教科に関する能力の実態を書く

④他教科との関わり

・特に関わりが深い教科のことだけでよい



2 単元の目標

- 文の中での語句の係り方や語順、文章の構成や展開について
- 文章と資料を結びつけて必要な情報を見つけたり、論の筋道に
 応じて、自分の考えが伝わる書き表し方を工夫すること
- 文章と資料を結びつけて必要な情報を読み取ったり、自分の
 考えを伝えることに粘り強く取り組み、見通しを持って活動に取り組むことができる。

《単元の目標》

- ・素材（教材名・主人公名など）は入れない
- ・指導要領との結びつきを明確にする
- ・文末は「～できる。」

3 単元の評価規準

知識・技能	① 文の中での語句の係り方と文の成分の働きについて説明している。	《単元の評価基準》 ・素材は入れない ・目標に合った評価基準にする
思考・判断・表現	① 資料が文章のどの部分と結びつくのか、資料として用いた説明の仕方について考える。 ② 資料の提示の仕方や論の進め方、表現の工夫について考える。	・目標を具体化したものにする ・文末は「～している」 ・本単元での評価基準でよい
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで活動に参加し、より考えが伝わるように工夫する。	*他教科との関わりを通して評価できるものは記入しない

4 単元の授業過程（全8時間 本時5／8時間）

次	時間	学習活動	評価規準と評価方法	
一次	1	○ 総合的な学習の時間に児童が書いた写真の解説文と絵の解説文を比較し、解説文を書く視点を整理する。	【主】モデルの解説文と比べることで、解説する上で必要な視点について主体的に考えている。 [発言・ワークシート]	社会科 「貴族のくらし」 「武士のくらし」 「今に伝わる室町文化」
	2	○ 既習の説明文のポイントをふり返る。 ○ 『鳥獣戯画』を読む』を読んで、既習の説明文のポイントを確認する。	【思】既習の説明文のポイントを教材文の中から探している。[ワークシート]	レインボータイム 「資料を読み取る力」 レインボータイム 「比べる力」
	3	○ 『鳥獣戯画』を読む』について既習の説明文との違いを書き出す。 ○ 教師の説明を聞き、学習課題と学習計画を立てる。	【主】課題に見通し 【学習計画】	《他教科とのつながり》 ・レインボータイムや各教科で学習したことがどの教科につながるのか分かるように書く ・矢印の向きにも注意
二次	4	○ 本文と書き言葉に書き換えた本文を比較し、筆者が行っている文章表現の工夫をまとめる。	【知】本文の成分 表現の工夫を捉えている。 [発言・ワークシート]	「プレゼンする力」
	5 (本時)	《学習活動》 ・簡潔に児童の活動を書く 《評価規準》 ・評価規準は【知】【思】【主】に合わせて書く ・[]の中に評価方法を書く	【知】①絵の描写、筆者の解釈、対する評価という内容で叙分類している。[ワークシート]	社会 「今に伝わる室町文化」 図工 「わたしの感じる和」
	6	○ バラバラにした絵と本文の文章を提示し、照らし合わせて並べる。 ○ 資料の提示の仕方に込められた筆者の意図を考える。	【思】②絵と叙述を関連づけ、資料の提示の仕方に込められた筆者の工夫を考えている。 [発言・ワークシート]	
	7	○ これまでの学習から、筆者が行っているわかりやすく伝えるポイントをまとめる。	【主】教材で取り上げられているポイントを整理しようとしている。[ワークシート]	総合的な学習の時間 「創ろう！明るい未来」
三次	8	○ チェックシートの項目に沿って、振り返りをする。	【主】学んだことを一般化している。[ワークシート]	

5 本時の学習

○ 目標

筆者のねらいと関連づけて、資料として絵を用いた説明

《本時の目標・本時の評価基準》

・単元の目標や評価基準がさらに具体化したものが本時の評価になる

○ 本時の評価規準

叙述を絵の描写、解説、評価の3つに分類し、3つの視点で繰り返し説明することで、説得力を増していることに気付くことができる。[ワークシート]

○ 展開

※展開の過程 はっきりさせる→自分の考えを持つ→交流する・明らかにする→まとめる

前時の学習内容	体言止めや短文によるリズム、読者に語りかける文や評価語によって、筆者の思いがより強く伝わるようになっている。		
過程	学習活動	教師の支援活動	教材等
はっきりさせる	① 司会者が、めあてや全体の学習の流れを確認する。	○ 学習司会と事前に打ち合わせをし、学習の流れや意見のまとめ方を考えさせるようにする。	学習計画表
	[めあて] 資料として絵を読み取り、筆者のねらいと関連づけて説明の工夫をまとめよう		
自分の考えを持つ・交流する・明らかにする	② 教師の説明を聞き、今までの学習内容をふり返り、課題に見通しを持つ。	○ 絵の解説文を書く時には、描写、解説、評価の視点で書けばよかったことを確認する。	ワークシート
	③ 一人で、絵のどこに着目しているのかマーキングして、三つの視点で文章を分類する。	○ マーキングできるか、できないかを手がかりにして、	ワークシート
	《予想され》 ・筆者は「」 ・「蛙の口が」 は絵の中に ・「まるで人間みたい」「気合いの声なのではないか」は絵の説明(解説)だと思う。 ・「見事な筆運び」「面白い」は評価になる。	《思考について》 ・授業内では、児童に何かしらの思考をさせ、どの思考をしているか意識して本時を組む	
	④ グループで筆者が伝えたいことを出し合い、分類の仕方を一つの意見にする。	○ 支援が必要な児童には、これまでの説明の仕方を確認したり、文末に注目させたりするように助言する。	学ボード
	⑤ グループから出された意見を比べ、全体で検討し、整理してまとめる。	○ 筆者が伝えたい事を一つに絞る必要はないことを伝える。	黒板
まとめる	⑥ 一人で、三つの視点で書かれているところを本文中から探し、書き出す。	○ 三つの視点で書かれた文章が他にもあり、繰り返されていることに気付かせる。	ワークシート
	⑦ 司会者がまとめた後に教師の補説を聞く。	○ 司会が述べたまとめが学習内容、学習方法のどちらに入るのか確認し、述べていない方の	ワークシート
	⑧ 学習内容と学習方法についてまとめを書き、振り返りをする。	○ 学習のまとめは司会の児童が言う	
	《学習内容》 ・資料に書かれていることを三つの視点で繰り返すことで説得力を増している。 《学習方法》 ・資料として絵を読み取るには、いくつかの点に注目して、絵を読み解く必要がある。	《本時の展開について》 ・教師の補説→自分の考えの修正	
	⑨ 次時の学習内容を確	《まとめについて》 ・内容のまとめと方法のまとめの2種類がある	学習計画表

司会レベル

	進行	めあて	まとめ
低学年	先生の口添えありで進める	* 先生が提案	①学習したこと ②分かったこと 気付いたこと
中学年	マニュアルを見ながら一通り進めることができる	* 先生と相談しながら立てる 「(気を付けることを入れて)～しよう」	①学習したこと ②分かったこと(短くまとめる)
高学年	マニュアルなしで全て進める	* 自分でめあてを立てる 「(思考語彙・操作を入れて)～しよう」	①学習したこと ②要約 ③呼びかけ

GWレベル

	PW からの流れ	GW での様子
低学年	・PW で自分の意見を しっかり持つ →GW に参加	意見を交流する
中学年	・自分の意見を持って GW に参加 →GW で意見を出し合う	・不十分な意見でもしっかり自分の意見として提案する ・グループの意見として発表できるようにまとめる * 意見がまとまらないことも意見として CW にあげる
高学年	・よりよく GW が進むように サポート・助言し合う ・更に高められるようにする	・討論・協議を活発にできるよう、質問や意見を交わす ・時間内にまとまるように話し合いを調整する * GW で決まらない場合は CW で投げかけるようにする

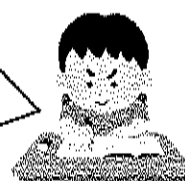
マーキング

①聞かれていること _____

②大切なことば _____

③数字 

マーキングは問題を読み込む意識をつけさせるためです。
各先生の裁量で色々つけ加えていいと思います。



エ 成果と課題

《成果》

(1) 合科・関連的単元構成、カリキュラムマネジメントについて

- ・ 本校特設の時間「レインボータイム」で育んできた言語操作力と思考操作力を、今回の学習指導要領で示された「言語活用能力」「情報活用能力」として再構築することで、指導要領に沿って、これまでの校内研究の学びを生かし、更に磨き上げることにつながった。
- ・ 地域の人的・物的資源の活用を進め、体験活動の充実を図った。児童が行う活動の進行やお世話になった方へのお礼の手紙を書く時、学んだことを壁新聞にまとめる時などに、教科での学びを必然的に使う場面が生まれ、児童の主体的な学びを更に促すことができた。

(2) 授業作りの方策

- ・ 思考スキルを入れていくことで、教科固有の知識技能の定着だけを促すのではなく、教科の見方・考え方や教科等を横断する汎用的なスキルを身に付けることを意識し、授業作りを進めることができた。
- ・ 司会レベル、GWレベルの系統表を作成したこと、児童に身に付いている習慣（友達の考えを朱書きする、PW→GW→CWの流れ）を継続することで、学年を問わない普遍的な指導ができた。

(3) 授業研究に向けて

- ・ 指導案に「他教科との関わり」「本単元へのつながり」を図化したことで、合科・関連的単元作りを意識することにつながった。どの学年の授業も様々な教科、単元との関わりを持たせた単元作りができ、合科・関連的単元の可能性を広げることができた。
- ・ 単元の導入には、既習の確認や他教科の活動での気づきを入れることで、児童が学習したことを活用しようとする意識を育むことができた。
- ・ 単元作りを児童と一緒に行うことで、児童の主体的な学びを促しつつ、相手意識を持たせたゴールを設定することにつながった。

《課題》

- ・ 合科・関連的単元作りにおいて、同一学年内の学びである横の関連性の充実だけでなく、縦の関連性をより重要視していく。
- ・ 本年は休校による授業時数不足の時間的問題、学習指導要領改定による新教材に不慣れな点もあり、カリキュラムに起こしていても合科・関連的単元作りが行えていない単元があった。
1 教科と関連を持たせるところから始め、小さな単元からでも合科・関連的単元作りを促していきたい。
- ・ 思考の流れ、思考の変化が見える課題、ワークシート、板書計画づくりを提案していく。
- ・ 授業終わりの「学習内容のまとめ」「学習方法のまとめ」について書き分けが難しいという課題が明らかになった。今後、評価のあり方について研究していく。

(2) 心つくり部実践

ア 学校行事での学びの発揮・キャリアパスポート 1 【平和集会】

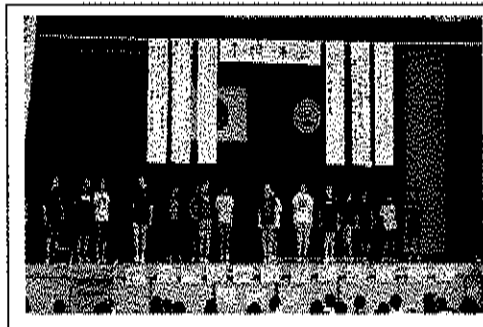
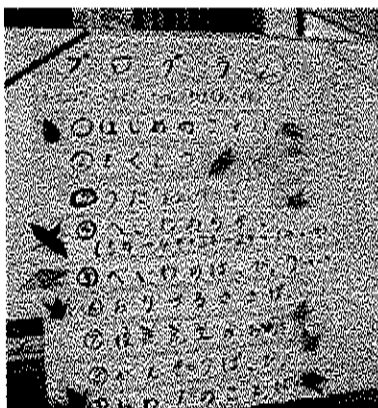
代表委員会での話し合いをもとに全校みんなの力で取り組み、作り上げた最初の集会。

委員会やなかよし班での活動も取り入れ、全校みんなで、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えた。

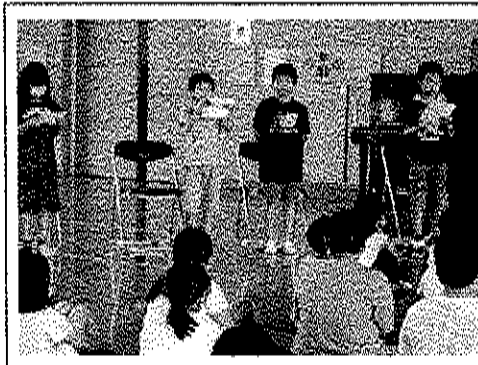
[illegible]

↑事前【3年】↓事後

7月20日 月曜日 晴
 7月21日 火曜日 晴
 7月22日 水曜日 晴
 7月23日 木曜日 晴
 7月24日 金曜日 晴
 7月25日 土曜日 晴
 7月26日 日曜日 晴
 7月27日 月曜日 晴
 7月28日 火曜日 晴
 7月29日 水曜日 晴
 7月30日 木曜日 晴
 7月31日 金曜日 晴
 8月1日 土曜日 晴
 8月2日 日曜日 晴
 8月3日 月曜日 晴
 8月4日 火曜日 晴
 8月5日 水曜日 晴
 8月6日 木曜日 晴
 8月7日 金曜日 晴
 8月8日 土曜日 晴
 8月9日 日曜日 晴
 8月10日 月曜日 晴
 8月11日 火曜日 晴
 8月12日 水曜日 晴
 8月13日 木曜日 晴
 8月14日 金曜日 晴
 8月15日 土曜日 晴
 8月16日 日曜日 晴
 8月17日 月曜日 晴
 8月18日 火曜日 晴
 8月19日 水曜日 晴
 8月20日 木曜日 晴
 8月21日 金曜日 晴
 8月22日 土曜日 晴
 8月23日 日曜日 晴
 8月24日 月曜日 晴
 8月25日 火曜日 晴
 8月26日 水曜日 晴
 8月27日 木曜日 晴
 8月28日 金曜日 晴
 8月29日 土曜日 晴
 8月30日 日曜日 晴
 8月31日 月曜日 晴
 9月1日 火曜日 晴
 9月2日 水曜日 晴
 9月3日 木曜日 晴
 9月4日 金曜日 晴
 9月5日 土曜日 晴
 9月6日 日曜日 晴
 9月7日 月曜日 晴
 9月8日 火曜日 晴
 9月9日 水曜日 晴
 9月10日 木曜日 晴
 9月11日 金曜日 晴
 9月12日 土曜日 晴
 9月13日 日曜日 晴
 9月14日 月曜日 晴
 9月15日 火曜日 晴
 9月16日 水曜日 晴
 9月17日 木曜日 晴
 9月18日 金曜日 晴
 9月19日 土曜日 晴
 9月20日 日曜日 晴
 9月21日 月曜日 晴
 9月22日 火曜日 晴
 9月23日 水曜日 晴
 9月24日 木曜日 晴
 9月25日 金曜日 晴
 9月26日 土曜日 晴
 9月27日 日曜日 晴
 9月28日 月曜日 晴
 9月29日 火曜日 晴
 9月30日 水曜日 晴
 9月31日 木曜日 晴
 10月1日 金曜日 晴
 10月2日 土曜日 晴
 10月3日 日曜日 晴
 10月4日 月曜日 晴
 10月5日 火曜日 晴
 10月6日 水曜日 晴
 10月7日 木曜日 晴
 10月8日 金曜日 晴
 10月9日 土曜日 晴
 10月10日 日曜日 晴
 10月11日 月曜日 晴
 10月12日 火曜日 晴
 10月13日 水曜日 晴
 10月14日 木曜日 晴
 10月15日 金曜日 晴
 10月16日 土曜日 晴
 10月17日 日曜日 晴
 10月18日 月曜日 晴
 10月19日 火曜日 晴
 10月20日 水曜日 晴
 10月21日 木曜日 晴
 10月22日 金曜日 晴
 10月23日 土曜日 晴
 10月24日 日曜日 晴
 10月25日 月曜日 晴
 10月26日 火曜日 晴
 10月27日 水曜日 晴
 10月28日 木曜日 晴
 10月29日 金曜日 晴
 10月30日 土曜日 晴
 10月31日 日曜日 晴
 11月1日 月曜日 晴
 11月2日 火曜日 晴
 11月3日 水曜日 晴
 11月4日 木曜日 晴
 11月5日 金曜日 晴
 11月6日 土曜日 晴
 11月7日 日曜日 晴
 11月8日 月曜日 晴
 11月9日 火曜日 晴
 11月10日 水曜日 晴
 11月11日 木曜日 晴
 11月12日 金曜日 晴
 11月13日 土曜日 晴
 11月14日 日曜日 晴
 11月15日 月曜日 晴
 11月16日 火曜日 晴
 11月17日 水曜日 晴
 11月18日 木曜日 晴
 11月19日 金曜日 晴
 11月20日 土曜日 晴
 11月21日 日曜日 晴
 11月22日 月曜日 晴
 11月23日 火曜日 晴
 11月24日 水曜日 晴
 11月25日 木曜日 晴
 11月26日 金曜日 晴
 11月27日 土曜日 晴
 11月28日 日曜日 晴
 11月29日 月曜日 晴
 11月30日 火曜日 晴
 12月1日 水曜日 晴
 12月2日 木曜日 晴
 12月3日 金曜日 晴
 12月4日 土曜日 晴
 12月5日 日曜日 晴
 12月6日 月曜日 晴
 12月7日 火曜日 晴
 12月8日 水曜日 晴
 12月9日 木曜日 晴
 12月10日 金曜日 晴
 12月11日 土曜日 晴
 12月12日 日曜日 晴
 12月13日 月曜日 晴
 12月14日 火曜日 晴
 12月15日 水曜日 晴
 12月16日 木曜日 晴
 12月17日 金曜日 晴
 12月18日 土曜日 晴
 12月19日 日曜日 晴
 12月20日 月曜日 晴
 12月21日 火曜日 晴
 12月22日 水曜日 晴
 12月23日 木曜日 晴
 12月24日 金曜日 晴
 12月25日 土曜日 晴
 12月26日 日曜日 晴
 12月27日 月曜日 晴
 12月28日 火曜日 晴
 12月29日 水曜日 晴
 12月30日 木曜日 晴
 12月31日 金曜日 晴



各学年で話し合っ作った「平和の誓い」の下で3年生のすばらしい群読が始まった平和集会。



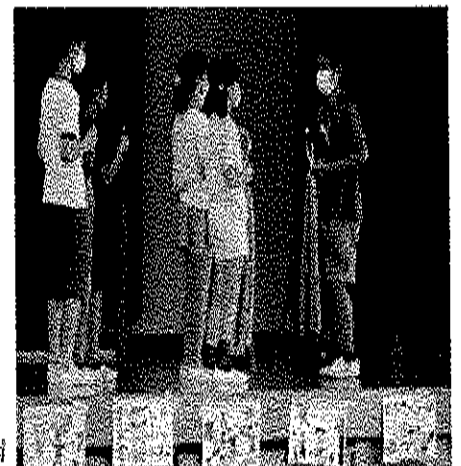
4年生が司会進行と平和劇を担当。
しっかりと役割を果たすことができた。

(役割分担)

- 1年・・・なかよしポスター
2年・・・プログラム書き
3年・・・オープニング
4年・・・司会進行・平和劇
5年・・・折り鶴つなぎ
6年・・・平和の発表
計画集会委員会・・・総括
図書委員会・・・本の紹介
生活放送委員会・・・歌
環境ボランティア・・・題字
体育委員会・・・題字
保健給食委員会・・・平和の誓いの紙の準備

[illegible]

↑事前【 4 年 】 ↓事後

[illegible]

成果 学校全体で力を合わせて取り組み、平和集会を作り上げることができた。各学年が自分の役割を果たし、6年生は特に委員会活動を通じて協力し、上級生としての自覚が育った。

課題 審査対策として日程や折り鶴づくりなど膨大な作業時間を捻出するための時間調整が必要である。
コロナ禍のもと難しいが、感染症対策を講じて、できれば地域の方にも見ていただきたい。

5・6年児童による実行委員会を中心に、競技内容や種目、走順にいたるまで、アイディアを出し合って企画運営した。

1. 姓名: 王德明

2. 性别: 男

3. 年龄: 25

4. 籍贯: 山东省济南市

5. 职业: 教师

6. 婚姻状况: 已婚

7. 教育程度: 本科

8. 工作单位: 济南市第一中学

9. 联系电话: 13812345678

10. 电子邮箱: wangdeming@example.com

11. 身份证号: 370105199801010001

12. 住址: 济南市经二路123号

13. 家庭成员: 父亲: 王德全, 母亲: 李秀英, 妻子: 张丽, 儿子: 王小明

14. 兴趣爱好: 阅读, 运动, 旅游

15. 自我评价: 为人正直, 责任心强, 热爱教育事业

16. 其他信息: 无不良嗜好, 遵纪守法

↑事前 【2年生】 事後↓

[illegible]

白組



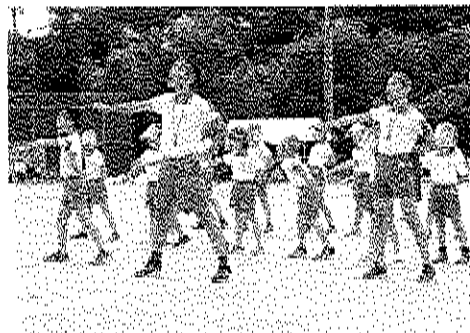
代表委員会を通して役割分担・スローガン決めを行い、全校で作り上げる運動会。運動会を中心となり引っ張る6年生が作ったバック絵も子どもたちの活躍を見守った。

[illegible]

↑事前 【5年生】 事後↓

[illegible]

赤組



成果 体育大会という大きな行事に向けて、計画を立てていくことで児童は見通しを持って活動していた。
競技内容説明図や走順表を作成したり、全校児童に向けて分かりやすい説明の仕方を考えたりすることで、やるべきことが視覚化できるだけでなく気持ちの面での準備もできていた。

課題 児童も職員も役割分担をして作り上げていくことで成果となっている一方、児童にとって過度な負担にならないように配慮する必要がある。

【地域ありがとう集会】

地域の方への感謝を全校で伝えた。企画・運営は6年生、6年生にとって最後の実行委員会となり、これまでの集大成となった。6年生から発信された計画案をもとに各学年で工夫をして取り組んだ。

地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

1. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

2. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

3. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

4. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

5. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

6. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

7. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

8. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

9. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

10. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、6年生が考えた計画案の一部。

↑事前 【6年生】 事後↓



テーマは、6年生の思いそのもの。ここからのスタート。今年もすてきなテーマになった。



地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

1. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

2. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

3. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

4. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

5. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

6. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

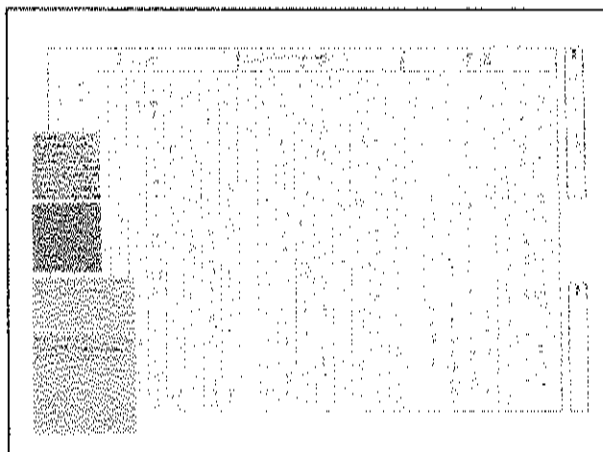
7. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

8. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

9. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

10. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

↑事前 【1年生】 事後↓



プログラムにもこだわった。地域の方に喜んでもらえるように、新しく「プレゼント」と「ふれあい」を入れた。

地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

1. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

2. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

3. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

4. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

5. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

6. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

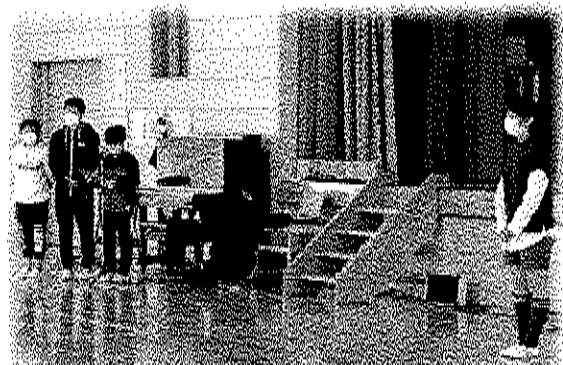
7. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

8. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

9. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

10. 地域の方へ感謝の気持ちを伝えるために、1年生が考えた計画案の一部。

6年分の感謝を込めて、6年生が下級生に働きかけ、メッセージ書き・花の苗植えなどなかよし班での活動もリードした。その姿を見て、5年生は学ぶ。次は、自分たちの番だ。そして、下級生は、地域の方への感謝と共に、カッコいい6年生に感謝と憧れの気持ちを持つ。ほくたちのリーダーは、最高だ。



総括: 全ての活動の進行状況の確認と当日の司会進行をした。責任は重いやりがいを感じて取り組んでいた。これができるのは、今までの積み重ねがあるからこそである。



地域の方の笑顔が何より



成果…6年生の姿を見ながら、指示を聞きながら、全校児童が一つになって、地域の方への感謝の気持ちを持つことができた。実行委員会で主体的に動き、報告・修正をしながら、よりよいものを目指そうとする6年生の姿は、お手本となり、次年度につながっていく。満足感・達成感、中学校でも「自分たちで学校・地域をよくする」という熱意につながると思う。

課題…12月始めの行事であり、準備・練習の時間の確保が必要である。児童の主体性を育む活動であり、学校目標の実現となる姿を、たくさんの方に見ていただける場であるため、2学期末の学習のまとめの授業時数確保とのバランスをとりながら、会の在り方を検討していく。

イ 成果と課題

《成果》

(1) キャリアパスポートの開発と活用

児童の未来の自分を支える力として、人との関わり・安心して過ごせる環境・周囲への感謝を3つの柱として考えた。キャリアパスポートにおいては、精選した3つの学校行事について、6年間を通じて記録し、見通しを持ち、活動を行い、振り返りを行うことで自分の成長を感じられるようにしている。1つの行事の中でもキャリアパスポートの事前（自分の役割を認識し、見通しを持って活動に臨む）と事後（活動を振り返って自分を見つめ直す）の記入を見比べると、意欲や満足感、達成感が伺えた。11月児童アンケート「進んで考え、アイディアを出し合ってクラスの活動や学校行事の工夫をしていますか」の項目でも、肯定的な回答が96%あり、自己肯定感の高まりとともに、周りに役立つ自分を意識できるようになってきている。

(2) 学校行事での学びの発揮

「平和集会」「体育大会」「地域ありがとう集会」において、それぞれが自分の役割を認識しながら、主体的に取り組むことができた。

「平和集会」・・・毎年、全校で平和について考える機会である。平和集会を作るために全ての学年、委員会が役割を担う。国語で学んだ音読劇やレインボータイムで行ったプレゼンテーションの力などを生かしての発表が行われた。

「体育大会」・・・4・5・6年生の実行委員会を通して、全校児童に呼びかけ、活動を作っていく。日頃から行っている児童司会（見通しを持って計画・実行）の経験が生きていた。

「地域ありがとう集会」・・・6年生が全校をまとめる最後の大きな行事であり、これまで各教科や総合的な学習で培った経験や学びを用いながら進めていった。各学年も地域の方への感謝の気持ちを「劇」「群読」「狂言」「音楽」といったこれまでの国語や音楽で学んだことを適用しながら進めることができた。

また、地域の方や周りの方への感謝、毎日の平和な日々を再認識し、これからもよりよい生活をしていきたいという思いを持つことができた。

(3) 日々の活動に関して

なかよし班そうじ・なかよし班遊び・委員会活動・クラブ活動など、たてわりでの活動を行うことで、自主的・実践的態度や協調性、計画力などを育むことができた。そして、それらが平和集会など実行委員会形式による学校行事の企画・運営の力につながっている。また、上級生と下級生の関わりを深め、下級生を思いやる優しさや上級生への憧れの気持ちも育むことができた。

《課題》

- ・ 本校の実行委員会形式による学校行事の企画・運営には、準備・練習時間の確保が必要である。行事を見越して、早めの準備をカリキュラムの中で、調整していく。
- ・ どの行事も6年生の力に頼ることが大きく、企画のための打ち合わせ等、6年担任の負担が大きいと考えられる。各実行委員会の担当児童と担当の教員が連絡を密にし、共通理解を図る組織的体制を整えていく。



環境づくり部
うったん学習通信

2020/6/30 No.1

文書：環境づくり部 中島

専木小学校では今年度から子ども達の学習をさらにサポートすべく、教員間で「学びづくり部」と「心づくり部」、「環境づくり部」の3部に分かれて子ども達の学習の充実を図っています。環境づくり部では子ども達の学びの様子や学習についてのお知らせをする「うったん学習通信」を学期に1回発行して情報発信し、ご家庭との連携を深めていきたいと考えています。

①学校・家庭・地域との連携 ～家庭での時間の使い方を再確認お願いします～

子ども達の学習・生活習慣の形成や思考力・判断力・表現力の育成などを図るためには、中学校卒業時の「めざす子ども像」について共通理解をし、15年間の成長・発達を見通した教育実践を推進していくことが大切です。

そこで、蔵木町の園・学校（認定こども園蔵木さくらんぼ・専木小学校・蔵木小学校・蔵木中学校）の教職員が定期的に情報交換を行い、研修会を通して学んでいます。

5月27日には、小学校職員が蔵木中学校1年生から3年生までの授業を参観し、学習や生活習慣作りなどについて話し合いました。

以下の「蔵木町学習の約束」「家庭生活7つの約束」は昨年度より継続しての取り組みです。学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみの教育を推進していきましょう。

☆ 蔵木町学習の約束（学び部より）

各学級で発達段階に合わせて指導していきます。

- ① ちゃんと聞いて しっかり理解
- ② じっくり はっきり 発表・質問
- ③ りよくしながら話し合い
- ④ ぐせす ていねい 見やすいノート
- ⑤ りざりなくして 早めの準備

☆ 家庭生活「7つの約束」(生活部より)

- 1 しっかり睡眠を取ろう。
- 2 しっかり朝ご飯を食べよう。
- 3 テレビやゲームをする時間を決めよう。
- 4 週に1回は家庭で読書や読み聞かせを。
- 5 おうちの人がいけない家には上がるのはダメ。
- 6 宿題をきちんとやろう。(中高学年は自学もする)
- 7 インターネットやLINEの「約束」をお家で決めて、必ず守ろう。

②家庭学習の時間のめやす

専木小学校では家庭学習の時間を以下のように設定しています。

学年 × 10分 + 20分

1年生…30分 2年生…40分 3年生…50分

4年生…60分 5年生…70分 6年生…80分

また、3学年以上の児童は自主学習に取り組んでいます。自主学習は、内容などを学年の実態に応じて設定し、自分の学びのスタイルをつくる課題として実施しています。努力が認められるものや、よく工夫されているものには「うったんシール」をプレゼントし、年度末には各学年で2名が「自学賞」に選ばれます。お手本になるような自学ノートはコピーして職員室前の廊下に掲示し、子ども達が参考にできるようにしています。

③専木小学校での学習の様子

専木小学校では児童司会の形をとって、子ども達が自ら考え、友達と学びを深めながら学習しています。コロナウィルスの影響で4月・6月の授業参観が中止になり、子ども達の学習の様子を実際にお見せすることができずにいますが、子ども達は新学習指導要領の学習内容にそって日々落ち着いて学習に取り組んでいます。

専木小学校では各学級に1台ずつ電子黒板を設置し、デジタル教科書やパワーポイントの資料など視聴覚教材を活用しながら学習しています。子ども達は視聴覚教材によって言葉と図や絵を結び付けて理解を深めたり、映し出された教材に線を引いて自分の考えを説明したりしながら学習に取り組んでいます。

6月は読書週間。図書館では子ども達が楽しそうに本を借りたり読書をしたりする姿が見られます。また、授業で学んだことを確かめ、広げ、深める、資料を集める、自分の考えをまとめて発表するなどの学習活動もさかんです。テーマに沿って図書館の本を自分で選び、調べたことをワークシートにまとめることで主体的に学びを深めています。

生活科や総合的な学習では、地域の人・もの・事を教材として地域学習もしています。6月17日には3・4年生が県環境サポーターの石盛さん・下田代さん・小松さんから町切水車と歴史と働きについて学び、26日には4年生が町切水車保存会の長友さんから田植の仕方を学んで田植えをしました。これからも地域の皆様のお力を借りて、専木小学校の子ども達の学びを充実させていきます。



3・4年 インタビューの技を学ぼう



6年キャリア教育

将来の夢について考えよう



3・4年 町切水車見学



うたたん学習通信

2020/10/12 NO.2

文責：教務 小野

7月の「よりよい学校にするためのアンケート（保護者アンケート）」にご協力いただき、ありがとうございます。今回は、アンケート結果の中から全体的な傾向と分析・対策、ご家庭との連携が必要な点についてお伝えします。

そして、今一度、ご家庭での時間の使い方についての確認をお願いいたします。



①第1回よりよい学校にするための保護者アンケート結果

～家庭での時間の使い方を再確認をお願いします～

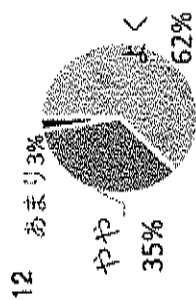
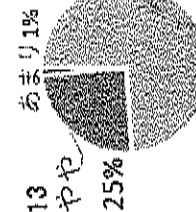
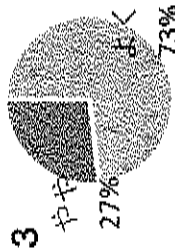
全体的な傾向：○肯定的な意見が84%以上の項目は、全23項目中19項目でした。

学校の教育活動に対して、概ね保護者の方から良い評価をいただいていると考えられます。

1. 肯定的な回答の意見が多かった項目

（肯定的な意見（「よくできている」「ややできている」の合計））

- | | |
|--|--|
| ③ 学校は児童が主体的に考え、グループやクラスで話し合うことで自分の考えを広げたり深めたりする授業に取り組みていると思いますか | ⑩ 学校は遊びや掃除など縦割り活動の場を設定し、他の学年の友達と楽しく活動したり、協力してやり遂げたりするように工夫していると思いますか |
| ⑨ 学校は、児童がよりよい学習、学校、地域にすること、自ら考え、アイデアを出し合い、学校行事の工夫や地域での実践に取り組んでいると思いますか | |



分析

肯定的な意見（「よくできている」「ややできている」の合計）が91%以上の項目は、全23項目中17項目ありました。

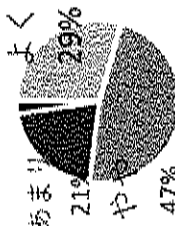
上記以外にも、項目⑩（保護者・地域との連携、親身になって迅速対応）へは98%、項目③（「あいさつプラス一言」「ほかほかことば」の推進、人権教育月間設定など豊かな心づくり）へは95%と高い結果となりました。

これは、学習面では、学習委員会に取り組み、児童が主体的に学習に向かえる授業への改善に努めてきたこと、担任がしっかりと子どもに寄り添い話を聞き、何かあれば納得できるよう解決できるように心がけたことや密に保護者連絡を行ったことを評価していただいた結果と考えます。

2. 「よくあてはまる」という回答が低い項目

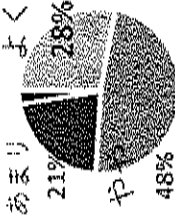
② ご家庭でテレビやゲーム、携帯電話を使う時間について約束を決めていますか

22 まったく3%



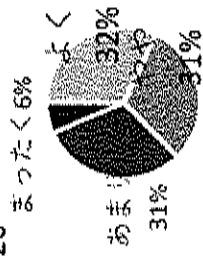
⑦ お子さんは、進んで学習したり、次の日の準備をしたりしていますか

21



⑨ お子さんは家庭で読書をしていますか

23



分析と対策、ご家庭での協力をお願いします

テレビやゲームの視聴時間が長い、なかなか読書時間が取れない現状がうかがえます。その対策として、学校では問題として本や辞書を使っての調べ学習を出す、宿題プラス読書で目標の家庭学習時間を達成できるように声をかけをする、「生活ふりかえりシート」を使って生活時間の見直しや有意義な時間の使い方について考えさせる機会を設ける等の取り組みをしています。生活時間を考えていくことは計画性や自制心を育てることへつながります。

また、本校図書館で設定した1・2・3年生の読書目標100冊達成者は18名（51.4%）、4・5・6年生の目標8000ページ読破達成者は5名（11.9%）です。（10月9日現在）。学校では毎週木曜日は読書の時間、そのうち2回はボランティアさんによる読み聞かせがあり、児童はお話の世界に臨み入り、表情豊かに楽しんでいます。そして、図書委員児童が毎月、工夫したイベントを計画・実施し、図書館へ足を運ぶよう呼びかけています。

習い事や便利なインターネットの普及により、意識しないとなかなか読書時間を取るのには難しいかもしれません。便利な機器を使用し情報を活用する能力は必要ですが、読書により語彙を豊かにしたり、登場人物の気持ちや考えたり、想像を膨らませたりすることは情緒を豊かにすることにもつながります。

「読書の秋」お忙しい中とは存じますが、「今、どんな本、読んでいますか？」等の声かけや、本の世界をお子さんとお楽しみ時間を意識して作り出す等のご協力を願います。

② 学力向上に向けての分析と取り組み

4月のコロナ感染予防の休校により、全校一斉の小学6年生対象「令和2年度全国学力・学習状況調査」は実施されませんでした。本校は配布された問題用紙を使って、教科に関する調査（国語と算数の2教科）と質問紙調査（アンケート）を実施しました。

結果を全国、県と比較はできませんが、本校6年児童は国語、算数とも全体的には良くできていました。国語・算数とも全問題に対して無回答率0%、国語では資料を基に字数制限にのびての記述、算数では基礎的な数量関係や図形の知識理解ができています。

しかし、国語では、①事実と意見を区別して記述する問題、②文の中の修飾と被修飾の関係を探る問題、③文の意味から漢字を正しく書く問題の正答率が低かったです。算数では、①直径から円周の長さを求める問題、②基準量と比較量の関係を表した図から百分率を求める問題、③2つの棒グラフから読み取ったことを基に理由を記述する問題の正答率が低かったです。職員研修で結果分析と対策を共通理解し、授業改善へ生かしていきます。

（裏面に、本校6年児童の正答率が低かった問題を掲載しています。ぜひ一読ください。）



うったん学習通信

2020/11/27 No.3

文責：環境づくり部 古館

榎木小学校では、本年度の校内研究のテーマを、「主体的に考え、判断し、行動する児童の育成～資質・能力育成を目指した教科横断的なカリキュラム・マネジメント～」と設定して、日々の授業実践に取り組んでいます。その一環として、11月16日に、全クラスで公開研究授業を行いました。今回は、その授業の様子をご紹介します。

1年生



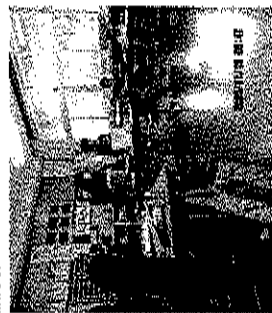
生活科「秋の宝物を紹介しよう」ということで、今まで集めた中で1番の宝物を紹介していました。分かった・分かった・説明するには、発見ポイント（見た・聞いた・におった・さわった・思った）をたくさん話すことが大切だと気がつきました。この学習で紹介した宝物を使って、おまつりを開くのが楽しみです。

2年生



国語科「自分で作ったおもちゃの作り方を分かりやすく紹介しよう」という学習を行いました。2つの文章を比べて、分かりやすい説明のポイントを上手に見つけることができました。見つけたポイントを使って分かりやすい説明ができるよう頑張っています。楽しいおもちゃまつりにして欲しいと思います。

3年生



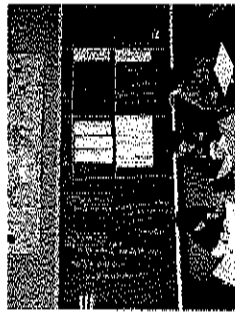
国語科「びっぴりなことわざでつたえよう」の学習では、それぞれのエピソードスピーチにびっぴりあったことわざをパネルから選び出すクイズ形式をとりました。初めて出会うことわざに対し、友達のスピーチに耳を傾けながらヒントになる言葉を探したり、比べたりしながら、ペアやクラスの対話で答えを導く中で、ことわざのおもしろさに気づきました。

4年生



国語科「つながりに気をつけよう」の学習では、1文が長くてわかりにくい文章を、内容の切れ目で句読点を入れたり、接続語を追加したりして、相手に伝わりやすい文章に修正しました。「文が長いから分かりにくいんだよ。」「ここで語が変わるから文を切りました。」などと話し合いながら、学級全体で文章の修正をすることができていました。

5年生

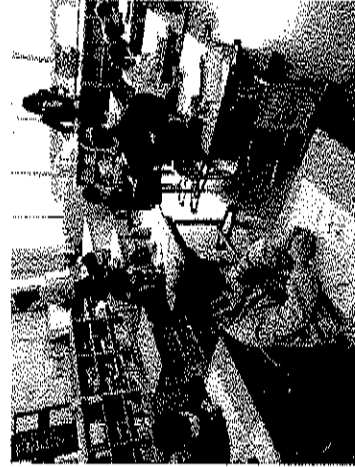


国語「固有種が教えてくれること」を題材にして、説明文の文章と一緒に載せてある図や表やグラフ等の持つ意味や効果について考える学習をしました。子どもたちは、グループでも、全体でも積極的に意見や質問を出し合っていました。学習の児童が話す学習のまとめもばっちりでした。

6年生



国語「『鳥獣戯画』を読む」を使って、説明の工夫を学習しました。これまで学習した文章とは違い、説明文の型に促されていないのに分かりやすいのはなぜかを、資料を使った説明の仕方に着目して考えていきました。これまでの経験や積み重ねを活かし、それぞれがしっかり考えを伝え、グループでの話し合いでも活発に意見を交わすことができました。



どの学級でも、子どもたちがいきいきと、一生懸命に学習していました。ぜひ、次回1月21日（木）では、子どもたちの学校での頑張りをご覧になってください。



うったん学習通信

2020/12/18 NO.4

文責：教務 小野

11月の「よりよい学校にするためのアンケート（保護者アンケート）」にご協力いただき、ありがとうございました。今回は、アンケート結果の中から全体的な傾向と分析・対策、ご家庭との連携が必要な点についてお伝えします。そして、今一度、ご家庭での時間の使い方についての確認をお願いします。



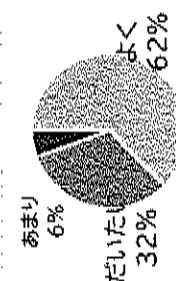
①第2回よりよい学校にするための保護者アンケート結果

～家庭での時間の使い方を再確認をお願いします～

全体的な傾向：○ 第1回(7月)の集計結果と同様、肯定的な意見が81%以上の項目は、全23項目中19項目でした。(19項目は第1回結果と同じ項目)
前回の第1回(7月実施)の結果より「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と肯定的回答が増えた項目が多くあり、学校の教育活動に対して、概ね保護者の方から良い評価をいただいていると考えられます。

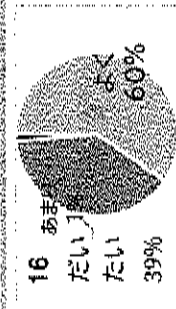
1、前回(第1回:7月実施)より肯定的回答が増えた上位3項目 (肯定的な意見(「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」の合計))

⑧ 学校は「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しい生活習慣をしようとして取り組んでいると思いますか。



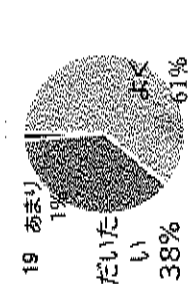
7月との比較
11月「よく」12%増
(否定的回答7%減)

⑨ 学校は、児童が地域や人との関わる楽しさを実感できるように地域の人・もの・ことを活用した体験型学習の充実に取り組んでいると思いますか。



7月との比較
11月「よく」11%増

⑩ 学校は、積極的に地域の方を取り入れ、児童の安全・安心を守り、豊かな学びができるよう工夫していますか。



7月との比較
11月「よく」8%増

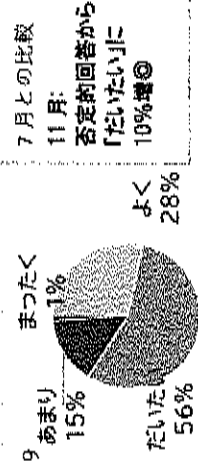
分析

肯定的な意見が94%以上と高い項目が23項目中、16項目あり、保護者は概ね学校の教育活動に対して満足していると考えられます。

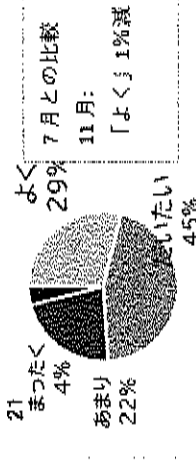
特に、項目⑩「地域の人・もの・ことを活用した体験型学習の充実」は7月結果と比較して11%増という結果となり、各科・関連的単元や体験学習後のまとめの活動の工夫(発表、リフレットや新聞づくり等)等、授業改善を行ったことを評価していただいた結果と考えます。

2、「よくあてはまる」という回答が低い項目

⑨ 学校は、「携帯・スマホ・ゲームをする時間が長い」児童の状況についてその問題点や家庭での対応について知らせていると思いますか



⑩ お子さんは、進んで学習したり、次の日の準備をしたりしていますか



分析と対策、ご家庭での協力をお願い

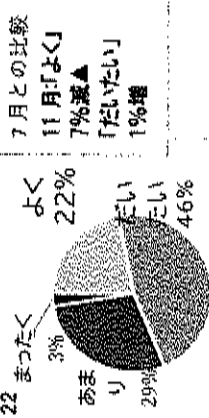
この4項目は7月結果も「よく」という回答が低く、テレビやゲーム視聴時間が長く、なかなか読書時間がとれていない現状がうかがえます。

項目⑨「学校は携帯・スマホ・ゲームをする時間が長い児童の状況についてその問題点や家庭での対応について知らせている」の11月結果は、7月結果と比較すると「まったく」「あまり」の否定的回答が減り、「だいたい」の回答が10%増となりました。これは、「うったん通信第2号」によりアンケート結果を基にご家庭へご協力をお願いを発信した結果と考えます。しかし、項目⑩「家庭でのテレビやゲーム、携帯電話を使う時間の約束決め」という行動化へはまだ結びついておらず、引き続き児童への指導を行っていきます。

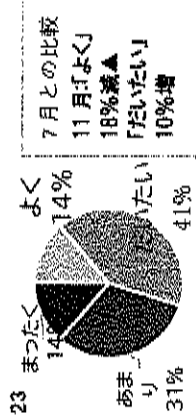
また、項目⑩「進んで次の日の準備」や項目⑩「家庭での読書」も好転はしていません。宿題プラス読書で目標の家庭学習時間を達成させるよう継続指導し、学級活動等で生活時間を見直し、有意義な時間の使い方について考えさせることで児童の計画性や自制心育成を目指します。

また、本校図書室で設定した1・2・3年生の読書目標100冊達成者は26名(74.3%)、4・5・6年生の目標8000ページ読破達成者は14名(33.3%)です。(12月16日現在)。学校では10月のテラス読書や読み聞かせボランティアさんによる「クリスマスお話し会」等のイベントで本に親しむ取り組みをしています。習い事や便利なインターネットの普及により、意識しないとなかなか読書時間を取るのには難しいかもしれません。

お忙しい中とは存じますが、「どんな本が好き？」等の声かけや、本の世界をお子さんと楽しむ時間を意識して作り出す等のご協力をお願いいたします。



⑩ お子さんは家庭で読書をしていますか



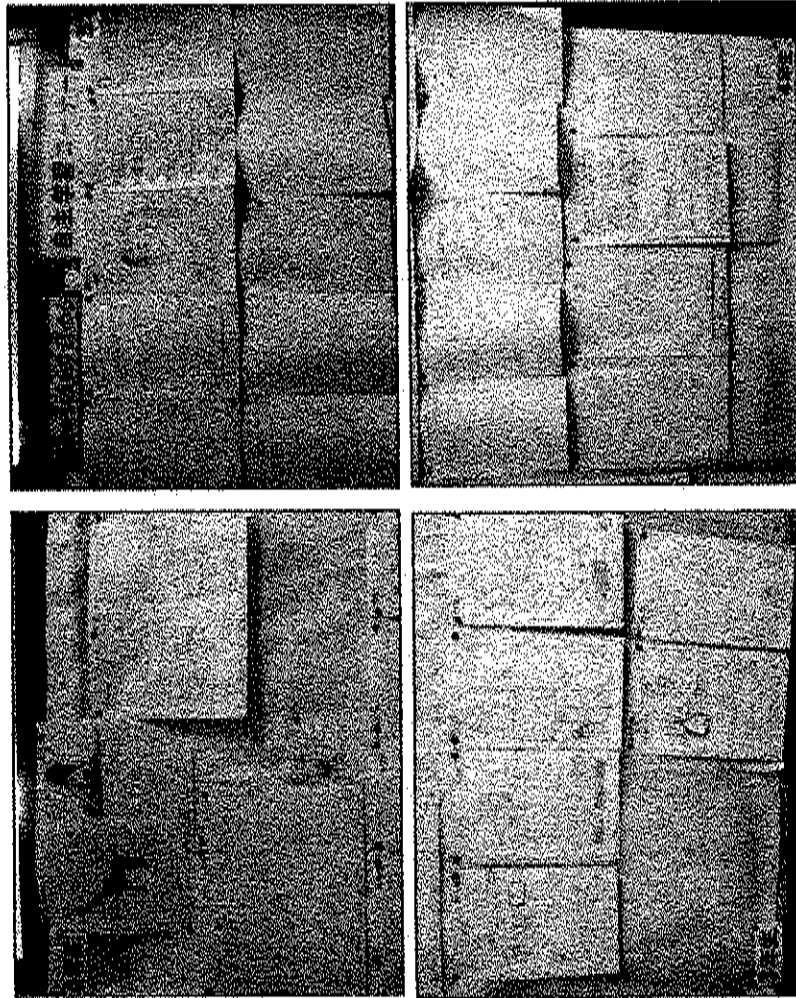


うったん学習通信

2021/1/26 NO.5

文責：教頭 行徳

藤木小の校内掲示を紹介します。まずは職員室前の掲示版に自主学習コーナーがあります。ここには自主学習のノートをついて掲示してあります。藤木小学校では3年生以上で自主学習に取り組んでいます。職員室前には定期的に新しいノートが紹介されるので、掲示物がかわったときには、立ち止まって見ている児童の姿をよく見かけます。他学年のノートのよいところやまねできるところは、自分の自主学習に活かしてほしいです。



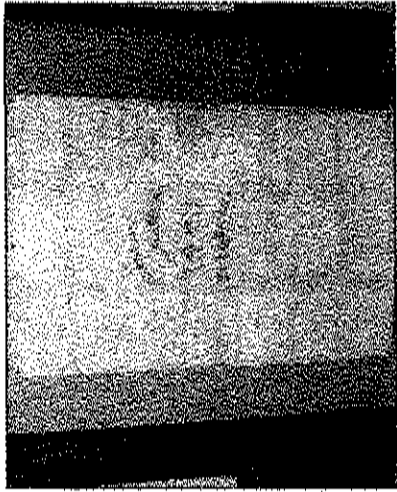
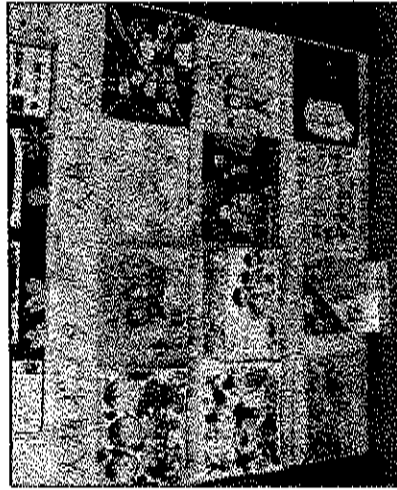
家庭学習の時間のめやす

藤木小学校では家庭学習の時間を以下のように設定しています。

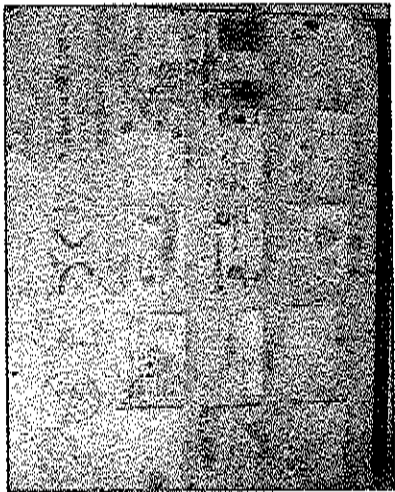
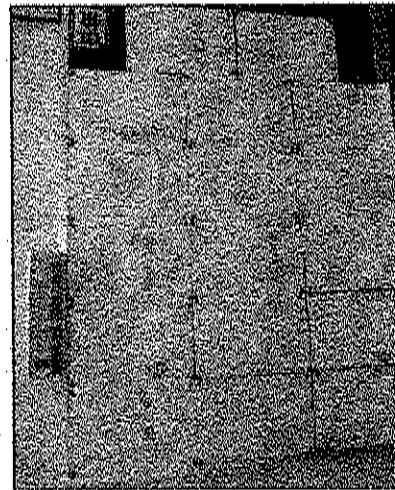
学年 × 10分 + 20分			
1年生…30分	2年生…40分	3年生…50分	
4年生…60分	5年生…70分	6年生…80分	

ご家庭でもお子さんへの励ましの声掛けをお願いします。

児童玄関前には、児童が描いた人権ポスターと人権標語が掲示してあります。みんなが笑顔になり、毎日が楽しくなるようなポスターや標語です。



階段の途中には、各学年の掲示コーナーがあります。以下の写真は、左側が「6年生の朗読したい詩」、右側は4年生の「POPづくり」です。学びの足跡が紹介されています。



お願い 家庭生活の約束をお子さんごとご確認ください。

☆家庭生活「7つの約束」(藤木小中学校区 生活部より)



- 1 しっかり睡眠を取ろう。
- 2 しっかり朝ご飯を食べよう。
- 3 テレビやゲームをする時間を決めよう。
- 4 週に1回は家で読書や読み聞かせを。
- 5 おうちの人がいない家には上がるのはダメ。
- 6 宿題をきちんとやろう。(中高学年は自習もする)
- 7 インターネットやLINEの「約束」をお家で決めて、必ず守ろう。

イ 成果と課題

《成果》

・ 家庭学習習慣作りへ向けて家庭との連携を目指し、学校評価アンケート結果や学びの成果物の紹介等を「うったん学習通信」に掲載し、年5回情報発信することができた。

11月に実施した児童対象学校評価アンケートでは、どの項目に対しても肯定的な回答が8割以上であり、7月結果より肯定的な回答が10%以上増えた項目が4項目あった。このことから児童が概ね良好に学校生活を過ごしていると考えられる。

「進んで学習に取り組んでいますか。」という項目では7月結果より11%増の71%が「よくあてはまる」と回答した。これは、合科・関連の単元構想による課題解決型学習やグループでの意見の可視化など授業づくりの工夫により児童の主体的に学習に取り組む姿勢へつながった結果と考える。

また、「自分なりに工夫して自主学習に取り組んでいますか。」という項目は7月結果より「よくあてはまる」が19%増加して67%、「だいたいあてはまる」と合わせると88%になり、ほとんどの児童が肯定的に捉えている。これは、よい取り組みが表れた自主学習ノートを掲示することで、児童は友達のよい取り組みを参考にしながら内容やノートのまとめ方を改善して意欲的に自主学習に取り組むことができた結果と考える。

保護者対象学校評価アンケートでは、保護者も学校の教育活動に対して、概ね満足していることが結果からわかる。「学校は、児童が地域や人と関わる楽しさを実感できるように地域の『人・もの・こと』を活用する」という項目では7月結果よりよくあてはまるが11%増加している。今年度は新型コロナ感染症対策を講じながらそば作りや田植え等の体験学習に取り組み、児童の学習を充実させることができた。そして、12月の「地域ありがとう集会」の発表やまとめた新聞を掲示することで、地域資源を活かした体験型学習の学びを地域の方へ発信することができた。今後も地域との連携を図りながら、児童が主体的に学習できる環境づくりを心がけていきたい。

《課題》

・ 7月に実施した児童対象学校評価アンケートでは、「家でゲームやインターネットを使う時間の約束を守っていますか。」「家庭学習の目標時間をだいたい達成できていますか。」「学校や家で進んで本を読んでいますか。」「休みの日などに地域の活動や行事などに参加していますか。」の4つの項目について、「まったくあてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答が21%～14%と高かった。

「うったん学習通信」を発行し、学校での取り組みや生活時間を見直す効用、読書の効用を知らせて、保護者啓発を図ったが、11月結果でも否定的回答から肯定的回答へと大きく好転はしなかった。今後も簗木小学校「家庭生活の7つのやくそく」、「冬休みの生活こころえ」を家庭に配布するとともに、懇談会でもその内容に触れることで、保護者啓発や児童の指導を継続していく必要がある。

保護者対象学校評価アンケート「お子さんは家庭で読書をしていますか。」の項目で、否定的な回答が45%を占めた。毎週木曜日朝の読書タイムでの読み聞かせや朝読の取り組みを継続するとともに宿題として本や辞典を使つての調べ学習を出すことで読書に親しむ習慣作りへつなげたい。

4 よりよい学校にするためのアンケート結果と分析

(1) 児童アンケートの結果と分析

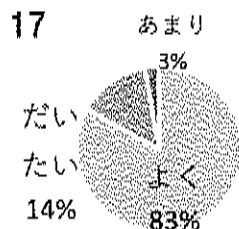
R2. 11月実施

全児童77名分集計結果

全体的な傾向：○どの項目に対しても肯定的な回答が8割以上、7月結果より肯定的な回答が10%以上増えた項目が4項目あり、子どもたちは概ね良好に学校生活を過ごしていると考えられます。

ア 特に肯定的な回答が意見が多かった項目（肯定的な意見92%以上）

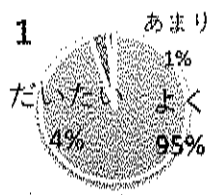
⑩ 係や当番など自分の役割を自覚し、最後までやり遂げていますか



7月との比較

11月：「よく」8%増◎

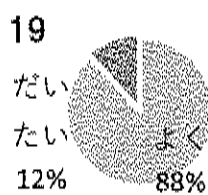
1. 学校の教育目標「自ら動き、考え、動く子ども（太郎は太郎、花子は花子になれ～より自分らしく～）」を知っていますか



7月との比較

11月：「よく」9%増◎

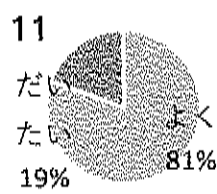
⑨ なかよし遊びでは他の学年の友達と楽しんで活動したり、なかよし掃除では協力してやり遂げていますか



7月との比較

11月：「よく」5%増◎

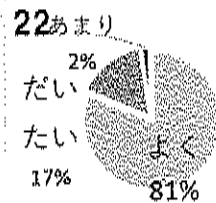
11. 外遊びやスポーツチャレンジ、体育の学習などで進んで運動していますか



7月との比較

11月：「だいたい」9%増◎

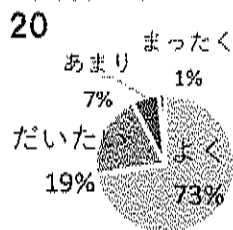
⑫ 地域の人・もの・ことを活用した体験型学習が好きですか



7月との比較

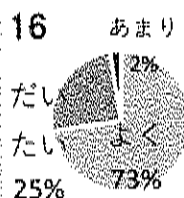
11月：「よく」が3%増◎

20. 自分や周りが困った時は、先生や友達に相談やアンケート等で解決していますか



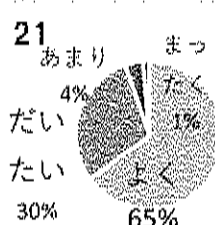
11月：「まったく」3%減「だいたい」が4%増◎

16. 「あいさつ+一言」「ほかほか言葉」を使った思いやりの言葉づかいをしていますか



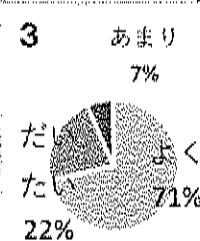
11月：「よく」が1%増○

⑪ 自分らしく夢や目標に向かって努力していますか



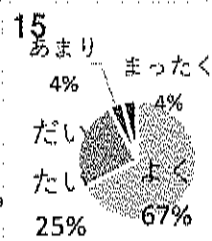
11月：「よく」「だいたい」合わせて1%増○

⑬ 進んで学習に取り組んでいますか



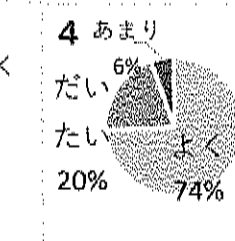
11月：「よく」が11%増◎

15. 家でお手伝いなど決まった仕事をしていますか



11月：「よく」「だいたい」合計9%増○

4. グループやクラスの話し合いで、自分の考えを広げたり深めたりしていますか



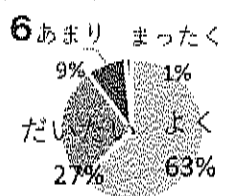
11月：「よく」が1%減△

結果の分析

94%以上の児童が⑩「自分の役割を自覚し、最後までやり遂げ」、⑪「運動」、⑨「他学年の友達との活動」を楽しみ、⑬「進んで学習」、⑪「自ら夢や目標に向かって努力」し、④「自分の考えを広げ、深め」ていると回答している。7月結果との比較では、11項目中10項目において肯定的な回答が増えている。課題解決のために学習計画を立て、話し合いを通して考えを再構築する学習スタイルや縦割り班活動、思いやりの言葉遣い、困った時の相談体制、地域の特性を活かした体験型学習の確立が安心して意欲的に取り組む児童の姿につながっていると考える。

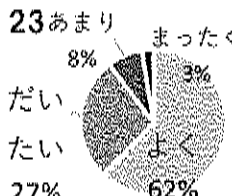
イ 「よくあてはまる」が60%以上で、肯定的な意見（87%・88%）が多い項目

6. 「ぐんぐんタイム」や宿題に丁寧に取り組んでいますか



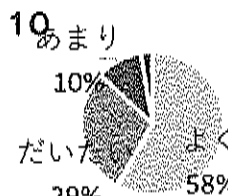
11月：「あまり」が4%減

23. 学校での出来事をおうちの人に良く話していますか



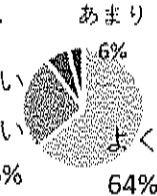
11月：「よく」が1%増

10. 規則正しい生活（早寝早起き朝ごはん）をしていますか



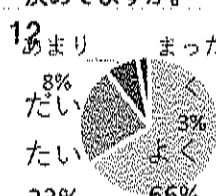
11月：「まったく」が1%減

14. 進んで次の日の準備をしていますか



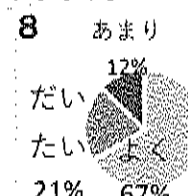
11月：「よく」「だいたい」合計1%増

12. 家族とゲームやインターネットの約束を決めていますか



11月：「よく」「だいたい」合計7%

⑧ 自分なりに工夫して自主学習に取り組んでいますか



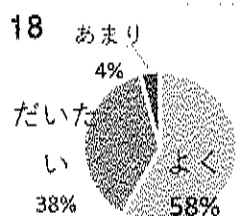
11月：「よく」19%増◎

結果の分析

7月結果と比較して項目⑧「自分なりに工夫して自主学習に取り組んでる」に「よく」の回答が19%増、項目⑫「家族とゲームやインターネットの約束を決めている」に「よく」「だいたい」合わせて7%増という結果であった。自主学習の工夫を促す取り組みでは、お手本となる自学ノートコピー掲示、教師による朱書きのアドバイスコメントなど具体的なノート指導の成果であると考えられる。

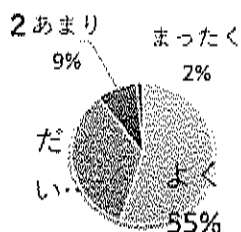
ウ 「よくあてはまる」という回答が低い(60%以下)項目

⑩ 進んで考え、アイデアを出し合っているクラスの活動や学校行事の工夫をしていますか



7月との比較
11月:「よく」が15%増◎

② 自分の思いや考えをはっきり話していますか



7月との比較
11月:「よく」は7%減、「だいたい」は9%増

結果の分析

7月結果でも「よく」の回答が低かったが、項目⑩「進んで考え、アイデアを出し合っているクラスの活動や学校行事の工夫」は18%増、②「自分の思いや考えをはっきり話す」は「よく」「だいたい」合わせて2%増であった。

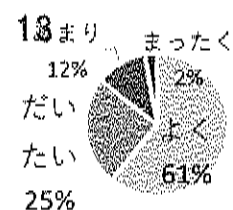
毎日の授業で自分の意見を出して練りあう場を大切に、教師の適切なアドバイスを活かしながら考えを形にしていける経験を充実、実行委員会形式による行事の立案・調整・実践・振り返りのサイクルの成果と考える。

GWやCWで活発な意見交流・協議となるように実態に合わせて、話し合う前の視点の提示や役割分担、話し合いの仕方をさらに改善していく。

エ 否定的な回答が比較的多かった項目

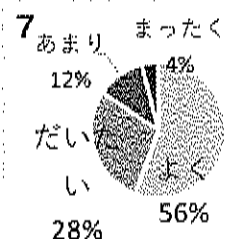
(「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の回答が21%~14%)

13. 家でゲームやインターネットを使う時間の約束を守っていますか。



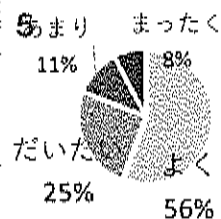
11月:「よく」「だいたい」合わせて10%増◎

⑦ 家庭学習の目標時間をだいたい達成していますか。



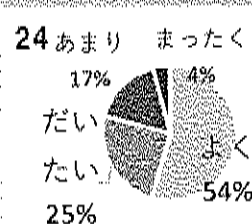
11月:「あまり」「まったく」2%減

⑤ 学校や家で進んで本を読んでいますか。



11月:「あまり」「まったく」6%増▲

24. 休みの日などに地域の活動や行事などに参加していますか。



11月:「あまり」「まったく」4%増▲

結果の分析

7月結果でもこの4項目は否定的な回答が13~19%と比較的高かったため、10月「うったん学習通信」第2号でアンケート結果と共に学校での取り組みや生活時間を見直す効用(計画性や自制心を育む)や読書の効用(語彙や情緒が豊かになる)を知らせ、保護者啓発を図った。

11月結果では項目⑬「家でゲームやインターネットを使う時間を約束を守っている」肯定的な回答をする児童が10%増えたが、項目⑤「学校や家で進んで読書」、項目④「地域活動や行事に参加」は否定的な回答が増えている。2学期の学校行事の慌ただしさや新型コロナウイルス感染症対策などで地域の行事減少も影響しているものと考えられる。

2学期末懇談会での「巻木小家庭生活7つのやくそく」(「テレビやゲームをする時間は1日1時間まで!」)と巖木地区青少年育成協議会プリント「冬休みの生活ころえ」を配布・説明(時間や時間帯を決め、区切りをつけて実行することで計画力・自分を律する心も芽生える)による保護者啓発、地区児童会、学級での児童への指導を継続していく。

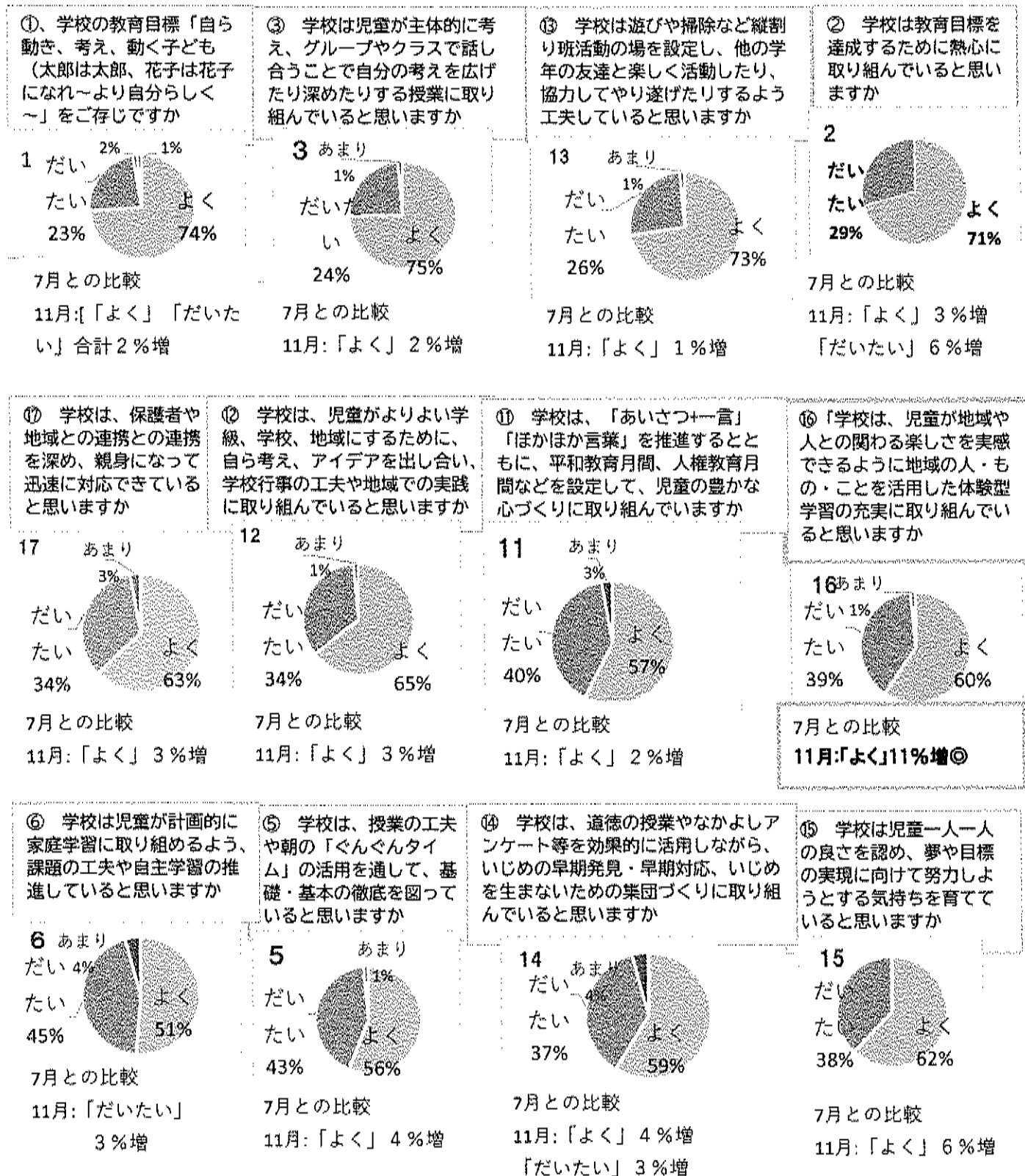
(2) 保護者アンケートの結果と分析

R2. 11月実施 集計結果

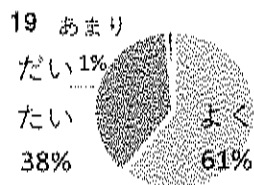
全体的な傾向： 7月結果と同様、肯定的な意見が81%以上の項目は、全23項目中19項目であった。
(19項目は7月結果と同じ項目)

保護者は概ね学校の教育活動に対して、満足していると考えられる。

ア 特に肯定的な回答が意見が多かった項目（肯定的な意見94%以上）



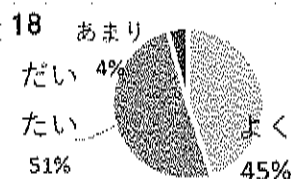
⑬ 学校は、積極的に地域の力を取り入れ、児童の安全・安心を守り、豊かな学びができるよう工夫していますか。



7月との比較

11月:「よく」8%増

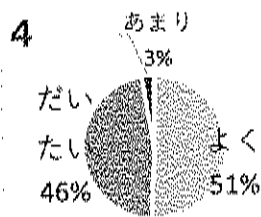
⑭ 学校は、児童にとって陽・保育園と小学校との接続、小学校と中学校との接続がより滑らかなものとなるように連携を強化していると思いますか



7月との比較

11月:「だいたい」3%増

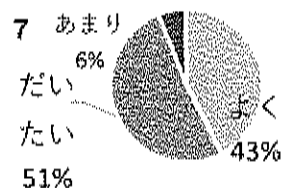
④ 学校は、図書館を活用した授業や日常的な読書活動を推進していると思いますか



7月との比較

11月:「よく」変化無

⑦ 学校は5・6年外国語科、3・4年外国語活動を通して、外国語に慣れ親しませ、子どもたちのコミュニケーション力をつけていると思いますか



7月との比較

11月:「だいたい」3%増

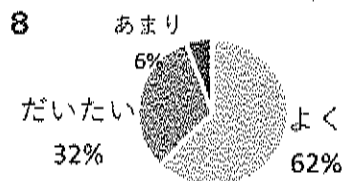
前ページの結果と分析

○肯定的な意見が94%以上と高い項目が23項目中、16項目（7月結果と同じ項目）あり、保護者は概ね学校の教育活動に対して満足していると考えられる。

特に、項目⑩「地域の人・もの・ことを活用した体験型学習の充実」は7月結果と比較して11%増という結果となり、合科・関連的単元や体験学習後のまとめの活動の工夫（発表、リーフレットや新聞づくり等）等の成果と考えられる。

イ 肯定的が多く（87%～84%）「よくあてはまる」が50%前後の項目

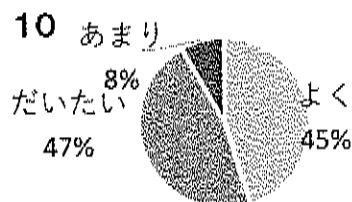
⑤ 学校は「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しい生活習慣をしようと取り組んでいると思いますか。



7月との比較

11月:「よく」12%増◎
(否定的回答7%減)

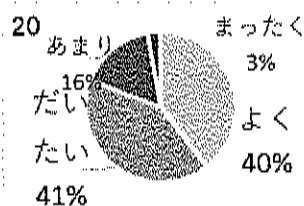
⑩ 学校は、外遊びやスポーツチャレンジ、環境を工夫することで児童が自ら運動しようとする態度づくりに取り組んでいると思いますか



7月との比較

11月:「よく」「だいたい」合計8%増

⑫ お子さんは「早寝早起き朝ごはん」の規則正しい生活習慣が身についていますか



7月との比較

11月:「よく」2%減

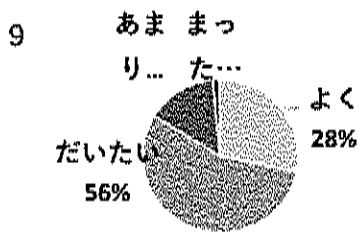
結果の分析

規則正しい生活作り、自ら運動しようとする運動習慣作りには、家庭との連携は不可欠であり、そのために、家庭への情報発信が重要となる。

項目⑧「学校の『早寝・早起き・朝ごはん』の規則正しい生活習慣づくりへの取り組み」は11月結果は、7月結果と比較して「よく」の回答が12%増であった。これは、児童への学級指導、10月の「せいかつふりかえりシート」で一週間の生活時間の記録と見直しをさせたこと、保護者には「うったん学習通信」6月号、10月号、個人懇談の折に「篠木小学校家庭生活7つのやくそく」や篠木地区青少年育成協議会「夏休みの生活こころえ」を配布し、啓発をしてきた成果と考える。

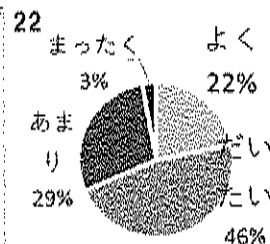
ウ 「よくあてはまる」という回答が低い（29%以下）項目

⑨ 学校は、「携帯・スマホ・ゲームをする時間が長い」児童の状況についてその問題点や家庭での対応について知らせていると思いますか



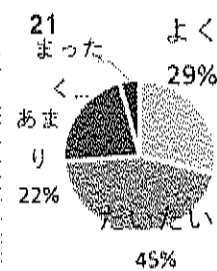
7月との比較
11月:否定的回答から
「だいたい」に10%増◎

⑫ ご家庭でテレビやゲーム、携帯電話を使う時間について約束を決めていますか



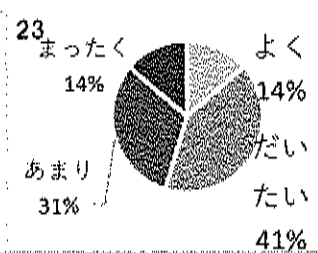
7月との比較
11月:「よく」7%減▲
「だいたい」1%増

⑪ お子さんは、進んで学習したり、次の日の準備をしたりしていますか



7月との比較
11月:「よく」1%減

⑬ お子さんは家庭で読書をしていますか



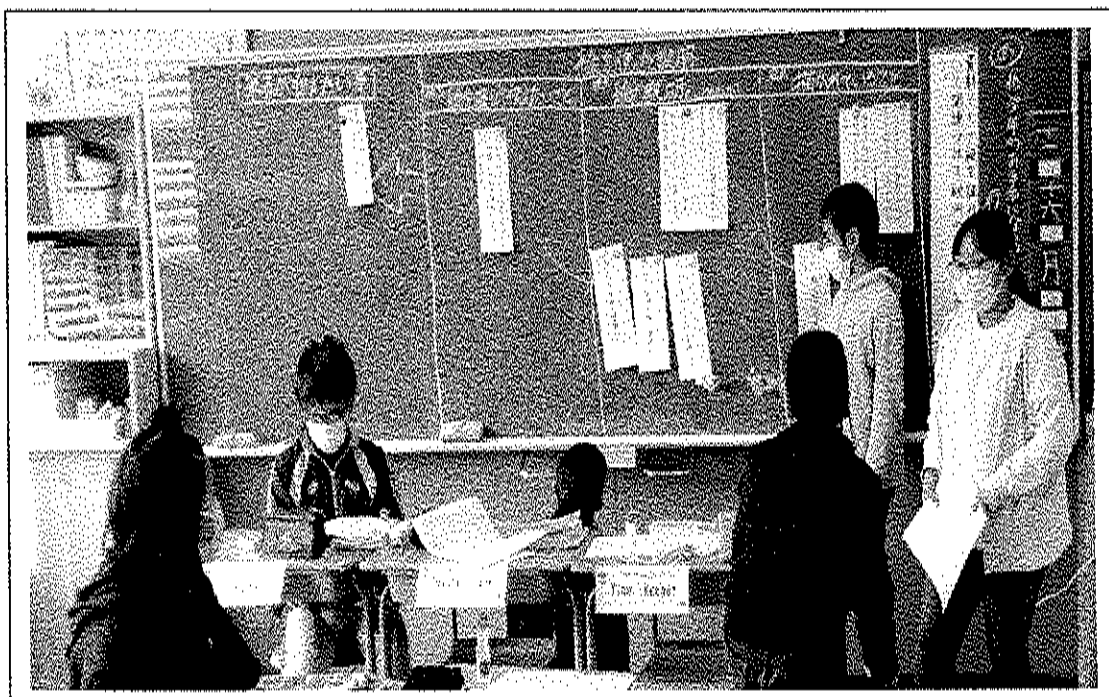
7月との比較
11月:「よく」18%減▲
「だいたい」10%増

結果の分析

この4項目は7月結果も「よく」という回答が低かった。テレビやゲーム視聴時間が長かったりなかなか読書時間がとれていない現状がある。項目⑨「学校は携帯・スマホ・ゲームをする時間が長い」児童の状況についてその問題点や家庭での対応について知らせている」の11月結果は、7月結果と比較すると「まったく」「あまり」の否定的回答が減り、「だいたい」の回答が10%増となった。これは、「うったん学習通信」によりアンケート結果を基に家庭での協力お願いを発信した結果と考える。しかし、項目⑫「家庭でのテレビやゲーム、携帯電話を使う時間の約束決め」という行動化へはまだ結びついておらず、引き続き児童への指導、保護者啓発を行っていく。

また、項目⑪「進んで次の日の準備」や項目⑬「家庭での読書」も好転はしていない。引き続き、宿題として本や辞書を使っての調べ学習を出す、宿題プラス読書で目標の家庭学習時間を達成させるようにする、学活等で定期的に生活時間の見直しや有意義な時間の使い方について考えさせる機会を設け、計画性や自制心を育てていく。そして、その取り組みを学級通信などで発信していく。

Ⅲ 成果と展望



Ⅲ 成果と展望

「学習指導要領学習指導要領 総則」の第1の4に示されている「カリキュラム・マネジメント」の3つの側面と資質・能力育成の点から以下の3点において成果と展望を整理する。

- 「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」育成を目指した教科横断的カリキュラムと授業づくり重点方策による授業改善
- 「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」育成を支える組織運営と教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくPDCAサイクルの確立
- 「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」育成を支える地域人材活用授業と「地域資源バンク」作成と活用・見直し

1 「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」育成を目指した教科横断的カリキュラムと重点方策による授業改善

(1) 成果

ア 合科・関連的単元配列表の活用による効果的な教育課程の実施

前年度の学力調査結果や学校評価アンケートから児童の実態を把握し、育成すべき資質・能力を「進んで学び続ける姿」「自ら考えを広げ深める姿」と設定し、教科横断型カリキュラムとして合科・関連的単元配列表を作成した。この表を活用することで、教師は、特設の時間「レインボータイム」で育む「言語能力」「情報活用能力」を学習の基盤となる力として各教科の学習内容へ汎用させることができた。そして、教師が各教科の見方・考え方を踏まえて各教科のねらいを明確にし、時間のまとまりと重点の置き方に工夫をして単元構想へ活かすことができた。他教科の学習内容と「レインボータイム」をより効果的に関連付け、より効率的に学習時間数をまとめることで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため13日間の臨時休業を余儀なくされにもかかわらず、各学年各教科の進度を遅らせることなく学習を積み重ねることができた。

意識調査「学び方についてのアンケート」（3年～6年生児童対象四件法、9月、11月実施）を行うと、項目⑧「ある教科やレインボータイムで学んだことを別の教科で使おうとしていますか」に「あてはまる」「だいたいあてはまる」という肯定的回答は11月結果で91.7%であり、9月結果より25.1%と大幅に増えた（図5）。

また、項目⑤「授業では、活動の流れや時間を意識して活動している」に11月結果で肯定的回答は93.8%であり、9月結果より2.1%増えた（図6）。

これは、合科・関連的単元において単元の学習計画や本時の流れを毎授業の始めに確認することで、児童自身が学習過程や活動時間の見通しを持ちながら課題解決を積み重ねた結果と考える。

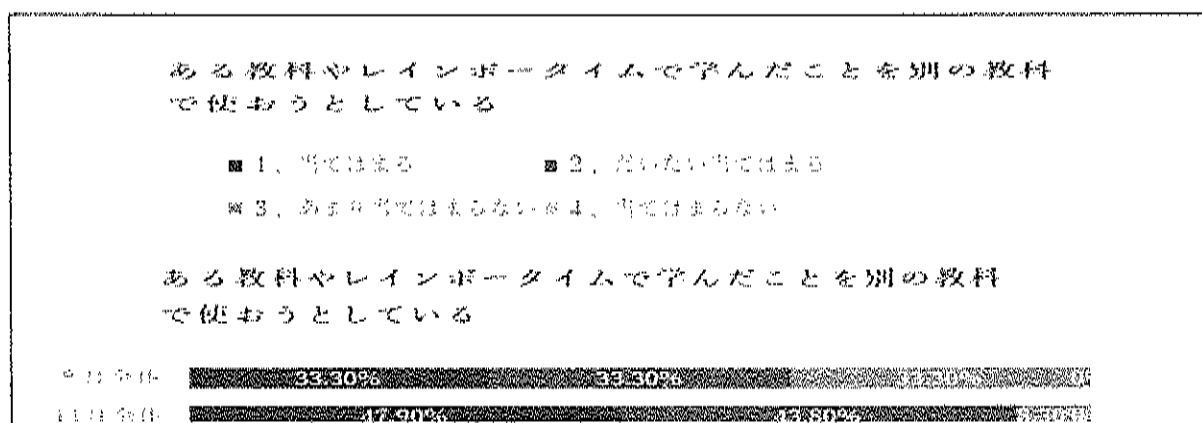


図5 「学び方のアンケート」項目⑧

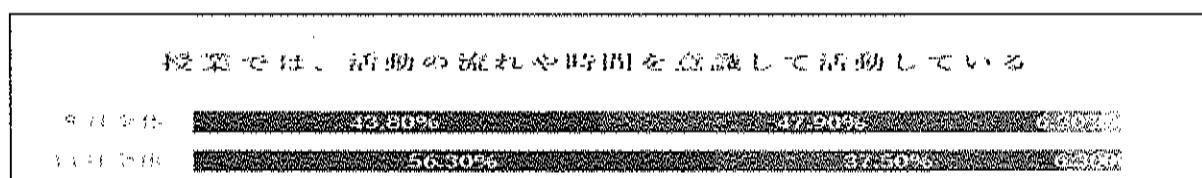


図6 「学び方のアンケート」項目⑤

イ 授業づくり重点方策による児童の学び続ける姿勢や学びを活用しようとする意識の変容

授業づくり重点方策を3点設定して共通理解を図り、授業改善と学校行事等で学びを発揮する場面を工夫した。

「進んで学び続ける力」育成のための授業づくり重点方策①は「合科・関連的単元構想による学習課題の工夫」とし、相手意識をもたせ学びを発揮する具体的な学習課題を設定したことで、例えば「おもちゃまつりで1年生に分かりやすく説明するために」（2年生：国語と生活科の合科・関連的単元構想）等学習する意義を感じながら粘り強く取り組む児童の姿が見られた。

意識調査「学び方についてのアンケート」の項目⑥「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自ら取り組んでいますか」に「当てはまる」「だいたい当てはまる」という肯定的回答は11月結果で81.3％であり、9月結果と比較して2.1％増えた（図7）。

これは、合科・関連的単元構想による児童にとって必然性のある課題を設定したことで、児童がより主体的に思考して学び続けた結果と考える。

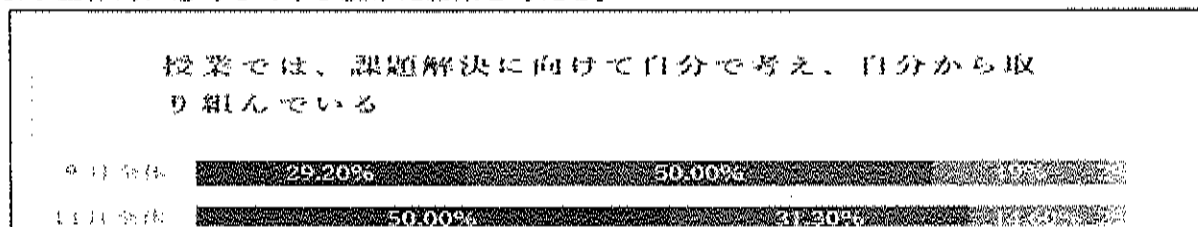


図7 「学び方のアンケート」項目⑥

児童の「自ら考えを広げ、深める力」育成を目指す授業づくり重点方策②は「関連付け・整理・表現する過程の視覚化」とし、グループワーク・クラスワークで「まなボード」「短冊」等の道具を活用し、意見を図や表に整理する思考の可視化を図った。

グループワーク・クラスワークで出た多様な意見を観点に沿って図や表に整理させることで、児童がキーワードに印をつけながら意見の共通点や相違点に着目、比較してよりよい考えを導き出そうとする姿、友達のよりよい考えを取り入れ自分の考えの記述を加除修正する姿が見られた。

意識調査「学び方についてのアンケート」の項目⑧「国語の授業では、自分の考えを理由が分かるように表現を工夫して書いている」に肯定的回答は11月結果で83.4％であり、9月結果より10.5％増えた（図8）。

また、項目⑨「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように工夫して書いている」に肯定的回答は81.3％であり、9月結果より12.6％増えた（図9）。

これは、他者との対話を意識してより分かりやすく説明するために国語科では根拠を、算数科では式や算数用語を関連付けて自分の考えを工夫して記述しようとする児童の意識変容の結果と考える。

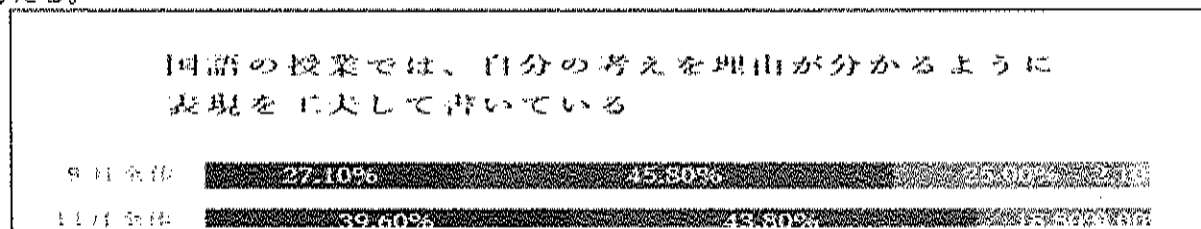


図8 「学び方のアンケート」項目⑧

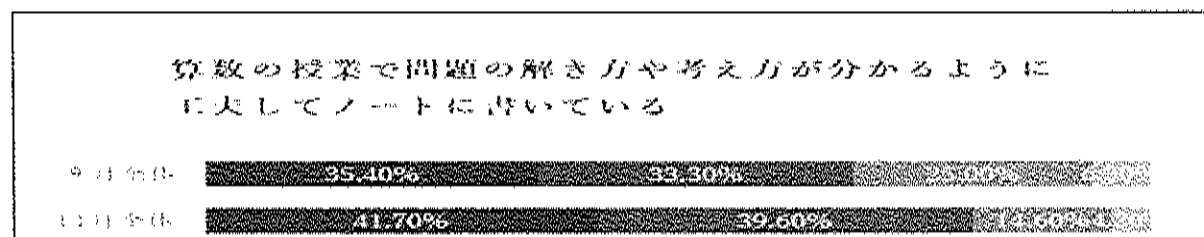


図9 「学び方のアンケート」項目⑨

項目⑮「国語の授業では、言葉の特徴や使い方について学んだことを使っている」に肯定的回答は11月結果で93.8%であり、9月結果より18.8%増えた(図10)。

項目⑯「算数の授業で問題を解く時に自分で考えた後に友だちのよりよい考えを使おうとしている」に肯定的回答が11月結果は91.7%であった(図11)。

この2つの結果は、児童が国語科で学んだ知識を文脈や状況を考えて適切に活用しようとする意識、算数科における多様な考えの比較からより速く正確に求められる等考え方のよさを判断して適用しようとする意識を働かせていた結果と考える。

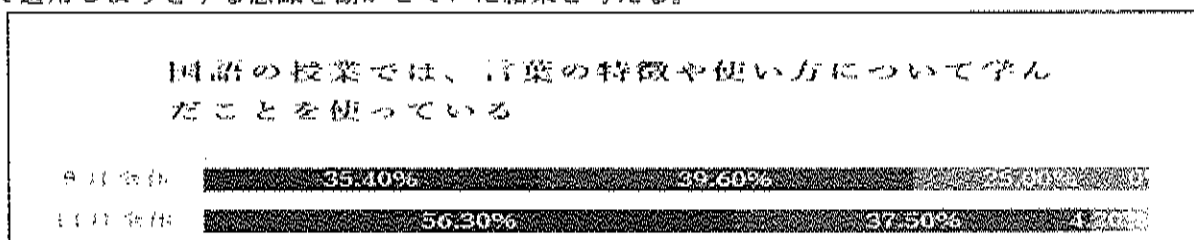


図10 「学び方のアンケート」項目⑮

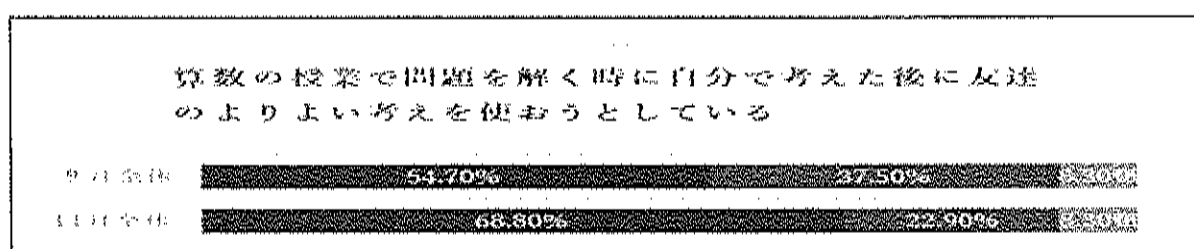


図11 「学び方のアンケート」項目⑯

「学びの獲得と実生活での発揮、新たな学びの創出」を目指す授業作り重点方策③は「特別活動・行事での学びの発揮・発信」として、学校行事を児童主体の実行委員会による計画・実施・評価・次の活動へ活かすPDCAサイクルを確立し、自己決定する場面を多く経験させた。これにより、体育大会の競技説明において国語科で学んだ分かりやすい説明のポイントを使って下級生に伝えたり、地域ありがとう集会に向けてお世話になった地域の方へよりよい表現を使って案内状を書いたり学びの成果を相手や場面に応じて適応させて発揮する児童の姿が多く見られた。また、今年度、本校の教育課程に合わせて開発したキャリア・パスポートを活用し、行事实施に向け自己の工夫や努力を見つめて記述する時間を確保したことで、児童がよりよい行事になるように進んでアイデアを出して話し合い、決定した取り組みに主体的に取り組む姿が多く見られた。

意識調査「学び方についてのアンケート」の項目④「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」に肯定的回答は11月結果で89.6%であり、9月結果より4.3%増えた(図12)。

項目⑦「話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」に肯定的回答は11月結果で87.5%であり、9月結果より8.3%増えた(次頁 図13)。

項目③「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」に肯定的回答は11月結果で98%と高く(次頁 図14)、項目①「自分にはよいところがあると思う」に肯定的回答は11月結果で75%であり、9月結果より6.2%増えた(次頁 図15)。

これは、学校行事の工夫とPDCAサイクル確立により児童自身が課題への挑戦や達成感を味わいながら活躍していること、児童が計画・実施・評価するという過程に教師がその努力やよさを認める声かけをし、行事前後に児童が自分の工夫や成長をキャリア・パスポートに記述してメタ認知する時間を設けたことで児童の自己肯定感が高まった成果と考える。

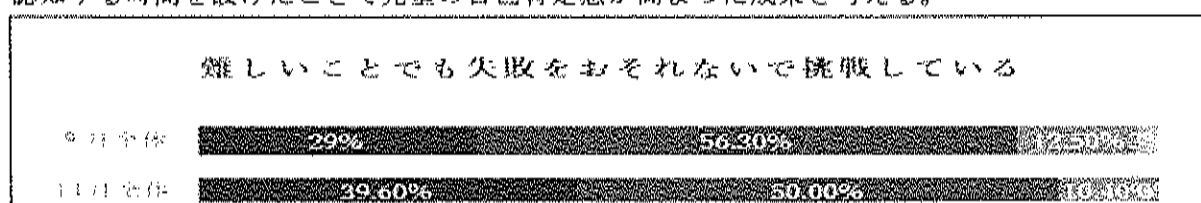


図12 「学び方のアンケート」項目④

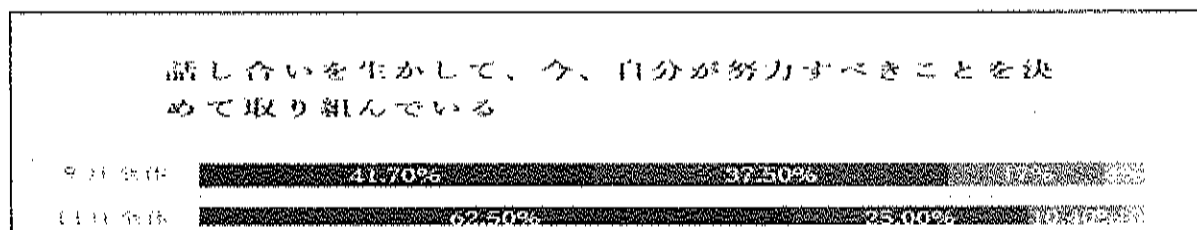


図13 「学び方のアンケート」項目⑦

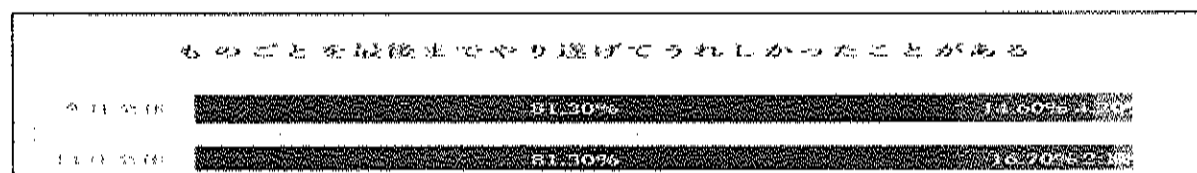


図14 「学び方のアンケート」項目③

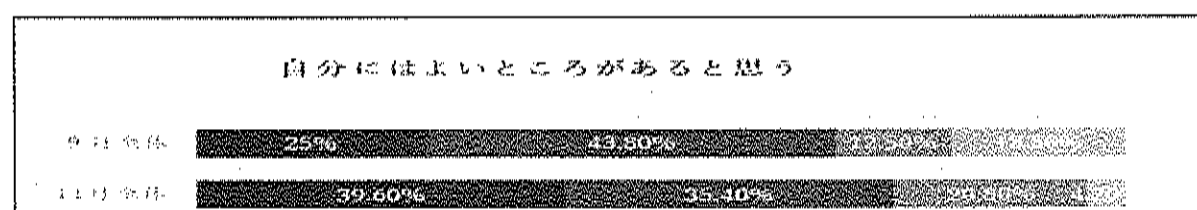


図15 「学び方のアンケート」項目①

(2) 課題

ア 指導と児童の学びの評価を連動させる手立ての構築

課題は、指導と評価の一体化を促す手立ての構築である。今年度、他者との対話で「関連付け・整理・表現する過程の視覚化」の一つとして思考の流れがわかるワークシートの在り方を検討した。そして、ワークシートに「今日のまとめ」として「学習内容のまとめ」「学習方法のまとめ」の2項目を設けて、児童に授業で学んだポイントを記述させた。

しかし、授業研究会では教科と授業内容によっては本時のめあてと「学習内容のまとめ」「学習方法のまとめ」の2項目をうまく対応させることができなかった、「学習内容のまとめ」「学習方法のまとめ」の2項目と児童による振り返り（「分かったこと」等の自己評価）が重複してしまいがちである等、指導と評価の一体化の難しさが浮き彫りとなった。今後も、めあてとまとめ、児童の学びの自己評価をうまく連動する手立てを模索していく。

また、来年度からの児童一人一台のタブレット活用を通して思考の過程を残したり、保存されたアイデアを基に新しい発見や豊かな発想を生み出したりする授業の在り方やその評価方法についても先進校の実践を学び、本校児童にとって最適な授業を目指し、実践を重ねていく。

2 「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」育成を支える組織運営と教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくPDCAサイクルの確立

(1) 成果

ア 多様な意見の集約・共有・実践を支えた組織運営

今年度は、教育課程実施、評価への全職員による参画を目指し、校内研究組織と校務分掌を連動させた3部（「学びづくり」「心づくり」「体（環境）づくり」）編成とした。

校内研究では、校長・教頭・教務（兼：教育課程研究主任）、3部長による研究推進委員を経て、校内研究全体研修会での主体的・対話的で深い学び実現に向けた提案をし、共通実践に取り組んだ。7月には1学期実践を出し合って学習司会や話し合いレベルの系統表を作成、上・下学年部会による3回の指導案検討会を経て11月には相互授業参観、ワークショップ型授業研究会を実施し、学年や立場を超えて成果と課題を共有することができた。

そして、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のリスク低減のために様々な対策や措置を講ずることが求められた。校長・教頭・教務・事務職員・養護教諭による企画委員会、3部長

も含めた検討委員会を組織してそれぞれの立場からの知恵や経験を集約して協議し、全職員の共通理解を図りながら教育活動計画・実践に反映させることができた。また、気になる子への指導についてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療関係者等専門家の助言を適切に受け、連携を深めて支援体制を整えていくことができた。

イ 保護者・自己・地域評価を反映させ、計画的に時期を設定したPDCAサイクルの確立

教育課程の実施状況の評価については、6月と11月に保護者対象の学校評価アンケートを実施し、その集計の分析・対策・家庭で協力をお願いすることを掲載した「うったん学習通信」を配布し、結果公表と保護者啓発を図った。その結果、11月学校評価アンケートで肯定的回答が81%以上の結果は全23項目中19項目、6月結果より肯定的回答が増えたのは全23項目中18項目となり、保護者は概ね学校の教育活動に対して満足していると考えられる。

12月には教師の自己評価として、1・2学期の実践をふり振り返り、今年度の合科・関連的年間単元配列表の順序や関連性について現担任が修正した。さらに、校内研究や校務アンケート集約も前倒しし、各行事終了後に集約しておいた反省と合わせ、内容や時期、分担を見直し、次年度の年間計画・教育課程作成を2月末には完成させた。

そして、1月に地域の外部人材評価として、学校評議員会で学校の取り組みや学校職員による自己評価について意見をいただき、保護者・自己・地域評価を3学期の学級経営・授業実践に反映させた。このように分析・評価の時期を前倒し・分散させることで、時間的余裕をもって多様な立場からの意見を吸い上げ組織的に実践を評価し、成果と課題を次年度計画へ生かすことができた。

(2) 課題

ア 共有した成果と課題を受けたさらなる教育活動の質の向上

計画的に分析・評価の時期を設定することで全職員の意見を吸い上げることができたが、さらなる教育活動の質の向上のためには、次年度へ何を残し、何を削るかを明確にして教育課程や行事計画に反映させていくことが重要である。今後も行事实施1週間後には反省を集約して共有し、次の行事や次年度計画案に活かす意識をもって資料作成・記録・実践していくことで、評価を効果的にカリキュラム・マネジメントに反映させていく。

現在、ウィズ・コロナ社会の「新しい生活様式」が示され、学校においても感染症対策と学びの保障の両立に向けた取り組みを積み重ねている。児童学習司会や実行委員会形式による学校行事運営等本校の特徴や保護者・地域評価を活かしてさらに児童の主体性や協働的な学び合いを支える教育課程編成・実施・評価・改善を推進していく。

3 「進んで学び続ける力」「自ら考えを広げ深める力」育成を支える地域人材活用授業と「地域資源バンク年間計画表」作成と活用・見直し

(1) 成果

ア 地域人材との連携組織体制と実生活をつなげる地域人材活用授業

本校は、小規模校、単式学級校であり、クラス替えが出来ないことで、児童の人間関係が固定され、様々な人と関わり社会性を育む機会が限られている課題がある。そこで、地域人材の協力を得た学校行事や総合的な学習の時間等を仕組み、各教科等の学習で得た知識を様々な体験活動の中で実感を持って理解させたり、地域の課題解決のために自分たちでできる行動を校内や地域の方へ発信させたりする学習活動を計画し、実施した。

教頭・教務が窓口となり、質の高い教育活動の具現化と児童の安全確保（熱中症対策、新型コロナウイルス拡大防止等）の観点から本校児童にとって真に必要な活動に絞り込み、合科・関連的単元配列表を基に適切な実施時期、内容を地域人材と協議、学級担任と調整を経て、実施した。

安全教育では、水害時避難訓練において地域の民生委員や登下校見守りボランティア、地区担当教員と児童が危険箇所を確認しながら集団下校したり、不審者避難訓練、薬物乱用防止教室で唐津警察署員からの具体的な対処法等の指導を受けたりすることで児童の危険回避意識の高揚を図ることができた。

国語科では4年「俳句作り」や6年「狂言体験」、社会科では6年「租税教室」や5年「トヨタリモート教室」、「防災教室」、理科では3年「電気博士になろう」、総合的な学習での「そば栽培」、「厳木川の水質調査」、「水生生物調査」、「福祉体験講座」など24回の体験活動に農家、狂言師、市役所職員、県環境サポーター、武雄河川事務所員、大学教授など延べ約80人の協力

を得ることができた。

そして、地域人材を活用した体験学習から児童は、地域課題解決に向け考えを広げ深め、自分にできる行動（4年「厳木川の水質を守るために看板を作ってごみを捨てないように呼びかける」、5年「車いすを使っている方が安心して外出できるように自分から声をかける」等）をまとめた新聞を掲示し、校内や地域の方に発信した。

児童対象「よりよい学校にするためのアンケート」項目②「地域の人・もの・ことを活用した体験型学習は好きですか」に11月結果での肯定的回答は98%（図16）であった。

これは、地域資源を活用した体験活動により児童の学習への興味・関心を一層高められた結果と考える。

② 地域の人・もの・ことを活用した体験型学習が好きですか。

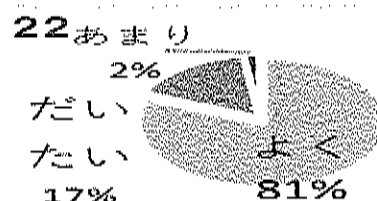


図16 児童対象「よりよい学校にするためのアンケート」項目②

イ 「地域資源バンク年間計画表」作成・見直し

知識と経験が豊かな地域人材を活用して教育活動をより効果的に展開していくために地域人材・地域資源（物）・予算・必要時間を学年ごとに「地域資源バンク年間計画表」（図17）を作成した。そして、12月には全職員で今年度の実践と児童の実態を踏まえて実施時期や内容等を見直し、「地域資源バンク年間表」を修正して次年度計画へ活かすようにした。

4年 荻木小学校 地域の資源・人材バンク					
	人	モノ	カネ(予算)	情報	時間
4月	・交通安全教室（交通安全委員・交通指導員）				・15分
5月	・荻木川水質調査員（町民ボランティア） ・川を掃除員・水質調査員・水質改善員 ・水質調査員・水質調査員（水質調査員）			・荻木川水質調査員（水質調査員） ・水質調査員・水質調査員	・15分 ・30分
6月	・水質調査員（水質調査員） ・水質調査員（水質調査員） ・水質調査員（水質調査員）	・水質調査員（水質調査員） ・水質調査員（水質調査員） ・水質調査員（水質調査員）		・水質調査員（水質調査員） ・水質調査員（水質調査員）	・30分 ・30分 ・30分

図17 「地域資源バンク年間計画表」（4年生）の一部

(2) 課題

今年度の体験活動は地域からの人材支援で教育活動の充実を図った。例えば、郷土学習の場合は郷土の歴史や産業に詳しい人物とともに歴史史跡の現地見学、川の水質調査等体験活動などを行い、昔の人の知恵や努力、願いを知り、環境汚染等現在の課題に目を向け、自分たちでできる行動を考え、「地域ありがとう集会」で新聞を掲示したり、発表したりした。

今後は、この「地域からの支援」を超えて、長期的な双方向性のある展望を持った「協働」に向かうことを目指す。児童の実態に応じた体験学習の開発や郷土の現在の課題解決のために自分や地域住民でできる持続可能な取り組みの地域社会への発信、行動化の活動を充実させていく。そして、次代を担っていく児童へ地域社会の担い手、伝統文化の継承者としての意識を醸成することで地域の持続・発展の芽を育てていきたい。そのために、教育活動のねらいや役割分担を明確にしての地域人材との協議、連携をさらに深め、体験活動の充実と自己評価を継続的に実施して「地域資源バンク年間計画表」の更新へ活かし、児童の地域社会への発信、行動化の在り方を探っていききたい。

さらに、ウィズ・コロナ時代における「社会に開かれた学校教育課程」として、Zoomを活用して専門家にリアルタイムで質問し、答えをいただけた5年社会科「トヨタリモート授業」のようなICTを通しての体験学習とオンラインでつながる外部人材発掘、感染症防止に配慮した地域人材活用授業の改善を図っていく。

《参考文献》

- ・ 文科省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』 平成29年 7 月
- ・ 田中 耕治編 『学びを変える新しい学習評価 理論・実践編 1 資質・能力育成と新しい学習評価』 2020年 ぎょうせい
- ・ 田中 耕治編 『学びを変える新しい学習評価 理論・実践編 2 各教科等の学びと新しい学習評価』 2020年 ぎょうせい
- ・ 田中 耕治編 『学びを変える新しい学習評価 理論・実践編 3 評価と授業をつなぐ手法と実践』 2020年 ぎょうせい
- ・ 加藤 明 『新学習指導要領をひもとく』 2019年 文溪堂
- ・ 田村 学 『深い学び』 2018年 東洋館出版
- ・ 佐賀大学教育学部・佐賀大学教育学部附属小学校・佐賀大学教育学部附属中学校
『教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究 実践事例集（2年次）』 2019年
- ・ 文科省 『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm
- ・ 文科省 『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）の概要』
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/17/1415602_2_1_1.pdf

ご指導をいただいた先生

- ・ 西部教育事務所北部支所指導主任 牛草 美佳先生
- ・ 佐賀市立兵庫小学校 教諭 井手 俊宏先生

令和2年度 研究同人

- ・ 校長 藤田 郁夫
- ・ 教頭 行徳 武彦
- ・ 事務主幹 市丸 泰弘
- ・ 指導教諭 小野 単子（教育課程研究主任）
- ・ 教諭 円城寺 理絵（学びづくり部（授業研究部）主任）
- ・ 教諭 吉原 逸子（心づくり部主任）
- ・ 教諭 中島 悠作（環境づくり部主任）
- ・ 教諭 千住 美貴
- ・ 教諭 佐藤 まり
- ・ 教諭 古舘 大輔
- ・ 教諭 白木 佳子
- ・ 養護教諭 鶴田 成美
- ・ 用務員 古川 泰子
- ・ 司書補 米倉 清美
- ・ 生活支援員 飯田 裕紀



唐津市立簗木小学校

令和3年 3月